Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX P500

クールピクス P500

使用説明書

Jp

商標説明

- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。iFrameのロゴおよびシンボルは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDXC、SDHC、SDロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
http://www.mpegla.comをご参照ください。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は以下のようになっています。

⚠危険	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠警告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、以下の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

 使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
 発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
 保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
 保管注意	**ストラップが首に巻きつかないようにすること** **特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
 警告	**指定の電源(電池、本体充電ACアダプターまたはACアダプター)を使うこと** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
 使用禁止	**充電時やACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。

 保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
 保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けて太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
 移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
 使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
 電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源(電池、本体充電ACアダプターまたはACアダプター)を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因になることがあります。 本体充電ACアダプターやACアダプターをお使いの際には、電源プラグをコンセントから抜いて、その後でカメラを取り外してください。火災の原因になることがあります。
 発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。
 禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
 放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります。

禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL5は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX P500に対応しています。EN-EL5に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

	電池は幼児の手の届かないところに置くこと 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
	変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（本体充電ACアダプターについて）

分解禁止	**分解したり修理・改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると、火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
禁止	**ケーブルを傷つけたり、加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、むりに曲げたりしないこと** ケーブルが破損し、火災、感電の原因となります。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。
禁止	**海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）や DC/AC インバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠注意
（本体充電ACアダプターについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置禁止	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P500をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

- カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
- カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。
- カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
- 関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、およびSDXC メモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上や電子ビューファインダー内の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録できます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/support/

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、本体充電ACアダプター、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5 には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。

ホログラムシール

- 模倣品のLi-ion リチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

  http://www.nikon-image.com/support/manual/

  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

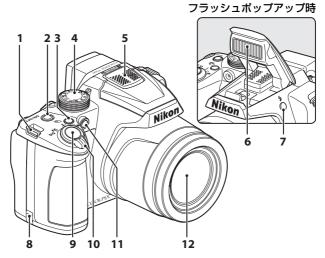
メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（📖187）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

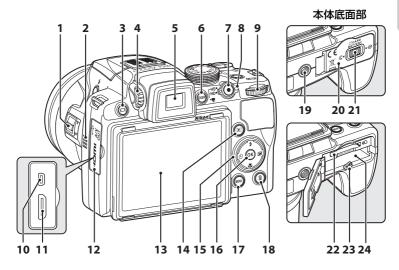
●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

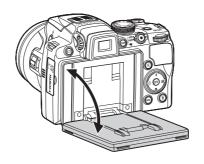
VCCI-B

各部の名称

カメラ本体

1	ストラップ取り付け部..................7
2	電源スイッチ/電源ランプ ...23、199
3	（連写設定）ボタン ......59、77
4	モードダイヤル 44
5	マイク（ステレオ）........ 142、157
6	フラッシュ 36
7	（フラッシュポップアップ）ボタン .... 7、36
8	パワーコネクターカバー（別売ACアダプター接続用）...213

9	シャッターボタン...............15、32
10	ズームレバー ....31 W：広角ズーム......................31 T：望遠ズーム......................31 ：サムネイル表示............115 ：拡大 ....118 ：ヘルプ..............................45
11	セルフタイマーランプ...............39 AF補助光...................................196
12	レンズ............................209、229

1	サイドズームレバー.................. 31
2	スピーカー.................... 143、168
3	|◻|（モニター）ボタン............ 16
4	視度調節ダイヤル...................... 30
5	電子ビューファインダー...16、30
6	DISP（表示切り換え）ボタン.......17
7	●（動画撮影）ボタン.......157
8	動画モードスイッチ.................157
9	コマンドダイヤル...................... 11
10	USB/オーディオビデオ出力端子 ....171、174、180
11	HDMIミニ端子........................171
12	端子カバー...........171、174、180
13	液晶モニター................8、17、29
14	▶（再生）ボタン......................34
15	マルチセレクター......................12
16	Ⓚ（決定）ボタン......................12
17	MENU（メニュー）ボタン ...13、45、82、135、163、186
18	🗑（削除）ボタン ....35、143、170
19	三脚ネジ穴
20	バッテリー/SDカードカバー ....18、26
21	ロックレバー......................18、26
22	SDカードスロット.....................26
23	バッテリーロックレバー ....18、19
24	バッテリー室.............................18

液晶モニターの角度を変える

液晶モニターの角度は、下向きに82°、上向きに90°動かせます。カメラを高い位置や低い位置に構えて撮影するときなどに便利です。

液晶モニターについてのご注意

- 液晶モニターの角度を変えるときは、無理な力を加えないでください。
- 液晶モニターは、左右方向には動かせません。
- 通常は、液晶モニターの位置をもとに戻してお使いください。

フラッシュのポップアップと収納

⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押すと、フラッシュがポップアップします。

- フラッシュの設定方法→「フラッシュを使う」（📖36）
- フラッシュを使わないときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げて収納します。

ストラップとレンズキャップの取り付け方

レンズキャップをストラップに取り付けてから、ストラップをカメラに取り付けます（2カ所）。

✔ レンズキャップについて

- 撮影するときはレンズキャップを外してください。
- 電源を OFF にしているときや持ち運び中など、撮影していないときは、レンズキャップをカメラに取り付けてレンズを保護してください。

液晶モニターの表示内容

説明のため、すべての表示を点灯させています。
モニター表示の切り替え方は、17ページをご覧ください。

撮影時

※ アイコンは、撮影モードによって異なります。

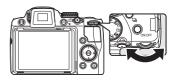
再生時

1	撮影日 24
2	撮影時刻 24
3	プロテクト表示........................139
4	連写グループ表示..........113、145
5	音量表示 ....142、168
6	お気に入りフォルダー表示※1 .... 124 オート分類項目表示※1 129
7	バッテリー残量表示...................28
8	動画の種類※2 164
9	画質※2 83
10	画像サイズ※2 84
11	かんたんパノラマ表示...............62
12	(a)画像の番号/全画像数 ....34 (b)動画の再生時間...................168
13	内蔵メモリー表示......................34
14	かんたんパノラマ再生ガイド ....62 連写グループ再生ガイド......... 113 動画再生ガイド....................... 168
15	黒フレーム.............................. 155
16	フィルター効果済み表示......... 152
17	美肌編集済み表示................... 150
18	プリント指定表示................... 135
19	スモールピクチャー ......154、156
20	D-ライティング済み表示........ 149
21	簡単レタッチ済み表示 148
22	音声メモ表示.......................... 142
23	ファイル名.............................. 215

※1 再生時に選んだお気に入りフォルダーやオート分類項目のアイコンが表示されます。
※2 アイコンは、撮影時の設定によって異なります。

主なボタン操作

コマンドダイヤル

コマンドダイヤルを回すと、メニュー画面で項目を選んだり、以下の機能を設定したりできます。

撮影時に使う

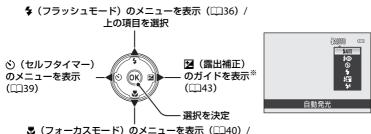
状態	内容	📖
モードダイヤルがPのとき	プログラムシフト量の設定	71
モードダイヤルがSのとき	シャッタースピードの設定	72
モードダイヤルがAのとき	絞り値の設定	73
モードダイヤルがMのとき	シャッタースピードまたは絞り値の設定（設定する項目はマルチセレクターの▶を押して切り換えます。）	74

再生時に使う

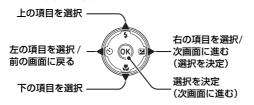
状態	内容	📖
1コマ表示またはサムネイル表示	画像の選択	34、111、115
カレンダー表示	日付の選択	117
拡大表示	拡大倍率の変更	118
動画の再生中	早送り/巻き戻し	168
動画の一時停止中/編集中	コマ送り/コマ戻し	168

マルチセレクター

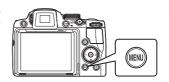
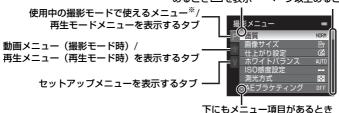
上（▲）、下（▼）、左（◀）、右（▶）、または®ボタンを押して操作します。

撮影時に使う

※ 撮影モードM（マニュアル露出）のときは、コマンドダイヤルを回したときにシャッタースピードを設定するか、絞り値を設定するかを選びます（74）。

再生時に使う

メニュー画面で使う

MENU（メニュー）ボタン

MENUボタンを押すと、選んでいるモードに応じたメニューを表示して、メニュー項目を設定できます。

- 各メニュー項目を設定するには、マルチセレクターを使います（□12）。

※ 表示されるタブは、選んでいる撮影モードによって異なります。

- （オート撮影）：オート撮影メニュータブ
- SCENE（シーン）：シーンメニュータブ（□45）
- （夜景）：夜景メニュータブ（□48）
- （夜景ポートレート）：夜景ポートレートメニュータブ（□49）
- （逆光）：逆光メニュータブ（□50）
- （ベストフェイス）：ベストフェイスメニュータブ（□67）
- **P**、**S**、**A**、**M**、**U**：撮影メニュータブ（□81）

メニュー画面のタブの切り換え方法

MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面では、左端のタブを選ぶと、選んだタブのメニューに切り換わります。

マルチセレクターの◀を押してタブに移動します。

マルチセレクターの▲▼を押してタブを選び、OKボタンまたは▶を押します。

選んだタブのメニューが表示されます。

メニューの基本操作

1 MENU（メニュー）ボタンを押す

2 マルチセレクターの ▲▼ で項目を選び、▶または®ボタンを押す

- コマンドダイヤルを回しても、項目を選べます（□11）。
- タブを切り換えたいときは、◀を押します（□13）。

マルチセレクター

3 ▲▼で項目を選び、®ボタンを押す

- 設定が確定します。

4 設定が終わったら、MENU（メニュー）ボタンを押す

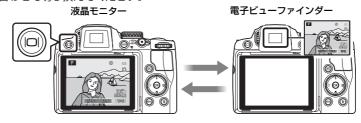
- メニューの表示が終了します。

シャッターボタンの半押しと全押し

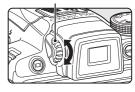
- 半押し：シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出（シャッタースピードと絞り値）が合います。半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 全押し：半押しの状態から、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

半押しすると、ピントと露出が固定　　そのまま深く押し込んで撮影

|□|（モニター）ボタン

|□|（モニター）ボタンを押すたびに、液晶モニターまたは電子ビューファインダーのどちらかにモニター表示が切り換わります。明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは電子ビューファインダーを使用するなど、撮影状況に合わせて切り換えてください。

電子ビューファインダーの視度調節について

電子ビューファインダーの視度が合わず、表示が見えにくいときは、視度調節ダイヤルで視度を調節できます。ファインダーをのぞきながら、表示が最もはっきり見える位置まで視度調節ダイヤルを回してください。

- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

DISP（表示切り換え）ボタン

DISP（表示切り換え）ボタンを押すたびに、撮影時や再生時に液晶モニターに表示する情報の切り換えができます。

撮影時

情報ON
撮影画像と撮影情報を表示します。

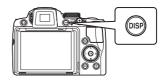
動画枠表示
動画の写る範囲を枠線で表示します。

情報OFF
撮影画像だけを表示します。

再生時

画像情報ON
再生画像と画像情報を表示します。

撮影情報ON
（動画は除く）
ハイライト表示※1とヒストグラム※2、撮影情報※3を表示します。

情報OFF
再生画像だけを表示します。

※1 画像の中の非常に明るい部分（ハイライト部分）を点滅表示します。露出補正などで画像の明るさを調整する際の目安になります。

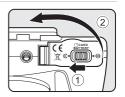
※2 ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表す山状のグラフのことです。横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。

※3 ここで表示される撮影情報は、フォルダー名、ファイル名、撮影モード **P**、**S**、**A**、**M**、シャッタースピード、絞り値、露出補正値、ISO感度、画像番号/全画像数です。撮影モードが、、SCENE、、、、、**P**のときには**P**と表示されます。

バッテリーを入れる

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池）をカメラに入れます。

- ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してからお使いください（□20）。

1 ロックレバーを⊲側にスライドし（①）、バッテリー/SDカードカバーを開ける（②）

2 バッテリーを入れる

- バッテリーでオレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押し下げながら（①）、奥まで差し込みます（②）。
- 奥まで差し込むと、バッテリーロックレバーでバッテリーが固定されます。

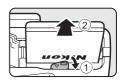
バッテリー室

✔ 逆挿入に注意

バッテリーの向きを間違えると、カメラを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー/SDカードカバーを閉じ（①）、ロックレバーを▸⊖側にスライドさせる（②）

バッテリーを取り出すときは

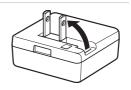
電源をOFFにして（□23）、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けます。
オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと（①）、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

- カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SD カードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

バッテリーについてのご注意

- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「危険」（□iv）、「警告」（□iv）、「注意」（□iv）の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」（□211）をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- 長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。

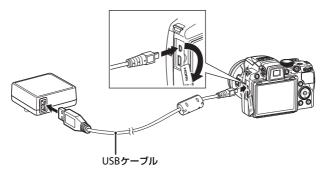
バッテリーを充電する

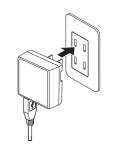
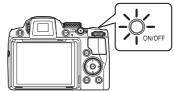
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池）を入れたカメラを家庭用コンセントに接続して充電します。
接続には付属の本体充電ACアダプター EH-69PとUSBケーブル UC-E6を使います。

1 本体充電ACアダプター を用意する

2 バッテリーをカメラに入れる（□18）

- 電源をONにしないでください。

3 付属のUSBケーブルでカメラと本体充電ACアダプターを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 電源プラグをコンセントに差し込む

- カメラの電源ランプがオレンジ色でゆっくり点滅し、充電が始まります。
- 残量がないバッテリーの場合、フル充電までの時間は約4時間50分です。

- コンセントに接続しているときの電源ランプの状態と意味は以下のとおりです。

電源ランプ	意味
ゆっくり点滅（オレンジ色）	充電中です。
消灯	充電していません。ゆっくりした点滅（オレンジ色）から消灯に変わると、充電の完了です。
速い点滅（オレンジ色）	• 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ～ 35 ℃の室内で充電してください。 • USB ケーブルまたは本体充電 AC アダプターが正しく接続されていないか、バッテリーの異常です。正しく接続し直すか、バッテリーを交換してください。

5 コンセントから本体充電AC アダプターを外し、USBケーブルを外す

本体充電ACアダプターについてのご注意

- 本体充電ACアダプター EH-69Pに対応している機器以外で使わないでください。
- EH-69P をお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」(□v)、「注意」(□v)の注意事項を必ずお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」(□211)をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- EH-69Pは、家庭用電源のAC 100 − 240 V、50/60 Hz に対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。
- EH-69P はカメラ内のバッテリーを充電するための AC アダプターです。カメラを EH-69Pでコンセントに接続しているときは、カメラの電源はONにできません。
- EH-69P 以外の本体充電 AC アダプター、USB-AC アダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

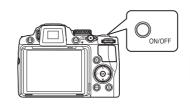
AC電源について

- 別売のACアダプター EH-62A（□213）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給して撮影または再生ができます。
- EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

パソコンや充電器で充電する

- COOLPIX P500をパソコンに接続してもEN-EL5を充電できます（□178、202）。
- 別売のバッテリーチャージャー MH-61（□213）を使うと、カメラを使わずにEN-EL5を充電できます。

電源をON/OFFするには

レンズキャップを外してから、電源をONにします。
電源スイッチを押すと、電源がONになります。
電源ランプ（緑色）が点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。
もう一度電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。電源がOFFになると液晶モニター、および電源ランプが消灯します。

- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（□34）。

画面表示について

［**レンズキャップを取り外してから、電源を入れなおしてください**］が表示されたときは、レンズキャップが外れていることを確認してから、電源スイッチを押して電源を入れ直してください。

節電機能について（オートパワーオフ）

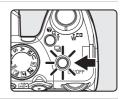
カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。

- 電源ランプの点滅中は、以下の操作で液晶モニターが再点灯します。
  - 電源スイッチ、シャッターボタン、▶ボタン、または●（動画撮影）ボタンを押す。
  - モードダイヤルを回す。
- 撮影時または再生時は、約1分（初期設定）で待機状態になります。
- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（□185）の［**オートパワーオフ**］（□199）で変更できます。

表示言語と日時を設定する

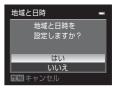
ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- 電源ランプが点灯し、液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。

2 マルチセレクターの▲または▼で表示言語を選び、Ⓚボタンを押す

マルチセレクター

3 ▲または▼で［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 地域と日時の設定を中止するときは［**いいえ**］を選びます。

4 ◀ または ▶ で自宅のある地域（タイムゾーン）（□190）を選び、Ⓚボタンを押す

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）を導入している地域で、その期間中に日時を設定するときは、手順4の地域設定画面で▲を押して夏時間の設定をオンにします。

- オンにすると、画面上部に夏時間マークが表示されます。
- オフにするには、▼を押します。

5 ▲または▼で日付の表示順を選び、Ⓚボタンまたは▶を押す

6 ▲、◀、▼または▶で日時を合わせ、Ⓚボタンを押す

- 項目を選ぶ：▶または◀を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**]、に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：▲または▼を押します。コマンドダイヤル（□11）を回しても変更できます。
- 設定を完了する：[**分**]を選び、レンズキャップが外れていることを確認してから、Ⓚボタンまたは▶を押します。
- 設定が完了すると、レンズが少し繰り出し、撮影画面になります。

日付の写し込みと日時の変更

- 撮影時に日付を画像に写し込むときは、日時を設定した後にセットアップメニュー（□185）の［**デート写し込み**］を設定します（□192）。
- 内蔵時計の日時を変更するときは、セットアップメニュー（□185）の［**地域と日時**］（□188）で設定します。

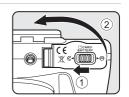
SDカードを入れる

撮影したデータは、カメラの内蔵メモリー（約102 MB）、または市販のSDカード（□214）のどちらかに記録します。

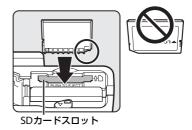
カメラにSDカードを入れるとSDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出します。

- 動画撮影にはSDカードが必要です。

1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開ける

- カバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- カチッと音がするまで差し込みます。

SDカードスロット

逆挿入に注意

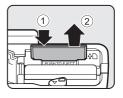
SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

SDカードを取り出すときは

電源をOFFにして、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開けます。

SD カードを指で軽く奥に押し込むと（①）、SD カードが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

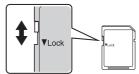
- カメラを使った直後は、カメラやバッテリー、SDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

SDカードの初期化

電源をONにしたときに右の画面が表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化**（□200）**すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
初期化するときは、マルチセレクターで［**はい**］を選び、ⓚボタンを押します。確認画面が表示されたら［**初期化する**］を選び、ⓚボタンを押すと初期化が始まります。

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化（□200）してからお使いください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

SDカードのスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

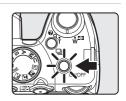
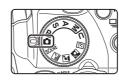
書き込み禁止スイッチ

SDカードの取り扱い上のご注意

- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

ステップ1　電源をONにして◘（オート撮影）を選ぶ

◘（オート撮影）モードでは、細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

1 レンズキャップを外し、電源スイッチを押して電源をONにする

- レンズが少し繰り出し、液晶モニターが点灯します。

2 モードダイヤルを◘に合わせる

3 バッテリー残量表示と記録可能コマ数を確認する

バッテリー残量表示

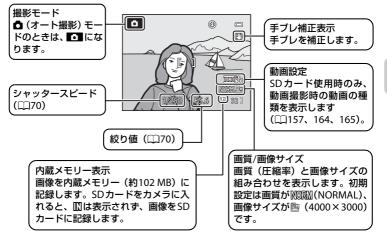
記録可能コマ数

バッテリー残量表示

表示	意味
▭	バッテリー残量はあります。
▭	バッテリー残量が少なくなりました。バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
❶ **電池残量がありません**	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。
記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量、画質、画像サイズによって異なります（□85）。

（オート撮影）モードでの液晶モニター表示

節電による待機状態で液晶モニターが消灯しているとき（電源ランプ点滅中）は（199）、以下の操作で液晶モニターが再点灯します。

- 電源スイッチ、シャッターボタン、▶ボタン、または●（動画撮影）ボタンを押す。
- モードダイヤルを回す。

フラッシュについて

フラッシュを閉じているときは発光禁止に固定され、画面上部にが表示されます。暗いところや逆光などでフラッシュが必要なときは、フラッシュをポップアップしてください（37）。

（オート撮影）モードで使える機能

- フラッシュモード（36）の変更、セルフタイマー（39）、フォーカスモード（40）、および露出補正（43）の設定ができます。
- MENUボタンを押すと、撮影メニューの［**画質**］（83）と［**画像サイズ**］（84）を設定できます。

手ブレ補正について

- 詳しくは、セットアップメニュー（185）の［**手ブレ補正**］（193）をご覧ください。
- 三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

ステップ2　カメラを構え、構図を決める

1 カメラをしっかりと構える

- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- レンズやフラッシュ、AF補助光、マイクなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

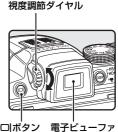
2 構図を決める

- 写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。

電子ビューファインダーを使う

日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、電子ビューファインダーを使って撮影してください。|□|ボタンを押すと、電子ビューファインダーに切り換えられます（□16）。

電子ビューファインダーの視度が合わない場合は、被写体が最もよく見える位置まで視度調節ダイヤルを回してください（□16）。

- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。被写体を大きく写したいときは**T**方向に回します。広い範囲を写したいときは**W**方向に回します。

- 電源をON にしたときは、最も広角側になっています。
- ズームレバーをいっぱいまで回すとズーム動作が速くなり、途中まで回すとズーム動作がゆっくりになります。
- ズームレバーを回すと液晶モニターの画面上部にズームの量が表示されます。
- サイドズームレバー（□5）を**T**または**W**方向に操作しても、ズームの操作ができます。
  サイドズームレバーの機能は、セットアップメニュー（□185）の［**サイドズームレバー設定**］で変更できます（□198）。

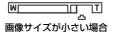
電子ズームについて

光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらにズームレバーを**T**方向に回し続けると、電子ズームが作動します。
電子ズームは、光学ズームの最大倍率の約4倍まで拡大できます。

- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像サイズ（□84）や電子ズーム倍率によって、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、静止画の撮影で画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示も黄色に変わります。
凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像サイズで画質を劣化させずに静止画を撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

画像サイズが小さい場合

- セットアップメニュー（□185）の［**電子ズーム**］（□197）で、電子ズームの倍率を画質が劣化しない範囲内に制限することや、電子ズームを作動しない設定にできます。

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1 シャッターボタンを半押しする

- 半押しする（□15）と、カメラがピントと露出（シャッタースピードと絞り値）を合わせます。半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 画面中央の AF エリア表示に重なっている被写体にピントが合います。ピントが合うと、AF エリア表示が緑色に点灯します。
- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。ピントが合うとAF表示（□8）が緑色に点灯します。
- 半押しして、AF エリアまたは AF 表示が赤色に点滅したときはピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

被写体との距離が近い場合

ピントが合わないときは、フォーカスモードの(マクロAF)（□40）またはシーンモードの［**クローズアップ**］（□55）での撮影をお試しください。

画像の記録についてのご注意

液晶モニターの「記録可能コマ数」が点滅しているときは、画像の記録中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**画像の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、画像が記録されないことや、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAF表示が緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、等距離にある別の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック撮影をお試しください。
マニュアルフォーカスでピントを合わせることもできます（□42）。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける → 半押しする → AF エリアが緑色に点灯したら → 半押ししたまま構図を変える → そのまま深く押し込む

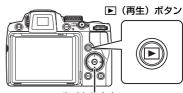
AF補助光について

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押ししたときにAF補助光（□196）が点灯することがあります。

ステップ4　撮影した画像を再生する/削除する

画像を再生する（再生モード）

▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- マルチセレクターの▲または◀で前の画像を表示します。▼または▶で次の画像を表示します。▲▼◀▶を押し続けると早送りできます。コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- 前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、もう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタン、または●（動画撮影）ボタンを押します。
- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INは表示されず、SDカードの画像が再生されます。

節電により液晶モニターが消灯したときは

電源ランプの点滅中は、▶ボタンを押すと液晶モニターが再点灯します（□199）。

再生モードで使える機能

詳しくは、「いろいろな再生」（□111）または「画像の編集」（□146）をご覧ください。

▶ボタンによる電源ON

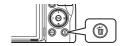
電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。このとき、レンズは繰り出しません。

画像の再生について

- |□| ボタンを押すと、液晶モニターと電子ビューファインダーのどちらで再生するか切り換えできます（□16）。
- **DISP**ボタンを押すと、液晶モニターに表示される画像情報や撮影情報の表示/非表示を切り換えできます（□17）。
- 顔認識（□97）またはペット検出（□59）して撮影した画像は、1コマ表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（連写（□76）または［**AEブラケティング**］（□94）を設定して撮影した画像を除く）。
- 連写した画像の場合、一度の連写で撮影した複数の画像が1つのグループとなり、代表画像1コマのみを表示します（連写グループ表示→□113）。

不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示して🗑ボタンを押す

- 削除をやめるときは、MENUボタンを押します。

2 マルチセレクターの▲または▼で削除方法を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**表示画像**］：表示している1コマまたは音声メモ（📖143）画像を削除します。
- ［**削除画像選択**］：複数の画像を選んで削除します。→「削除画像選択画面の操作方法」
- ［**全画像**］：すべての画像を削除します。

3 ▲または▼で［**はい**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 削除した画像は、元に戻せません。
- 削除をやめるときは、［**いいえ**］を選んでⓀボタンを押します。

削除画像選択画面の操作方法

1 マルチセレクターの◀または▶で削除したい画像を選び、▲で✅を表示する

- 選択を解除するときは、▼を押して✅を非表示にします。
- ズームレバー（📖4）を**T**（🔍）方向に回すと1コマ表示に、**W**（⊞）方向に回すと一覧表示に切り換わります。

2 削除したい画像すべてに✅を表示し、Ⓚボタンを押して選択を決定する

- 確認画面が表示されます。画面の表示に従って操作します。

✔ 画像削除についてのご注意

- 削除した画像は元に戻せません。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- プロテクト設定した画像は、削除されません（📖139）。
- 連写した画像の削除について→「連写グループの画像を削除する」（📖114）

🖉 撮影モードで画像を削除する

撮影時に🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像を削除できます。

フラッシュを使う

暗いところや逆光などでは、フラッシュをポップアップするとフラッシュ撮影ができます。フラッシュの発光モード（フラッシュモード）を撮影状況に合わせて設定できます。

• フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約0.5～8.0 m、望遠側で約2.2～4.5 mです（[**ISO感度設定**] が [**オート**] 時）。

AUTO	**自動発光**
	暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減自動発光
	人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます。
	発光禁止
	フラッシュは発光しません。
	強制発光
	被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。
	スローシンクロ
	強制発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。 夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景を写します。
	リアシンクロ
	シャッターが閉じる直前にフラッシュを強制発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したいときなどに適しています。

フラッシュモードの設定について

• フラッシュモードの初期設定は、撮影モード（□44）によって異なります。
  - （オート撮影）：AUTO 自動発光。
  - SCENE（シーン）：シーンによって異なります（□46～59）。
  - （夜景）：発光禁止に固定。
  - （夜景ポートレート）：赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定。
  - （逆光）：強制発光に固定（[**HDR**] OFF時）、発光禁止に固定（[**HDR**] ON時）（□50）
  - （ベストフェイス）：AUTO 自動発光（目つぶり軽減OFF時）、発光禁止に固定（目つぶり軽減ON時）（□68）。
  - **P**、**S**、**A**、**M**、**U**：AUTO 自動発光。
• 他の機能と同時に使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）
• 以下の場合、フラッシュモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
  - 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合
  - （オート撮影）モードで、（赤目軽減自動発光）にして撮影した場合

フラッシュモードの設定方法

1 ⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押す

- フラッシュがポップアップします。
- フラッシュを閉じているときは㊋（発光禁止）に固定されます。

2 マルチセレクターの⚡（フラッシュモード）を押す

- フラッシュモードの設定メニューが表示されます。

3 マルチセレクターの ▲ または ▼ でモードを選び、OKボタンを押す

- 設定したフラッシュモードが表示されます。
- ⚡AUTO（自動発光）にするとモニター情報表示（□17）がONでも、⚡AUTOは数秒間で消えます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

✔ フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で軽く押し下げて、閉じてください。

（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（185）の［**手ブレ補正**］（193）を［**OFF**］にしてください。
- 撮影画面にISOが表示されることがあります。ISOが表示されたときは、ISO感度が自動的に上がっています。
- 暗いところなどで撮影するときなど、撮影状況によっては、ノイズを低減する機能が作動することがあります。ノイズ低減の機能が作動すると、画像の記録が終了するまでに時間がかかることがあります。

フラッシュ使用時のご注意

フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込むことがあります。このようなときは、フラッシュを（発光禁止）にするか、フラッシュを閉じて撮影するようおすすめします。

フラッシュ表示について

シャッターボタンの半押し時に、フラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「アドバンスト赤目軽減方式」を採用しています。
フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減します。さらに、画像の記録時に赤目現象を検出すると、赤目部分を画像補正して記録します。
撮影する際は、以下にご注意ください。

- プリ発光するため、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。
- 画像の記録にかかる時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

セットアップメニューの［**赤目軽減プリ発光**］（196）を［**OFF**］にすると、シャッターボタンの全押しですぐにシャッターがきれます。

セルフタイマーを使う

記念撮影などで自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。
セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（🕮185）の［**手ブレ補正**］（🕮193）を［**OFF**］にしてください。

1 マルチセレクターの ⏲（セルフタイマー）を押す

- セルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼で［**10s**］または［**2s**］を選び、㊋ボタンを押す

- ［**10s**］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［**2s**］（2秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- ㊋ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が表示されます。作動中はセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

フォーカスモードを変える

撮影目的に合わせて、以下のフォーカスモードを選べます。

AF　通常AF

被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。レンズから50 cm以上（最も望遠側の場合は2.2 m以上）離れた被写体を撮影するときに使います。

マクロAF

花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。
最短撮影距離はズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（△マークより広角側）では、レンズ前約10 cmまでの被写体にピントを合わせられます。また、最も広角側から3ステップ望遠側のズーム位置では、レンズ前約1 cmまでの被写体にピントを合わせられます。

遠景AF

窓越しの景色や風景、建物などを撮影するときに使います。
シャッターボタンを半押しすると、常にAFエリアまたはAF表示（8）が緑色に点灯します。ただし、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。フラッシュモードは、（発光禁止）になります。

MF　マニュアルフォーカス

レンズ前約1 cm～無限遠（∞）の任意の被写体にピントを合わせられます（42）。

各撮影モードで使えるフォーカスモード

		P、S、A、M、U	SCENE				
AF（通常AF）	○※1	○※1	※2	×	○	○	○
（マクロAF）	○	○		×	×	×	×
（遠景AF）	○	○		○	×	×	×
MF（マニュアルフォーカス）	×	○		×	×	×	×

※1 各撮影モードの初期設定です。
※2 使えるフォーカスモードと初期設定は、シーンによって異なります（46～59）。

フォーカスモードの設定について

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、変更したフォーカスモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（104）

フォーカスモードの設定方法

1 マルチセレクターの 🌷（フォーカスモード）を押す

- フォーカスモードの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼を押してフォーカスモードを選び、Ⓚボタンを押す

- 設定したフォーカスモードが表示されます。
- AF（通常AF）にするとモニター情報表示（📖17）がONでも、AFが数秒間で消えます。
- Ⓚ ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

マクロAFについて

P、**S**、**A**、**M**、**U**モードでは、撮影メニューの［**AFモード**］（📖101）を［**常時AF**］に設定すると、シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。常にピントを合わせる動作音がします。
それ以外の撮影モードでは、マクロAFになると、自動的に［**常時AF**］になります（シーンモードの［**ペット**］を除く）。

遠景AFについて

📷（オート撮影）モード、**P**、**S**、**A**、**M**、**U**モードで遠景AFに設定したときは、画面にAFエリアは表示されません。

マニュアルフォーカスでピントを合わせる

撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U**、シーンモードの［**スポーツ**］のときに使えます。モードダイヤルで撮影モードを選んでください（□44）。

1 マルチセレクターの 🌷（フォーカスモード）を押して、設定メニューを表示する

- マルチセレクターで MF（マニュアルフォーカス）を選び、OKボタンを押します。
- 画面上部に MF が表示され、写る範囲と画像中央部の拡大表示が同時に表示されます。

2 ピントを合わせる

- 液晶モニターを見ながら、マルチセレクターを使ってピントを合わせます。
- ▲を押すと、遠くの被写体にピントが合います。
- ▼を押すと、近くの被写体にピントが合います。
- シャッターボタンを半押しすると、構図を確認できます。そのまま全押ししても撮影できます。

3 OKボタンを押す

- 設定したピントに固定され、固定したピントで続けて撮影できます。
- 設定したピントを変更するときは、もう一度OKボタンを押して手順2の画面を表示します。
- オートフォーカスに戻すときは、手順 1 に戻って MF以外を選びます。

MF（マニュアルフォーカス）について

- シャッターボタンを半押しすると、およその被写界深度（被写体の前後のピントの合う範囲）を確認できます。
- セットアップメニュー（□185）の［**サイドズームレバー設定**］（□198）を［**MF レバー**］にすると、手順2で▲▼のかわりにサイドズームレバーでもピント合わせができます。
- 電子ズームは使えません。

明るさを調整する（露出補正）

露出補正を設定して撮影すると、画像全体の明るさを明るく、または暗く調整できます。

1 マルチセレクターの☒（露出補正）を押す

- 露出補正のガイドとヒストグラムが表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼で補正値を選ぶ

- 被写体を明るくしたいとき：補正値を「＋」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：補正値を「－」側に設定します。

3 Ⓚボタンを押して補正値を決定する

- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。
- ［0.0］以外に設定すると、液晶モニターに☒マークと補正値が表示されます。

4 シャッターボタンを押して撮影する

- 露出補正を解除するときは、手順1 に戻って補正値を［0.0］にします。

露出補正の設定について

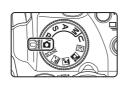
- 撮影モード**P**、**S**、**A**の場合、露出補正の設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
- 撮影モードが**M**（マニュアル露出）モード（□74）、またはシーンモードの［**打ち上げ花火**］（□57）の場合、露出補正は使えません。

ヒストグラム表示について

ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表すグラフです。フラッシュを使わない撮影で、露出を補正するときの目安になります。

- 横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。
- 露出補正を「＋」側にすれば山が右側に寄り、「－」側にすれば山が左側に寄ります。

撮影モードを選ぶ（モードダイヤル）

モードダイヤルを回してアイコン（図記号）を指標に合わせると、以下の撮影モードに切り換わります。

P、S、A、Mモード（□69）

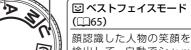
シャッタースピードや絞り値などを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。

U ユーザーセッティングモード（□108）

撮影でよく使う設定の組み合わせを登録できます。登録した設定は、モードダイヤルを**U**に合わせるだけで、すぐに呼び出して撮影できます。

（オート撮影）モード（□28）

細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。
はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

ベストフェイスモード（□65）

顔認識した人物の笑顔を検出して、自動でシャッターをきることができます。美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにできます。

シーンモード（□45）

撮影シーンを選ぶだけで、そのシーンに合った設定で撮影ができます。
SCENE（シーン）：15種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、そのシーンに合った設定で撮影ができます。
おまかせシーンにすると、カメラが撮影シーンを自動的に選ぶので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。
（夜景）：手ブレやノイズの少ない撮影をしたり、スローシャッターで撮影したりして、夜景の雰囲気を表現します。
（夜景ポートレート）：夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。背景の雰囲気を活かしながら人物をフラッシュ撮影します。
（逆光）：逆光状態でフラッシュを強制発光して人物が陰にならないように撮影したり、HDRの機能を使って明暗差の大きい風景を撮影したりできます。

シーンに合わせて撮影する（シーンモード）

モードダイヤルやシーンメニューから、以下の撮影シーンを選ぶと、そのシーンに合った設定で撮影ができます。

SCENE（シーン）

MENUボタンを押してシーンメニューを表示すると、以下の撮影シーンを選べます。

おまかせシーン（初期設定）（46）	トワイライト（54）
ポートレート（51）	クローズアップ（55）
風景（51）	料理（56）
スポーツ（52）	ミュージアム（57）
パーティー（52）	打ち上げ花火（57）
ビーチ（53）	モノクロコピー（57）
雪（53）	パノラマ（58）
夕焼け（53）	ペット（59）

- フラッシュを使うシーンでは、（フラッシュポップアップ）ボタンを押して、フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- シーンメニューでシーンの種類を選び、ズームレバー（4）を **T**（?）方向に回すと、そのシーンの説明（ヘルプ）を表示できます。元の画面に戻るには、もう一度ズームレバーを **T**（?）方向に回します。

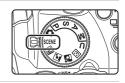
画質と画像サイズの設定

シーンモードのときにMENUボタンを押すと、［**画質**］（83）と［**画像サイズ**］（84）を設定できます。画質と画像サイズの設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画質と画像サイズの設定になります（撮影モード**U**を除く）。

カメラまかせでシーンに合わせて撮影する（おまかせシーン）

構図を決めるだけでカメラが以下の撮影シーンを自動的に判別するので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。

- ：オート撮影（一般的な撮影）
- ：ポートレート
- ：風景
- ：夜景ポートレート
- ：夜景
- ：クローズアップ
- ：逆光

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで［おまかせシーン］を選び、OK ボタンを押す

- おまかせシーンになります。
- フラッシュが閉じていると、［**フラッシュが閉じています**］と表示されます。
- （フラッシュポップアップ）ボタンを押して、フラッシュをポップアップしてください。

3 構図を決めて撮影する

- 撮影モードアイコンが切り換わります。
- シャッターボタンを半押しするとピントと露出が合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

おまかせシーンについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、（オート撮影）モード（28）に切り換えるか、目的にあったシーン（48）を選んで撮影してください。

おまかせシーンでのピント合わせについて

- おまかせシーンでは、カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→97）。
- 撮影モードアイコンがや（クローズアップ）のときは、［**AFエリア選択**］（95）の［**オート**］と同様に9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアにピントが合います。

おまかせシーンでの夜景、夜景ポートレートの撮影について

- おまかせシーンで（夜景）に切り換わったときは連続撮影し、画像を重ね合わせて1コマ記録します。
- おまかせシーンで（夜景ポートレート）に切り換わったときは、フラッシュモードが赤目軽減スローシンクロ固定になり、人物をフラッシュ撮影します（連写はしません）。
- 暗い場所では、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（193）を［**OFF**］にしてください。

フラッシュについて

- フラッシュモード（36）は、AUTO（自動発光）（初期設定）または（発光禁止）を選べます。
  - AUTO（自動発光）にすると、自動判別したシーンに合わせて、カメラが自動的にフラッシュモードを設定します。
  - （発光禁止）にすると、フラッシュをポップアップしたままでも、フラッシュは発光しません。
- フラッシュを発光したくないときは、フラッシュを閉じたままでも撮影できます。

おまかせシーンで使える機能

- セルフタイマー（39）および露出補正（43）の設定ができます。
- マルチセレクターの（フォーカスモード）ボタン（12、40）は使えません。

いろいろな撮影

シーンを選んで撮影する（シーンモードの種類と特徴）

- モードダイヤルでシーンを選んで撮影できます（□44）。
- おまかせシーンについては、「カメラまかせでシーンに合わせて撮影する（おまかせシーン）」（□46）をご覧ください。
- 各シーンに記載している ⚡ はフラッシュをポップアップしているときのフラッシュモード（□36）の設定です。⏲はセルフタイマー（□39）、🌷はフォーカスモード（□40）、☒は露出補正（□43）の設定です。

夜景 NR

夜景の雰囲気を表現して撮影できます。
MENU ボタンを押すと、［**夜景**］から［**手持ち撮影**］または［**三脚撮影**］を選べます。

- ［**手持ち撮影**］（初期設定）：手持ちでも手ブレやノイズの少ない撮影ができます。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - 画面左上の アイコンが緑色のときは、シャッターボタンを全押しすると連続撮影し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。

- ［**三脚撮影**］：三脚などで固定して撮影するときに使います。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - ［**手ブレ補正**］（□193）は、セットアップメニュー（□185）の設定にかかわらず、自動で［**OFF**］になります。
  - シャッターボタンを全押しすると、スローシャッターで 1 コマ撮影します。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリア表示が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- 電子ズームは使えません。
- AF 補助光（□196）は点灯しません。

⚡	⊛	⏲	OFF※	🌷	▲	☒	0.0※

※　変更できます。

NR：NRがついたシーンモードでは、ノイズ低減機能が自動的に作動して、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。

夜景ポートレート NR

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。背景の雰囲気を活かしながら人物をフラッシュ撮影します。MENUボタンを押すと、［**夜景ポートレート**］から［**手持ち撮影**］または［**三脚撮影**］を選べます。

- ［**手持ち撮影**］：手持ちでも手ブレやノイズの少ない撮影ができます。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - 画面左上の アイコンが緑色のときは、シャッターボタンを全押しすると連続撮影し、画像を重ね合わせて 1 コマ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。
  - 連写している間、被写体が動くと画像がゆがんだり、重なったり、ぼやけることがあります。

- ［**三脚撮影**］（初期設定）：三脚などで固定して撮影するときに使います。
  - 撮影画面に アイコンが表示されます。
  - ［**手ブレ補正**］（□193）は、セットアップメニュー（□185）の設定にかかわらず、自動で［**OFF**］になります。
  - シャッターボタンを全押しすると、スローシャッターで 1 コマ撮影します。

- フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- 電子ズームは使えません。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→□97）。
  - 複数の顔を認識したときは、最も カメラに近い顔にピントが合います。
  - 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（□66）。
  - 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。

フラッシュ	赤目軽減※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	AF	露出補正	0.0※2

※1 赤目軽減で強制発光します。
※2 変更できます。

NR：NRがついたシーンモードでは、ノイズ低減機能が自動的に作動して、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。

逆光

逆光状態での撮影に使います。

MENUボタンを押すと、撮影シーンに合わせて、［**HDR**］からHDR（ハイダイナミックレンジ）合成の［**ON**］または［**OFF**］を選べます。

- ［**HDR**］が［**OFF**］のとき（初期設定）：人物が陰にならないように、フラッシュを発光します。
  - フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
  - シャッターボタンを全押しすると、1 コマ撮影します。
- ［**HDR**］が［**ON**］のとき：明暗差の大きい風景撮影に適しています。
  - 撮影画面に HDR アイコンが表示されます。アイコンは、明暗の差が大きいと緑色になります。
  - 電子ズームは使えません。
  - シャッターボタンを全押しすると高速で連写し、以下の 2 コマを記録します。
    - 撮影時に D- ライティング（149）処理した画像
    - HDR 合成した画像（白飛びや黒つぶれを抑えた画像）
  - 記録画像の 2 コマ目が HDR 合成した画像になります。記録可能コマ数が 1 コマの場合は、D- ライティング処理した画像のみ記録します。
  - シャッターボタンを全押しした後に静止画が表示されるまで、カメラを動かさないように、しっかり持ってください。撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、電源を OFF にしないでください。
  - 保存される画像の画角（写る範囲）は、撮影画面で見える範囲よりも狭くなります。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	/ ※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	AF	露出補正	0.0※2

※1［**HDR**］が［**OFF**］のときは（強制発光）に固定されます。
［**HDR**］が［**ON**］のときは（発光禁止）に固定されます。
※2 変更できます。

いろいろな撮影

SCENE → ポートレート

人物のポートレート撮影に使います。

- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について →97）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（66）。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

	※		OFF※		AF		0.0※

※ 変更できます。

SCENE → 風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（196）は点灯しません。

			OFF※				0.0※

※ 変更できます。

SCENE ➔ 🏃 スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- 画面中央でピントを合わせます。シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- シャッターボタンを全押ししている間、約 8 コマ / 秒で最大 5 コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが 12M［**4000 × 3000**］のとき）。
- ピントと露出、ホワイトバランスは 1 コマ目を撮影した条件に固定されます。
- 画質、画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- AF 補助光（□196）は点灯しません。

⚡	⊘⚡	⏱	OFF	🌷	AF※1	±	0.0※2

※1 MF（マニュアルフォーカス）に変更できます。
※2 変更できます。

SCENE ➔ 🎉 パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。暗い場所では、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□193）を［**OFF**］にしてください。

⚡	⚡◎※1	⏱	OFF※2	🌷	AF	±	0.0※2

※1 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。変更できます。
※2 変更できます。

SCENE ➔ ビーチ

晴天の海や砂浜などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

・ 画面中央でピントを合わせます。

⚡	AUTO※	⏱	OFF※	🌷	AF	±	0.0※

※　変更できます。

SCENE ➔ 雪

晴天の雪景色などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

・ 画面中央でピントを合わせます。

⚡	AUTO※	⏱	OFF※	🌷	AF	±	0.0※

※　変更できます。

SCENE ➔ 夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。

・ 画面中央でピントを合わせます。

⚡	発光禁止※	⏱	OFF※	🌷	AF	±	0.0※

※　変更できます。

三脚マーク：三脚マークがついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（193）を［**OFF**］にしてください。

SCENE ➔ トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（196）は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	マクロ	遠景	露出補正	0.0※

※　変更できます。

三脚：三脚がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（193）を［**OFF**］にしてください。
NR：NRがついたシーンモードでは、ノイズ低減機能が自動的に作動して、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。

SCENE ➔ クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- フォーカスモード(40)が(マクロ AF)になり、ズームが最も被写体に近づいて撮影できる位置まで自動で移動します。
- 被写体に近づいて撮影できる距離は、ズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（マークより広角側）では、レンズ前約 10 cm までの被写体にピントを合わせられます。また、最も広角側から 3 ステップ望遠側のズーム位置では、レンズ前約 1 cm までの被写体にピントを合わせられます。
- [**AF エリア選択**]は[**マニュアル**]になり、ピントを合わせるエリア(AF エリア)を選べます(95)。ボタンを押して、マルチセレクターの ▲▼◀ ▶ を押すと AF エリアが移動します。
  以下の設定をするときは、ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フラッシュモード、またはセルフタイマー
  - 露出補正
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、[**手ブレ補正**]（193)の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

	※1		OFF※2				0.0※2

※1 変更できます。フラッシュ撮影時は、撮影距離が50 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

※2 変更できます。

SCENE ➔ 料理

料理の撮影に使います。

- フォーカスモード（40）が（マクロ AF）になり、ズームが最も被写体に近づいて撮影できる位置まで自動で移動します。
- 被写体に近づいて撮影できる距離は、ズーム位置によって異なります。マークやズーム表示が緑色で表示されるズーム位置（マークより広角側）では、レンズ前約 10 cm までの被写体にピントを合わせられます。また、最も広角側から 3 ステップ望遠側のズーム位置では、レンズ前約 1 cm までの被写体にピントを合わせられます。

- 色合いを画面左のスライダー表示の範囲で調整できます。マルチセレクターの ▲ を押すと赤み、▼ を押すと青みが増します。色合い調整の設定は、電源を OFF にしても記憶されます。
- ［**AF エリア選択**］は［**マニュアル**］になり、ピントを合わせるエリア（AF エリア）を選べます（95）。ボタンを押して、マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押すと AF エリアが移動します。
  以下の設定をするときは、ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - 色合い
  - セルフタイマー
  - 露出補正
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（193）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

			OFF※				0.0※

※ 変更できます。

SCENE → 🏛 ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- BSS(ベストショットセレクター)(📖76)を使って撮影できます。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（📖193）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- AF 補助光（📖196）は点灯しません。

⚡	🚫⚡	⏲	OFF※1	🌷	AF※2	±	0.0※1

※1 変更できます。
※2 🌷（マクロAF）に変更できます。

SCENE → ❂ 打ち上げ花火 [三脚]

スローシャッターで、打ち上げ花火を撮影します。

- 遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常にAF 表示(📖8)が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（📖196）は点灯しません。

⚡	🚫⚡	⏲	OFF	🌷	▲	±	0.0

SCENE → ❑ モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、フォーカスモード（📖40）の 🌷（マクロ AF）を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。

⚡	🚫⚡※1	⏲	OFF※1	🌷	AF※2	±	0.0※1

※1 変更できます。
※2 🌷（マクロAF）に変更できます。

[三脚]：[三脚]がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（📖193）を［**OFF**］にしてください。

SCENE ➔ ⌘ パノラマ

パノラマ写真の撮影に使います。
シーンモードの⌘［**パノラマ**］を選ぶと表示される画面で、［**かんたんパノラマ**］または［**パノラマアシスト**］を選べます。

- ［**かんたんパノラマ**］（初期設定）：パノラマ写真をつくりたい方向にカメラを動かすだけで、カメラで再生可能なパノラマ写真を撮影できます。
  →「かんたんパノラマを使った撮影方法」（□60）
  →「かんたんパノラマで撮影した画像の再生方法」（□62）

- ［**パノラマアシスト**］：複数の画像を、つなぎ目を確認しながら撮影します。撮影した画像は、パソコンに転送してから付属のソフトウェア「Panorama Maker 5」（□177）でパノラマ写真に合成します。
  →「パノラマアシストを使った撮影方法」（□63）

フラッシュ	⊛※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	AF※3	露出補正	0.0※4

※1［**パノラマアシスト**］のときは、変更できます。
※2［**パノラマアシスト**］のときは、セルフタイマーを使えます。
※3［**かんたんパノラマ**］のときは、▲（遠景AF）に変更できます。
［**パノラマアシスト**］のときは、✿（マクロAF）または▲（遠景AF）に変更できます。
※4 変更できます。

✔ パノラマ写真をプリントするときのご注意

パノラマ写真をプリントする場合、プリンターの設定によっては、全景をプリントできないことがあります。また、プリンターによっては、プリントできないことがあります。詳しくは、お使いのプリンターの説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

SCENE → ペット

犬または猫の撮影に使います。カメラが犬または猫の顔を検出し、その顔にピントを合わせます。ピントが合うと、初期設定では自動でシャッターをきり（ペット自動シャッター）、3コマ連写します。

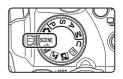
- 検出した顔は、二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が緑色になります。
  最大5匹の顔を同時に検出します。顔を複数検出したときは、画面内で最も大きい顔が二重枠のAFエリア表示で、それ以外の顔が一重枠で囲まれます。
- ペットを検出していないときも、シャッターボタンを押すとシャッターをきることができます。
  - ペットを検出していないときは、画面中央の被写体でピントを合わせます。
- (連写設定)ボタン(4)を押すと、連写の設定を変更できます。
  - [**単写**]：1コマずつ撮影します。[**単写**]に設定すると、撮影画面に S が数秒間表示されます。
  - [**連写**](初期設定)：[**ペット自動シャッター**](初期設定)のときは、検出した顔にピントが合うと、3コマ連写します(連写速度：画質[**NORMAL**]、画像サイズ [**4000 × 3000**]のとき約1.8コマ/秒)。ペット自動シャッターを使わないときは、シャッターボタンを全押ししている間、最大約1.8コマ/秒で約24コマ連写できます(画質[**NORMAL**]、画像サイズ [**4000×3000**]のとき)。[**連写**]設定時は、撮影画面に が表示されます。
- マルチセレクターの◀()を押すと、自動シャッターの設定を変更できます。
  - [**ペット自動シャッター**](初期設定)：検出した顔にピントが合うと自動でシャッターをきります。[**ペット自動シャッター**]設定時は、撮影画面にが表示されます。
  - [**OFF**]：シャッターボタンのみでシャッターをきります。
- 以下の場合は[**ペット自動シャッター**]が自動的に[**OFF**]になります。
  - 自動シャッターによる連写を5回繰り返したとき
  - 節電による待機状態(23)から復帰したとき
  - 撮影中に内蔵メモリーまたはSDカードの残量がなくなったとき

  [**ペット自動シャッター**] での撮影を続けるときは、マルチセレクターの◀ () を押し、再設定してください。
- 電子ズームは使えません。
- AF補助光(196)は点灯しません。設定音、シャッター音(199)は鳴りません。
- ペットとの距離、ペットの動く速さ、顔の向きや明るさなど、撮影条件によっては、犬や猫を検出しないことや、犬や猫以外を検出することがあります。

			※1		AF※2		0.0※3

※1 OFFに変更できます。セルフタイマーの［**10s**］と［**2s**］は使えません。
※2 （マクロAF）に変更できます。
※3 変更できます。

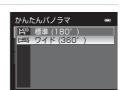
かんたんパノラマを使った撮影方法

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで［パノラマ］を選び、OKボタンを押す

3 EASY［かんたんパノラマ］を選び、OKボタンを押す

4 撮影する範囲をSTD［**標準 (180°)**］またはWIDE［**ワイド (360°)**］から選び、OKボタンを押す

- カメラを横位置で構えたときの画像サイズ（ヨコ × タテ）は、以下の通りです。
  - STD［**標準（180°）**］：水平に移動時 3200 × 560、垂直に移動時 1024 × 3200
  - WIDE［**ワイド (360°)**］：水平に移動時 6400 × 560、垂直に移動時 1024 × 6400
- カメラを縦位置で構えたときの画像サイズは、移動方向とタテとヨコの組み合わせが入れ替わります。

いろいろな撮影

5 一番端の被写体に構図を合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

- ズーム位置は、広角側に固定されます。
- 画面に格子のガイドが表示されます。
- 画面中央でピントを合わせます。
- 露出補正（📖43）が設定できます。
- 主要被写体にピントや露出が合わないときは、フォーカスロック撮影（📖33）をお試しください。

6 シャッターボタンを全押しし、シャッターボタンから指を離す

- カメラを動かす方向を示す▷マークが表示されます。

7 カメラを4方向のいずれかに、まっすぐ、ゆっくりと動かし撮影を開始する

- カメラが動いている方向を検出すると、撮影が始まります。
- 現在の撮影地点を示すガイドが表示されます。
- 撮影地点を示すガイドが端まで到達すると、撮影が終了します。

カメラの動かし方の例

- 撮影者は動かずに、カメラを水平方向、または垂直方向に円弧を描くように動かします。
- パノラマ範囲が180°のときは約15秒以内、360°のときは約30秒以内を目安に、範囲の端から端まで動かしてください。

✔ かんたんパノラマ撮影時のご注意

- 保存される画像の範囲は、撮影時に画面で見える範囲よりも狭くなります。
- 動かす速度が速すぎるときや、ブレが大きいときなどはエラーになります。
- パノラマ範囲の半分に到達する前に撮影が止まると、パノラマ画像は保存されません。
- パノラマ範囲の半分以上を撮影していて、終端に到達する前に撮影が終了したときは、撮影されなかった範囲がグレーの表示で記録されます。

かんたんパノラマで撮影した画像の再生方法

再生モードにして（□34、111）、かんたんパノラマで撮影した画像を1コマ表示し、OKボタンを押すと、画像の短辺を画面いっぱいに表示し、表示範囲を自動で移動（スクロール）します。

- 撮影したときと同じ方向で、スクロールします。
- コマンドダイヤルを回すと、早送り/巻き戻しができます。

再生中は、画面上部に操作パネルが表示されます。マルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、OKボタンを押すと以下の操作ができます。

機能	アイコン	内容	
巻き戻し	◀◀	OKボタンを押している間、スクロールを早戻しします。	
早送り	▶▶	OKボタンを押している間、スクロールを早送りします。	
一時停止	❚❚	一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。	
		◀❚❚	OKボタンを押している間、巻き戻しします。※
		❚❚▶	OKボタンを押している間、スクロールします。※
		▶	自動スクロールを再開します。
再生終了	■	1コマ表示に戻ります。	

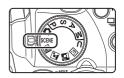
※ コマンドダイヤルを回してもスクロールします。

✔ かんたんパノラマ画像の再生についてのご注意

COOLPIX P500のかんたんパノラマ撮影以外で記録したパノラマ画像は、スクロール再生や拡大表示ができないことがあります。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□185）の［**手ブレ補正**］（□193）を［**OFF**］にしてください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで［パノラマ］を選び、Ⓚボタンを押す

3 ASSIST［パノラマアシスト］を選び、Ⓚボタンを押す

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが表示されます。

4 マルチセレクターでパノラマ方向を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 右方向につなげるときは▷、左方向は◁、上方向は△、下方向は▽を選びます。
- 選んだ方向に黄色い▷▷マークが移動し、Ⓚボタンを押すと方向を決定します。決定した方向の▷（白色）が表示されます。

- フラッシュモード（□36）、セルフタイマー（□39）、フォーカスモード（□40）、露出補正（□43）を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度Ⓚボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

5 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約1/3の部分に半透明で表示されます。

6 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の1/3が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

7 必要な画像を撮影し終わったら、OKボタンを押す

- 手順4の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー、フォーカスモード、露出補正は、1コマ目のシャッターをきる前に設定してください。1コマ目を撮影した後は変更できません。1コマ目を撮影した後は、［**画質**］（□83）、［**画像サイズ**］（□84）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（□199）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、パノラマ写真を構成するすべての画像を、1コマ目と同じ露出、ホワイトバランスおよびピントで撮影します。
1コマ目を撮影すると、露出、ホワイトバランスとピントをロック（固定）したことを示すAE/AF-Lが画面に表示されます。

パノラマ写真に合成するには

撮影した画像はパソコンに転送して（□174）、Panorama Maker 5でパノラマ写真に合成できます（□177）。
Panorama Maker 5は、付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってパソコンにインストールできます。

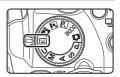
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

笑顔を撮影する（ベストフェイスモード）

初期設定では、顔認識した人物の笑顔を検出して自動でシャッターをきることができます（笑顔自動シャッター）。美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにできます。

1 モードダイヤルを☺（ベストフェイス）に合わせる

- ベストフェイスモードになります。

2 構図を決める

- カメラを被写体に向けます。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔が二重枠の AF エリア表示で囲まれます。
- 最大3人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。
- 複数の顔を認識しているときにⓀボタンを押すと、ピントを合わせる人物を選べます。マルチセレクターの◀▶を押してピントを合わせる顔を選び、Ⓚボタンを押してください。

3 自動的にシャッターがきれる

- ［**笑顔自動シャッター**］（📖67）により、カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- シャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

4 撮影を終了する

- 笑顔検出による自動撮影を終了するときは、電源をOFFにするか、［**笑顔自動シャッター**］を［**OFF**］にするか、モードダイヤルを回して他の撮影モードに切り換えてください。

ベストフェイスモードについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 「顔認識についてのご注意」→ 98

美肌効果についてのご注意

- 美肌効果を使って撮影する場合は、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。
- 撮影条件によっては、撮影時の画面でカメラが顔を認識していても、美肌の効果が表れないことや、顔以外の部分が画像処理されることがあります。望ましい効果が得られない場合は、［**美肌効果**］を［**OFF**］にして撮影し直してください。
- シーンモードの（夜景ポートレート）、［**ポートレート**］では、美肌効果の度合いは設定できません。
- 撮影後にも、記録した画像に美肌の編集ができます（150）。

笑顔自動シャッター使用時の節電機能について

［**笑顔自動シャッター**］が［**ON**］のときは、カメラを操作しないまま以下の状態が続くと、オートパワーオフ（199）が作動して、電源がOFFになります。

- カメラが顔を認識しない。
- カメラが顔を認識していても、笑顔を検出できない。

セルフタイマーランプの点滅について

笑顔自動シャッターでは、カメラが顔を認識すると点滅し、シャッターがきれた直後は速く点滅します。

手動でシャッターをきるには

シャッターボタンを押してもシャッターがきれます。顔認識していないときは、画面中央の被写体にピントが合います。

ベストフェイスモードで使える機能

- フラッシュは、［**目つぶり軽減**］が［**ON**］のときは使えません。［**目つぶり軽減**］が［**OFF**］のときは、フラッシュモード（36）がAUTO（自動発光）になります（変更できます）。
- ［**笑顔自動シャッター**］を［**OFF**］にすると、セルフタイマー（39）の設定ができます。
- フォーカスモードは、AF（通常AF）に固定されます。
- 露出補正（43）の設定ができます。
- MENUボタンを押して、（ベストフェイス）メニューを表示すると、［**画質**］、［**画像サイズ**］、［**美肌効果**］、［**笑顔自動シャッター**］または［**目つぶり軽減**］の設定ができます。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体 → 33

ベストフェイスメニューを使う

ベストフェイスモードでは、MENUボタン（□13）を押して☺ベストフェイスメニューを表示すると、以下の機能を設定できます。

• ［**笑顔自動シャッター**］と［**目つぶり軽減**］は同時に使えません。

画質

［**画質**］（□83）を設定できます。他の撮影モードでも同じ画質の設定になります（撮影モード**U**を除く）。

画像サイズ

［**画像サイズ**］（□84）を設定できます。他の撮影モードでも同じ画像サイズの設定になります（撮影モード**U**を除く）。

美肌効果

美肌の効果を設定します。シャッターがきれると、人物の顔をカメラが検出し（最大3人）、画像処理で顔の肌をなめらかにしてから画像を記録します。効果の度合いを［**強め**］、［**標準**］（初期設定）、［**弱め**］から選べます。［**OFF**］を選ぶと、美肌機能はOFFになります。

• 美肌効果の設定は、撮影画面のアイコン表示で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。また、撮影画面の被写体では、効果の度合いは確認できません。撮影後に画像を再生して確認してください。

笑顔自動シャッター

• ［**ON**］（初期設定）：顔認識した人物の笑顔を検出するたびに、カメラが自動でシャッターをきります。フラッシュが発光しないときは、撮影のたびに 5 回シャッターをきり、より笑顔の人物が多い画像を優先して 1 コマだけ記録します。
• ［**OFF**］：笑顔検出による自動シャッターを OFF にして、シャッターボタンのみでシャッターをきります。
• 笑顔自動シャッターの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

目つぶり軽減

［**ON**］のときは、シャッターボタンを1回全押しすると5回シャッターをきり、人物が目をつぶっていない画像を優先して1コマだけ記録します。

- 目をつぶっている可能性のある画像を記録したときは、右のメッセージが数秒間表示されます。
- ［**目つぶり軽減**］を［**ON**］にすると、［**笑顔自動シャッター**］は［**OFF**］になります。シャッターボタンを押してシャッターをきります。
- ［**ON**］にすると、フラッシュは使えません。

- 初期設定は［**OFF**］です。
- 目つぶり軽減の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

ベストフェイスメニューの表示方法

モードダイヤルを☺（ベストフェイス）モードに合わせます。

MENUボタン（□13）を押してベストフェイスメニューを表示します。

- メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（□12）。
- ベストフェイスメニューを終了するには、MENUボタンを押します。

露出を設定して撮影する（P、S、A、Mモード）

P、S、A、Mモードについて

モードダイヤルを切り換えて、**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル露出）の4種類の露出モードを使って撮影できます。
シャッタースピードや絞り値を自分で設定できるほか、撮影メニュー（□81）でISO感度やホワイトバランスなどを変更して、さらに高度な撮影を楽しめます。

露出モード		内容	こんなときに
P	**プログラムオート**（□71）	シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えるプログラムシフト（□71）もできます。	ほとんどの撮影状況に適しています。
S	**シャッター優先オート**（□72）	設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。	動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調するときなどに使います。
A	**絞り優先オート**（□73）	設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。	手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたいときなどに使います。
M	**マニュアル露出**（□74）	シャッタースピードも絞り値も撮影者が設定できます。	撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたいときに使います。

モードダイヤルの**U**（ユーザーセッティングモード）でも、**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）または**M**（マニュアル露出）で撮影できます。**U**には、撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）を登録できます（□108）。

P、S、A、Mモードで使える機能

- フラッシュモード（□36）の変更、セルフタイマー（□39）、フォーカスモード（□40）および露出補正（□43）の設定ができます。
- MENUボタンを押すと、撮影メニュー（□81）を設定できます。

露出について

シャッタースピードと絞り値を調節して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞り値の組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。ISO感度の設定（📖92）を変えると、適正露出を得られるシャッタースピードと絞り値の範囲も変化します。

シャッタースピード

シャッタースピードが速いとき
1/1000秒

シャッタースピードが遅いとき
1/30秒

絞り値

絞り値が小さいとき
（絞りを開いたとき）
f/3.4

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）
f/8

P（プログラムオート）

シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。

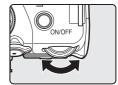
1 モードダイヤルをPに合わせる

2 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□95）。

プログラムシフトについて

P（プログラムオート）で撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は、液晶モニター左上のP表示の横にプログラムシフトマーク（✱）が表示されます。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や、動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク（✱）が消えるまでコマンドダイヤルを回してください。モードダイヤルを切り換えたり、電源をOFFにしても、プログラムシフトを解除できます。

P（プログラムオート）撮影時のご注意

被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、適切な露出が得られない場合があります。このときにシャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示と絞り値表示が点滅します。ISO感度（□92）などの設定を変更すると適切な露出が得られることがあります。

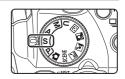
シャッタースピードについて

シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□107）。

S（シャッター優先オート）

設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。

- シャッタースピードを最大1/1500〜2秒の範囲で設定できます。

1 モードダイヤルをSに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□95）。

S（シャッター優先オート）撮影時のご注意

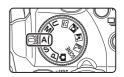
- 被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定したシャッタースピードでは適切な露出が得られないことがあります。このときに、シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示が点滅します。設定したシャッタースピードを変えてください。
- 1/4秒以上の低速シャッタースピードに設定すると、撮影画像にノイズが出ることがあります。このようなときはシャッタースピード表示が赤色に点灯します。撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（□102）を［**ON**］にするようおすすめします。

シャッタースピードについて

シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□107）。

A（絞り優先オート）

設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。

1 モードダイヤルをAに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、絞り値（開放絞り～最小絞り）を設定する

- 絞り値は、f/3.4 ～ 8（広角側）、f/5.7 ～ 8（望遠側）の範囲で設定できます。

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□95）。

A（絞り優先オート）撮影時のご注意

被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定した絞り値では適切な露出が得られないことがあります。このときにシャッターボタンを半押しすると、絞り値表示が点滅します。設定した絞り値を変えてください。

シャッタースピードについて

シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□107）。

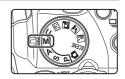
絞りとズームについて

絞り値（F値）とはレンズの明るさを示す値です。レンズの絞り値は、数値が小さくなるほど明るくなり、大きくなるほど暗くなります。レンズの一番明るい絞り値を「開放絞り」といい、一番暗い絞り値を「最小絞り」といいます。このカメラのズームレンズはズームすると、f/3.4–5.7 の範囲で開放絞りが変化します。絞り値は、望遠側にズームすると大きく（暗く）なり、広角側にズームすると小さく（明るく）なります。

M（マニュアル露出）

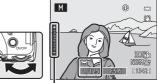
シャッタースピードも絞り値も撮影者が設定できます。

• シャッタースピードを最大1/1500～8秒の範囲で設定できます。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 マルチセレクターの▶を押して、シャッタースピードを選ぶ

• マルチセレクターの▶を押すごとに、シャッタースピードと絞り値が交互に切り換わります。
• 1/4 秒以上の低速シャッタースピードの場合は、シャッタースピード表示が赤色に点灯します（□72）。

3 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

• 設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに表示されます。
• 設定された露出値とカメラの測光した適正露出値の差は、露出インジケーターに－2 EVから+2 EVの範囲で1/3段ごとに表示されます。
図は露出が1段オーバーのときの例です。

露出インジケーター

4 マルチセレクターの▶を押して、絞り値を選ぶ

5 コマンドダイヤルを回して、絞り値を設定する

- 必要に応じて、手順2〜5を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。

6 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□95）。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度設定**］（□92）を［**オート**］（初期設定）、［**高感度オート**］または［**感度制限オート**］に設定していると、ISO感度はISO 160に固定されます。

シャッタースピードについて

シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。さらに、連写では、範囲が制限されます（□107）。

連続撮影する（P、S、A、Mモード）

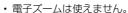
動きのある被写体を連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

• 撮影モードが、**P**、**S**、**A**、**M**、**U**のときに使えます。

S	**単写（初期設定）**
	1コマずつ撮影します。
H	**連写** H
	シャッターボタンを全押ししている間、約8コマ/秒で連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが 12M［**4000×3000**］のとき）。シャッターボタンから指をはなすか、5コマ連写すると、撮影を終了します。
L	**連写** L
	シャッターボタンを全押ししている間、最大約1.8コマ/ 秒で約24コマ連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが 12M［**4000×3000**］のとき）。
	先取り撮影
	先取り撮影を使うと、シャッターボタンを全押しする直前の画像も記録し、シャッターチャンスを逃しにくくなります。シャッターボタンの半押しで先取りを開始し、そのまま全押しを続けると連写します（□79）。 • 連写速度：最大 15 コマ / 秒 • 連続撮影コマ数：最大 25 コマ（先取り撮影の最大 5 コマを含む） • 記録される画像サイズは 2M（1600 × 1200 ピクセル）に固定されます。 • シャッターボタンから指をはなすか、最大コマ数まで連写すると、撮影を終了します。
120	**高速連写** 120 fps
	シャッターボタンを1回全押しすると、約1/125秒以上の高速シャッタースピードで50コマ連写します。 • 記録される画像サイズは 1M（1280 × 960 ピクセル）に固定されます。
60	**高速連写** 60 fps
	シャッターボタンを1回全押しすると、約1/60秒以上の高速シャッタースピードで25コマ連写します。 • 記録される画像サイズは 2M（1600 × 1200 ピクセル）に固定されます。
BSS	BSS**（ベストショットセレクター）**
	暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。 シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け（最大10コマ）、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

マルチ連写

シャッターボタンを1回全押しすると約30コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像として記録します。

- 記録される画質は［NORMAL］、画像サイズは 5M（2560 × 1920 ピクセル）に固定されます。
- 電子ズームは使えません。

インターバル撮影

あらかじめ設定した撮影間隔（インターバル）で、静止画を自動的に連続撮影します（□79）。

連写メニューの設定方法

1 （連写設定）ボタンを押す

- 連写メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで連写メニューを設定し、OKボタンを押す

- 設定した連写モードが表示されます。
- S（単写）にするとモニター情報表示（□17）がONでも、Sは数秒間で消えます。

いろいろな撮影

連写についてのご注意

- 連続撮影するときは、フラッシュは使えません（インターバル撮影を除く）。ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。
- 撮影後の画像の記録に時間がかかります。記録が終了するまでの時間は、撮影コマ数、画質、画像サイズ、SDカードへの書き込み速度などによって異なります。
- ISO感度が上がって、撮影した画像がざらつくことがあります。
- 画質、画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- 連写の設定を［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**マルチ連写**］にすると、蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの高速で明滅する照明下では、画像に横帯が発生したり、明るさや色合いにばらつきが発生したりすることがあります。
- 連写の設定を［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］にすると、晴天下では適正な露出が得られない（露出オーバーになる）ことがあります。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

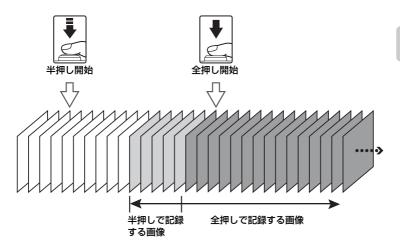
BSSについてのご注意

［**BSS**］は静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

連写で撮影した画像について

［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］で撮影した画像は、撮影ごとに「連写グループ」として保存されます（□113）。

先取り撮影について

［**先取り撮影**］を設定しているときに、シャッターボタンを0.5秒以上半押しすると撮影を開始し、全押しする直前の画像も連続撮影コマ数の一部として記録できます。先取り撮影できる枚数は、5コマまでです。
先取り撮影の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。先取り撮影を設定していないときは、何も表示されません。シャッターボタンの半押し中は、先取り撮影アイコンが緑色に変わります。

- 記録可能コマ数が5コマ未満のときは、先取り撮影できません。撮影前に記録可能コマ数が5コマ以上残っていることをご確認ください。

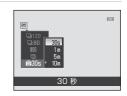
インターバル撮影を使った撮影方法

撮影間隔（インターバル）を決めて、静止画を自動的に連続撮影します。
撮影間隔は、［**30 秒**］、［**1 分**］、［**5 分**］または［**10 分**］に設定できます。

1 **□（連写設定）ボタンを押して連写メニューを表示し（□76）、マルチセレクターで◎［インターバル撮影］を選び、Ⓚボタンを押す**

いろいろな撮影

2 撮影間隔を選び、®ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。
- インターバル撮影できる最大コマ数は、撮影間隔によって異なります。
  -［**30 秒**］：600コマ
  -［**1 分**］：300コマ
  -［**5 分**］：60コマ
  -［**10 分**］：30コマ

3 シャッターボタンを全押しして、1コマ目の撮影を開始する

- 撮影の合間は、液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次のコマの撮影直前になると、自動的に液晶モニターが再点灯します。

4 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影コマ数が上限に達すると、撮影が自動的に終了します。

インターバル撮影についてのご注意

- 途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- インターバル撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→215

撮影メニューを使う（P、S、A、Mモード）

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U**（□108）で撮影するときは、以下の撮影メニューを設定できます。

画質 □83

記録時の画質（画像の圧縮率）を選びます。他の撮影モードのメニューでも設定できます。

画像サイズ □84

記録時の画像の大きさを選びます。他の撮影モードのメニューでも設定できます。

仕上がり設定 □87

撮影状況や好みに合わせて、画像の仕上がりを設定できます。

ホワイトバランス □90

画像を見た目に近い色で記録するように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。

ISO感度設定 □92

被写体の明るさなどに応じて、ISO感度を設定します。

測光方式 □93

カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。

AEブラケティング □94

露出を少しずつずらした連続撮影を設定します。

AFエリア選択 □95

オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を設定します。

AFモード □101

ピントの合わせ方を設定します。

調光補正 □101

フラッシュの発光量を補正します。

長秒時ノイズ低減 □102

低速のシャッタースピードで撮影したときに画像に発生するノイズを低減します。

Active D-ライティング □103

ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減し、見た目のコントラストに近い画像で撮影します。

User Setting 登録 □109

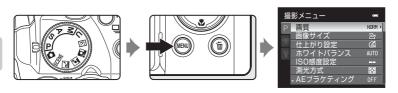
変更した現在の設定内容をモードダイヤル**U**に登録します。

User Setting リセット □110

モードダイヤル**U**に登録した設定内容を初期設定にリセットします。

撮影メニューの表示方法

モードダイヤルをP（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル露出）またはU（ユーザーセッティング）に合わせます。

MENUボタンを押して、撮影メニューを表示します。

- メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（□12）。
- 撮影メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

同時に設定できない機能について

複数の機能を同時に設定できないことがあります（□104）。

メニューの操作について

マルチセレクターの▲▼を押すかわりに、コマンドダイヤルを回してもメニュー項目を選べます。

画質

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 画質

記録する画像の圧縮率を選びます。
画質を高くするほど、画像の細部の描写が保たれますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。

FINE FINE

［**NORMAL**］よりも精細な画質になります。画像を拡大するときや、プリンターで細かく表現したいときなどに適しています。圧縮率は1/4です。

NORM NORMAL（**初期設定**）

一般的な撮影に適した画質モードです。圧縮率は1/8です。

BASIC BASIC

画質は［**NORMAL**］よりも低くなりますが、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。圧縮率は1/16です。

画質の設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（📖8～10）。

画質の設定について

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードでも、MENUボタンを押すと設定できます。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（撮影モード**U**を除く）。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖104）

関連ページ

記録可能コマ数 → 📖85

画像サイズ

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 画像サイズ

記録する画像の大きさ（ピクセル数）を設定します。
画像サイズを大きくするほど、大きくプリントするのに適していますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。
サイズの小さい画像は、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。ただし、サイズが小さい画像を大きくプリントしようとすると、粒子の粗い画像になります。

画像サイズ	内容
4000×3000（初期設定）	［3264×2448］、［2592×1944］よりも精細な画像になります。
3264×2448	ファイルサイズと画像のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像サイズです。
2592×1944	
2048×1536	［4000×3000］、［3264×2448］、［2592×1944］よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。
1600×1200	
1280×960	
1024×768	パソコンのモニターなどへの表示に適した画像サイズです。
640×480	電子メールへの添付や画面の縦横比が4:3のテレビへの表示に適しています。
3984×2656	35mm 判フィルムカメラで撮影したときと同じ縦横比（3:2）の画像になります。
3968×2232	ワイドテレビと同じ縦横比（16:9）の画像になります。
1920×1080	
2992×2992	正方形の画像になります。

画像サイズの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□8～10）。

画像サイズの設定について

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードでも、MENUボタンを押すと設定できます。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（撮影モード**U**を除く）。
- 画像サイズは、［**先取り撮影**］または［**高速連写 60 fps**］の場合は［**1600×1200**］に、［**高速連写 120 fps**］の場合は［**1280×960**］に固定されます（□76）。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

記録可能コマ数

それぞれの［**画像サイズ**］（□84）と［**画質**］（□83）の組み合わせで、内蔵メモリーや4 GBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像サイズ	画質	内蔵メモリー （約102 MB）	SDカード※1 （4 GB）	プリント時の サイズ※2
4000×3000 （初期設定）	FINE NORMAL BASIC	17コマ 35コマ 68コマ	約650コマ 約1280コマ 約2510コマ	約34×25 cm
3264×2448	FINE NORMAL BASIC	26コマ 52コマ 101コマ	約970コマ 約1910コマ 約3650コマ	約28×21 cm
2592×1944	FINE NORMAL BASIC	41コマ 81コマ 153コマ	約1520コマ 約2940コマ 約5480コマ	約22×16 cm
2048×1536	FINE NORMAL BASIC	65コマ 126コマ 235コマ	約2410コマ 約4640コマ 約8620コマ	約17×13 cm
1600×1200	FINE NORMAL BASIC	104コマ 199コマ 346コマ	約3770コマ 約7100コマ 約12000コマ	約14×10 cm
1280×960	FINE NORMAL BASIC	156コマ 286コマ 470コマ	約5740コマ 約10000コマ 約17200コマ	約11×8 cm
1024×768	FINE NORMAL BASIC	235コマ 411コマ 658コマ	約8620コマ 約15000コマ 約24100コマ	約9×7 cm
640×480	FINE NORMAL BASIC	470コマ 731コマ 940コマ	約17200コマ 約24100コマ 約30100コマ	約5×4 cm
3984×2656	FINE NORMAL BASIC	20コマ 39コマ 77コマ	約730コマ 約1450コマ 約2800コマ	約34×22 cm
3968×2232	FINE NORMAL BASIC	24コマ 47コマ 91コマ	約880コマ 約1720コマ 約3350コマ	約34×19 cm
1920×1080	FINE NORMAL BASIC	98コマ 182コマ 329コマ	約3550コマ 約6700コマ 約12000コマ	約16×9 cm
2992×2992	FINE NORMAL BASIC	23コマ 46コマ 91コマ	約860コマ 約1700コマ 約3350コマ	約25×25 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。
※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意

画像サイズを「1:1」にして撮影した画像をプリントするときは、プリンターの設定を「フチあり」にしてください。
プリンターによっては、画像を1:1の縦横比でプリントできない場合があります。
詳しくは、お使いのプリンターの使用説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

仕上がり設定

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 仕上がり設定

撮影状況や好みに合わせて、画像の仕上がりを設定できます。輪郭強調の度合い、コントラスト、色の濃度（彩度）を細かく調整することもできます。

アイコン	項目
SD	**標準（初期設定）**
	標準的な画像に仕上げます。ほとんどの撮影状況に対応できます。
SO	**ソフトに**
	被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像を加工したいときに適しています。
VI	**鮮やかに**
	彩度を高め、赤色と緑色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。
VI+	**より鮮やかに**
	彩度とコントラストを高め、被写体の輪郭を強調した画像になります。
PO	**ポートレート**
	人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。
CSM	**カスタマイズ**
	仕上がりを自分で細かく設定できます（□88）。
BW	**白黒**
	白黒やセピアの写真を撮影したいときに使います（□89）。

仕上がり設定の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**標準**］のときは、何も表示されません。

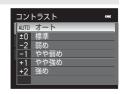
✔ 仕上がり設定についてのご注意

- 仕上がり設定が［**標準**］、［**ソフトに**］、［**鮮やかに**］、［**より鮮やかに**］、［**ポートレート**］または［**白黒**］の［**スタンダード**］の場合、同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって仕上がり具合は変化します。一連の写真を写すときに同じような仕上がり具合にしたい場合は、［**カスタマイズ**］を選んで［**オート**］以外の項目を設定してください。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

仕上がり設定の［カスタマイズ］について

仕上がり設定で［**カスタマイズ**］を選ぶと、以下の項目を個別に設定できます。

コントラスト

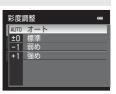
画像の階調（コントラスト）を設定します。
コントラストを弱くすると軟調な画像になり、強くすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは弱めが、かすんだ遠景の撮影などには強めが適しています。
初期設定は［**オート**］です。

輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。
強めにするとくっきりとした画像になり、弱めにするとソフトな画像になります。
初期設定は［**オート**］です。

彩度調整

画像の色の鮮やかさを設定します。
弱めにすると鮮やかさが抑えられ、強めにするとより鮮やかになります。
初期設定は［**オート**］です。

 輪郭強調についてのご注意

輪郭強調の効果は、撮影時の画面では確認できません。画像を再生して確認してください。

仕上がり設定の［白黒］について

仕上がり設定で［**白黒**］を選ぶと、以下の項目が設定できます。

- ［**スタンダード**］を選ぶと標準的な仕上がりになります。
- ［**カスタマイズ**］を選ぶと、さらに［**コントラスト**］、［**輪郭強調**］、［**モノクロフィルター**］の3種類の項目を個別に設定できます。
- ［**カラー同時記録**］チェックボックスをオン（✔）にすると、白黒画像と同時にカラー画像も記録します。

［**カスタマイズ**］では以下の項目を個別に設定できます。

コントラスト

［**仕上がり設定**］→［**カスタマイズ**］の［**コントラスト**］（□88）と同じです。

輪郭強調

［**仕上がり設定**］→［**カスタマイズ**］の［**輪郭強調**］（□88）と同じです。

モノクロフィルター

白黒写真用カラーフィルターを通して撮影したときのような効果が得られます。

- ［**黄**］、［**オレンジ**］、［**赤**］：
  コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。黄 → オレンジ → 赤の順にコントラストが強くなります。
- ［**緑**］：
  肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。
- ［**セピア**］：
  古い写真のようなセピア調に仕上げます。

カラー同時記録について

カラー同時記録で記録されるカラー画像は、仕上がり設定を［**標準**］に設定したときと同じ仕上がりになります。

ホワイトバランス

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

AUTO オート（初期設定）

カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。

PRE プリセットマニュアル

特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（□91）をご覧ください。

晴天※

晴天の屋外での撮影に適しています。

電球※

白熱電球の下での撮影に適しています。

蛍光灯（FL1～ FL3）

蛍光灯の下での撮影に適しています。［**FL1**］（白色蛍光灯）、［**FL2**］（昼白色蛍光灯）、［**FL3**］（昼光色蛍光灯）のいずれかを選べます。

曇天※

曇り空の屋外での撮影に適しています。

フラッシュ※

フラッシュを使う撮影に適しています。

※ 7段階の微調整ができます。「＋」方向で青み、「－」方向で赤みが増します。

ホワイトバランスの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**オート**］のときは、何も表示されません。

ホワイトバランスについてのご注意

- ［**オート**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを（発光禁止）に設定してください（□36）。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明下（赤みがかった照明など）で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せたいときなどに使います。
以下の手順で、撮影する照明下のホワイトバランス値を測定して、撮影します。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 撮影メニューを表示し（📖81）、マルチセレクターで［**ホワイトバランス**］の PRE［**プリセットマニュアル**］を選び、Ⓚボタンを押す

- レンズが測定用のズーム位置になります。

3 ［**新規設定**］を選ぶ

- 前回測定したホワイトバランス値を使いたいときは、［**前回の設定**］を選んでⓀボタンを押します。ホワイトバランスが前回の値に設定されます。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収める

測定窓

5 Ⓚボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます（画像は記録されません）。

☑ プリセットマニュアルについてのご注意

フラッシュ発光時のホワイトバランス値は測定できません。フラッシュ撮影時は、［**ホワイトバランス**］を［**オート**］または［**フラッシュ**］に設定してください。

いろいろな撮影

ISO感度設定

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ ISO感度設定

ISO感度を高くすると、より少ない光量で撮影できます。
ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体の動きによるブレを軽減しやすくなります。

- ISO 感度を高くすると、暗い被写体の撮影やフラッシュを使わない撮影、望遠側での撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

ISO感度設定

- ［**オート**］（初期設定）：明るい場所では ISO 160 になり、暗い場所では自動的に ISO 800 まで ISO 感度が高くなります。
- ［**高感度オート**］：被写体の明るさに応じて、ISO 160 から ISO 1600 までの範囲で ISO 感度が自動的に設定されます。
- ［**感度制限オート**］：カメラが自動的に ISO 感度を変更するときの範囲を［**ISO 160-200**］（初期設定）、［**ISO 160-400**］から選べます。選んだ範囲の上限値以上に ISO 感度は上がりません。ISO 感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。
- ［**160**］、［**200**］、［**400**］、［**800**］、［**1600**］、［**3200**］：ISO 感度を選んだ値に固定します。

低速限界設定

撮影モードが**P**または**A**のときに［**ISO感度設定**］を［**オート**］、［**高感度オート**］、［**感度制限オート**］に設定した場合、ISO感度の自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/125～1秒）を設定します。初期設定は［**OFF**］です。ここで設定したシャッタースピードでは露出不足となる場合、適正露出を得るためにISO感度を自動的に高くします。ISO感度が上がっても露出不足となる場合は、シャッタースピードが遅くなります。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。

- ［**オート**］に設定した場合、ISO 160　で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（□38）。
- ［**高感度オート**］に設定したときはマークが表示され、［**感度制限オート**］に設定したときはマークとISO感度の上限値が表示されます。

ISO感度設定についてのご注意

- **M**（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］、［**高感度オート**］、［**感度制限オート**］に設定すると、ISO感度はISO 160に固定されます。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

測光方式

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 測光方式

露出を合わせるため、被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。
カメラが 測光する方式を設定します。

▣	**マルチパターン（初期設定）**
	画面の広い領域を測光します。 さまざまな撮影状況で適正な露出が得られます。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。
◎	**中央部重点**
	画面に表示されている中央部重点測光範囲に重点を置いて測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（□33）をお使いください。
⊡	**スポット**
	画面中央部に表示されているスポット測光範囲で測光します。被写体と背景の明るさが著しく異なるときなどに使います。被写体がスポット測光範囲に入るように撮影してください。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（□33）をお使いください。
⊡	**AFスポット**
	選択されているAFエリアを測光し、露出値を決定します。［**AFエリア選択**］（□95）が［**マニュアル**］または［**オート**］のときに設定できます。

測光方式についてのご注意

- 電子ズームが1.2 ～ 1.8 倍のときは、［**測光方式**］は［**中央部重点**］になります。電子ズームが2.0 ～ 4.0倍のときは、［**スポット**］になります。ただし、電子ズームのときは、測光範囲は表示されません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

測光方式表示について

［**測光方式**］を［**中央部重点**］または［**スポット**］に設定すると、測光範囲が表示されます（□8）。

AEブラケティング

P、S、Aに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ AEブラケティング

露出（明るさ）を自動的に変えながら連続撮影できます。画像の明るさの調整が難しい場合の撮影に効果的です。

±0.3

0、－0.3、＋0.3 の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。

±0.7

0、－0.7、＋0.7の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。

±1.0

0、－1.0、＋1.0 の順で自動的に露出を変えながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。

OFF（初期設定）

AEブラケティングを行いません。

［**AEブラケティング**］の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

AEブラケティングについてのご注意

- **M**（マニュアル露出）モードの場合、［**AEブラケティング**］は使えません。
- 露出補正（□43）と［**AEブラケティング**］の［**±0.3**］、［**±0.7**］、［**±1.0**］のいずれかを同時に設定すると、補正量を加算します。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

関連ページ

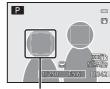
連写で撮影した画像の再生（連写グループについて）→ □113

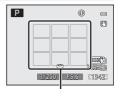
AFエリア選択

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ AFエリア選択

オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を設定します。

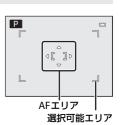
顔認識オート

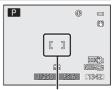
カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→□97）。
複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［**オート**］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。

AUTO オート（初期設定）

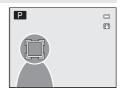
9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。
半押しすると、ピントが合ったAFエリアが画面に表示されます（最大9カ所）。

マニュアル

画面内の99カ所から、ピントを合わせたいエリアを自分で選びます。比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。
マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、画面に表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。

- 以下の設定をするときは、OK ボタンを押していったん AF エリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。
  - フラッシュモード、フォーカスモード、またはセルフタイマー
  - 露出補正

  もう一度OKボタンを押すと、再びAFエリアを選べる状態になります。
- ［**画像サイズ**］（□84）が ［**2992 × 2992**］のときは、選べる AF エリアの位置は 81 カ所になります。

[■] 中央

画面中央の被写体にピントが合います。
AFエリアが画面中央に常に表示されます。

ターゲット追尾

ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AF エリアが被写体を追いかけて移動します（ターゲット追尾撮影について→□99）。

AFエリア選択についてのご注意

- 電子ズーム使用時は、［**AFエリア選択**］の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、ピントが合わないことがあります。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

顔認識撮影について

人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。以下の場合は、顔認識機能が働きます。

- ［**AFエリア選択**］が［**顔認識オート**］のとき（□95）
- シーンモードが☒（夜景ポートレート）（□49）、［**おまかせシーン**］（□46）または［**ポートレート**］（□51）のとき
- ベストフェイスモードのとき（□65）

1 構図を決める

- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれます。
- 複数の顔を認識したときは、撮影モードによって以下のように動作が変わります。

撮影モード	二重枠で囲まれる顔	認識する顔の数
P、**S**、**A**、**M**、**U**モード（［**顔認識オート**］）	カメラに最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大12人
シーンモードの☒（夜景ポートレート）、［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］		
ベストフェイスモード	画面中央に最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大3人

2 シャッターボタンを半押しする

- 二重枠で囲まれた顔にピントが合います。二重枠が緑色になりピントが固定されます。
- 二重枠が点滅しているときは、顔にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- シャッターボタンを全押しすると、シャッターがきれます。
- ベストフェイスモードの［**笑顔自動シャッター**］では、シャッターボタンを押さなくても、カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます（🕮67）。

顔認識についてのご注意

- ［**顔認識オート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、［**AFエリア選択**］は、［**オート**］になります。
- シーンモードの（夜景ポートレート）、［**ポートレート**］またはベストフェイスモードでは、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- 顔の向きなど撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（🕮33）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、AFエリアを［**マニュアル**］または［**中央**］にするか、撮影モードをオート撮影モードなどに切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（🕮33）をお試しください。
- 顔認識して撮影した画像は、1コマおよびサムネイル表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます（連写（🕮76）または［**AEブラケティング**］（🕮94）を設定して撮影した画像を除く）。

動く被写体にピントを合わせて撮影する（ターゲット追尾）

動きのある被写体の撮影をするときに使います。ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。

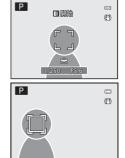
1 撮影メニューを表示し（📖82）、マルチセレクターで［AFエリア選択］を選び、Ⓚボタンを押す

2 ［ターゲット追尾］を選び、Ⓚボタンを押す

- ターゲット追尾になり、画面中央に白色の枠が表示されます。

3 被写体を登録する

- ピントを合わせたい被写体に画面中央の枠を合わせ、Ⓚボタンを押します。
  - 被写体が登録されます。
  - 枠が赤色で表示されたときは、被写体にピントを合わせられません。構図を変えて、もう一度被写体を登録してください。
- 被写体が登録されると、黄色いAFエリア表示で囲まれ、ターゲット追尾が始まります。
- ターゲットを変えたいときは、Ⓚボタンを押して現在の登録を解除してください。
- カメラがターゲットを見失って AF エリア表示が消えたときは、もう一度被写体を登録してください。

いろいろな撮影

4 シャッターボタンを押して撮影する

- シャッターボタンを半押しして、AFエリアでピントが合うと、AFエリア表示が緑色になり、ピントが固定されます。
- AFエリア表示が点滅したときは、被写体にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- AF エリアが表示されていない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

ターゲット追尾についてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- ズーム位置、フラッシュモード、フォーカスモードまたはメニューは、被写体を登録する前に設定してください。被写体を登録した後に設定を変更すると、被写体の登録が解除されます。
- 被写体の動きが速いときや手ブレが大きいとき、類似した被写体がある場合など、撮影条件によっては、被写体をターゲットに登録できないことや追尾できないこと、または別の被写体を追尾することがあります。被写体の大きさや明るさなどによっても、適切にターゲット追尾できないことがあります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）の撮影では、AFエリア表示が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、AFエリアを［**マニュアル**］または［**中央**］にするか、撮影モードをオート撮影モードなどに切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（□33）をお試しください。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

AFモード（オートフォーカスモード）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ AFモード

ピントの合わせ方を設定します。

AF-S	**シングルAF（初期設定）**
	シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。
AF-F	**常時AF**
	シャッターボタンを半押しするまで、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。常にピントを合わせる動作音がします。

AFモードについてのご注意

他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

動画のAFモードについて

動画撮影時のAFモードは、動画メニュー（□163）の［**AFモード**］（□166）で設定します。

調光補正

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 調光補正

背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。

－0.3～－2.0
－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。
0.0（初期設定）
調光補正を行いません。
+0.3～+2.0
0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。

調光補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**0.0**］のときは、何も表示されません。

長秒時ノイズ低減

P、**S**、**A**、**M**に設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ 長秒時ノイズ低減

暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、画像にノイズが発生する場合があります。このノイズを低減する設定を行います。長秒時ノイズ低減処理が行われると、撮影開始から内蔵メモリー/SDカードへ画像が記録されるまでの時間が、通常より長くかかります。

AUTO	**AUTO（初期設定）**
	ノイズが発生するような遅いシャッタースピードになると、ノイズ低減を行います。
NR	ON
	1/4秒以上の低速シャッタースピードのときに必ずノイズ低減を行います。低速シャッタースピードで撮影するときは、［**ON**］にすることをおすすめします。

長秒時ノイズ低減が行われるときは、撮影時の画面でNRのマークが点灯します（□8）。

長秒時ノイズ低減についてのご注意

他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

Active D-ライティング（アクティブD-ライティング）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU（撮影メニュー）➔ Active D-ライティング

撮影の前にあらかじめ「アクティブ D-ライティング」を設定しておくと、ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。撮影した画像は、見た目のコントラストに近い仕上がりになります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するときに効果的です。

強め、標準、弱め

撮影時に処理するアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。

OFF　OFF（初期設定）

アクティブD-ライティング処理をしません。

アクティブD-ライティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

アクティブ D-ライティングについてのご注意

- アクティブ D-ライティングで撮影すると、記録に時間がかかります。
- アクティブ D-ライティングを［**OFF**］にして撮影する場合よりも、露出をアンダー側に制御し、階調が適切な明るさになるように、ハイライト部やシャドー部および中間調を調整して記録します。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□104）

［Active D-ライティング］と［D-ライティング］の違い

［**Active D-ライティング**］は、撮影前に階調が適切に調整できるようにアンダー側に露出を制御して撮影します。一方、再生メニューの［**D-ライティング**］（□149）は、撮影した画像に対して階調を適切に再調整します。

同時に設定できない機能

フラッシュモード、フォーカスモード、セルフタイマー、撮影メニューには、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。

制限される機能	設定	内容
フラッシュモード	フォーカスモード（□40）	▲（遠景AF）にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	連写（□76）	［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	AEブラケティング（□94）	フラッシュは使えません。
セルフタイマー	AFエリア選択（□95）	［**ターゲット追尾**］にして撮影するときは、セルフタイマーは使えません。
フォーカスモード	AFエリア選択（□95）	［**ターゲット追尾**］にして撮影するときは、MF（マニュアルフォーカス）は使えません。
画質	連写（□76）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画質**］は［**NORMAL**］に固定されます。
画像サイズ	連写（□76）	• ［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 5M（2560 × 1920 ピクセル）に固定されます。 • ［**先取り撮影**］、［**高速連写 60 fps**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 2M（1600 × 1200 ピクセル）に固定されます。 • ［**高速連写 120 fps**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 1M（1280 × 960 ピクセル）に固定されます。
仕上がり設定	Active D-ライティング（□103）	［**Active D-ライティング**］を使って撮影するときは、［**仕上がり設定**］の［**カスタマイズ**］および、［**白黒**］の［**カスタマイズ**］の［**コントラスト**］は［**オート**］に固定されます。
ホワイトバランス	仕上がり設定（□87）	［**仕上がり設定**］を［**白黒**］にして撮影するときは、［**ホワイトバランス**］は［**オート**］に固定されます。
ISO感度設定	連写（□76）	• ［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**マルチ連写**］で撮影するときは、撮影モードが **P**、**S**、**A** の場合、［**ISO 感度設定**］は明るさに応じて自動的に設定されます。撮影モードが **M** の場合、ISO 感度は **160** に固定されます。 • ［**連写 L**］で撮影するときは、［**3200**］は選べません。［**ISO 感度設定**］が［**3200**］のときに［**連写 L**］にすると、［**1600**］に変更されます。

制限される機能	設定	内容
測光方式	AFエリア選択（□95）	［**測光方式**］が［**AF スポット**］のときに［**AF エリア選択**］を［**中央**］にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］に変更されます。
	Active D-ライティング（□103）	［**Active D-ライティング**］を［**OFF**］以外にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］にリセットされます。
連写/ AEブラケティング	連写（□76）/ AEブラケティング（□94）	連写と［**AEブラケティング**］は同時に使えません。 連写の設定を［**単写**］以外にすると、［**AEブラケティング**］は［**OFF**］にリセットされます。 ［**AEブラケティング**］を［**OFF**］以外にすると、連写の設定は［**単写**］にリセットされます。
	セルフタイマー（□39）	連写とセルフタイマーは同時に使えません。
	仕上がり設定（□87）	［**仕上がり設定**］を［**白黒**］にして［**カラー同時記録**］するときは、［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］と［**AEブラケティング**］は使えません。 ［**カラー同時記録**］のチェックボックスをオンにすると、連写の設定は［**単写**］、［**AEブラケティング**］は［**OFF**］にリセットされます。 ［**インターバル撮影**］で白黒とカラーの同時記録をするときは、［**カラー同時記録**］をオンにしてから、［**インターバル撮影**］の設定をしてください。
	長秒時ノイズ低減（□102）	［**長秒時ノイズ低減**］を［**ON**］にして撮影するときは、［**連写 H**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**マルチ連写**］は使えません。
AFエリア選択	フォーカスモード（□40）	・［**ターゲット追尾**］以外に設定したときにフォーカスモードを ▲（遠景 AF）にすると、［**AF エリア選択**］の設定にかかわらず、遠景にピントが合います。 ・MF（マニュアルフォーカス）にすると、［**AF エリア選択**］を設定できません。
	測光方式（□93）	［**測光方式**］が［**AF スポット**］または［**スポット**］のときは、［**ターゲット追尾**］は使えません。
AFモード	フォーカスモード（□40）	フォーカスモードがMF（マニュアルフォーカス）のときは、［**AFモード**］を設定できません。

制限される機能	設定	内容
長秒時ノイズ低減	連写（□76）	［**連写 H**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**マルチ連写**］で撮影するときは、長秒時ノイズ低減は動作しません。
アクティブ D-ライティング	ISO感度設定（□92）	［**ISO感度設定**］が［**高感度オート**］または［**3200**］のときは、［**Active D-ライティング**］は使えません。［**高感度オート**］または［**3200**］にすると、［**Active D-ライティング**］は［**OFF**］にリセットされます。
デート写し込み	連写（□76）	［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**BSS**］にして撮影するときは、日付を写し込めません。
	AEブラケティング（□94）	日付を写し込めません。
目つぶり検出設定	連写（□76）/ AEブラケティング（□94）	連写の設定を［**単写**］以外にしたとき、AEブラケティングのときは、目つぶり検出しません。
電子ズーム	フォーカスモード（□40）	MF（マニュアルフォーカス）にすると、電子ズームは使えません。
	AFエリア選択（□95）	［**ターゲット追尾**］で撮影するときは、電子ズームは使えません。
	連写（□76）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、電子ズームは使えません。

関連ページ

電子ズームについてのご注意→□197

シャッタースピード

シャッタースピードの制御範囲は、ISO感度の設定によって異なります。
さらに、以下の連写設定時は、制御範囲が変わります。

設定		制御範囲（秒）
ISO感度設定（□92） ※1	オート※2、 感度制限オート ISO 160–400※2	1/1500～2（**P**、**S**モード） 1/1500～4（**A**モード） 1/1500～8（**M**モード）
	高感度オート※2	1/1500～2（**P**、**S**、**A**モード） 1/1500～8（**M**モード）
	感度制御オート ISO 160–200※2、 ISO 160、200	1/1500～2（**P**、**S**モード） 1/1500～8（**A**、**M**モード）
	ISO 400、800	1/1500～2（**P**、**S**モード） 1/1500～4（**A**、**M**モード）
	ISO 1600	1/1500～2
	ISO 3200	1/1500～1/2
連写（□76）	先取り撮影	1/4000～1/60
	高速連写 120 fps	1/4000～1/125
	高速連写 60 fps	1/4000～1/60
	マルチ連写	1/4000～1/30

※1 連写の設定によっては、ISO感度の設定が制限されます（□104）。
※2 **M**のときは、ISO160に固定されます。

U（ユーザーセッティング）モードを使う

撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）を**U**に登録できます。登録した設定は、モードダイヤルを**U**に合わせるだけで、すぐに呼び出せるので、そのまま撮影したり、一部の設定だけを変えて撮影したりするのに便利です。**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）または**M**（マニュアル露出）で撮影できます。**U**には、以下の設定内容を登録できます。

基本設定

撮影モード**P**/**S**/**A**/**M**（□69）※1	モニター表示（□16、17）※2	ズーム位置（□31）※2
フラッシュモード（□36）	フォーカスモード（□40）※3	露出補正（□43）
連写（□76）		

撮影メニュー

画質（□83）	画像サイズ（□84）	仕上がり設定（□87）
ホワイトバランス（□90）※4	ISO感度設定（□92）	測光方式（□93）
AEブラケティング（□94）	AFエリア選択（□95）※5	AFモード（□101）
調光補正（□101）	長秒時ノイズ低減（□102）	Active D-ライティング（□103）

※1 基準となる撮影モードを選びます。登録時のプログラムシフトの設定（**P** のとき）、シャッタースピード（**S**、**M**のとき）、絞り値（**A**、**M**のとき）も記憶します。
※2 登録時の液晶モニターの点灯状態やズーム位置も記憶します。
※3 フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）のときは、登録時のフォーカスの距離も記憶します。
※4 プリセットマニュアルのプリセット値は、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U**で共通です。
※5 ［**AFエリア選択**］が［**マニュアル**］のときは、登録時のAFエリアの位置も記憶します。

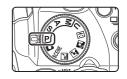
時計用電池のご注意

内蔵の時計用電池（□189）が切れると、**U**に登録した設定内容がリセットされますのでご注意ください。重要な設定は、必要に応じてメモしておくことをおすすめします。

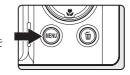
Uに設定内容を登録する

撮影でよく使う設定を変更して、Uに登録します。

1 登録したい露出モードにモードダイヤルを合わせる

- P、S、AまたはMに合わせてください。
- Uに合わせても登録できます（ご購入時は、撮影モードPの初期設定が登録されています）。

2 撮影時の設定をよく使う組み合わせに変更する

3 MENUボタンを押す

- 撮影メニューが表示されます。
- メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（□12）。

4 マルチセレクターで［**User Setting 登録**］を選んで、Ⓚボタンを押す

- ［**登録終了**］画面が表示され、現在の設定内容が登録されます。

U（ユーザーセッティング）モードで撮影する

モードダイヤルを回して、U に合わせると、［**User Setting 登録**］で登録した設定になります。

- そのまま、構図を決めて撮影するか、必要に応じて設定を変えて撮影します。
- モードダイヤルを U に合わせたときの設定の組み合わせは、［**User Setting 登録**］で何度でも再登録できます。

登録した設定内容をリセットする

Uに登録した設定内容をリセットできます。

1 撮影メニュー画面で［**User Setting** リセット］を選び、®ボタンを押す

2 ［**はい**］を選び、®ボタンを押す

- 登録された設定内容がリセットされます。

Uのリセットについて

ユーザーセッティングに登録された設定内容は、以下のようにリセットされます。

- 撮影モード：**P**（プログラムオート）
- モニター表示：情報ON
- ズーム位置：最も広角側
- フラッシュモード：AUTO（自動発光）
- フォーカスモード：AF（通常AF）
- 露出補正：0.0
- 連写：単写
- 撮影メニュー：それぞれの項目の初期設定と同じ

1コマ表示中の操作方法

撮影モードのときに▶（再生）ボタンを押すと再生モードになり、撮影した画像を再生します（□34）。1コマ表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
画像を選ぶ	（マルチセレクター）	▲▼◀ ▶で前後の画像を表示します。▲▼◀ ▶を押し続けると早送りします。コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。	11、12
画像を一覧表示する/カレンダー表示にする	W（▦）	4コマ、9コマ、16コマ、または72コマのサムネイル画像を表示します。72コマ表示でW（▦）方向に回すとカレンダー表示になります（撮影日一覧モードを除く）。	115、117
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。 Ⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	118
情報を表示/非表示にする	DISP	液晶モニターに表示される画像情報、撮影情報の表示/非表示を切り換えます。	17
モニターを切り換える	|□|	液晶モニターと電子ビューファインダーのどちらで再生するかを切り換えます。	16
連写グループを1コマずつ表示する	Ⓚ	連写した画像を代表画像の1コマのみで表示しているときに押すと、同じ連写グループのすべての画像を1コマずつ展開して表示します。代表画像のみの表示に戻すには、マルチセレクターの▲を押します。	113
かんたんパノラマで撮影した画像をスクロール再生する		表示中の画像の短辺を画面いっぱいに表示し、表示範囲を自動で移動します。	62
動画を再生する		表示中の動画を再生します。	168

機能	ボタン	内容	📖
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。お気に入り再生モード（📖122）、オート分類再生モード（📖129）、撮影日一覧モード（📖132）では、同じフォルダー、分類または撮影日の画像が削除の対象になります。	35、114
メニューを表示する	MENU	選んでいるモードに応じたメニューを表示します。	13
再生モードを切り換える	MENU	メニューを表示して、MODE（再生モード）タブを選ぶと、お気に入り再生モード、オート分類再生モード、撮影日一覧モードへの切り換えができます。	120
撮影画面に切り換える	▶ / シャッターボタン / ●（動画）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	34、157

画像の向き（縦横位置）を変更するには

撮影後に、再生メニュー（📖135）の［**画像回転**］（📖141）で変更できます。

連写で撮影した画像の再生（連写グループについて）

以下の設定で連続撮影した画像は、撮影ごとに「連写グループ」として保存されます。

- 連写メニュー（□76）の［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］
- 撮影メニュー（□81）の［**AEブラケティング**］（□94）
- シーンモードの［**スポーツ**］（□52）、［**ペット**］（□59）の［**連写**］

再生モードの1コマ表示やサムネイル表示（□115）では、連写グループの1コマ目の画像が代表画像として表示されます。

- 連写グループの画像には、再生画面で□が表示されます。

代表画像の1コマ表示中にⓀボタンを押すと、連写グループ内の画像を1コマずつ展開して表示します。代表画像のみの表示に戻すには、マルチセレクターの▲を押します。

連写グループ内の画像を1コマずつ展開して表示しているときは、以下の操作ができます。

- 画像を選ぶ：マルチセレクターの◀ ▶を押します。コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- 拡大表示する：ズームレバーを**T**（Q）方向に回します（□118）。

連写グループの表示方法について

再生メニューの［**連写グループ表示方法**］（□145）で、すべての連写グループの表示方法を代表画像のみにするか、1コマずつ展開して表示にするかを設定できます。

連写グループの代表画像を変更する

代表画像は、再生メニューの［**連写の代表画像選択**］（□145）で変更できます。

連写グループの画像を削除する

再生メニューで［**連写グループ表示方法**］（□145）を［**代表画像のみ**］にしていた場合、🗑ボタンを押して削除方法を選ぶと、以下の画像が削除の対象になります。

- 代表画像のみで、まとめて表示している場合：
  - ［**表示画像**］：連写グループを選択していたときは、同じ連写グループの画像をすべて削除します。
  - ［**削除画像選択**］：削除画像の選択画面（□35）で代表画像を選ぶと、同じ連写グループの画像をすべて削除します。
  - ［**全画像**］：表示中の連写グループを含む、すべての画像を削除します。
- 🗑ボタンを押す前に、代表画像を選びⓀボタンを押して、同じ連写グループ内の画像を1コマずつ展開している場合：削除方法の項目が以下に変わります。
  - ［**表示画像削除**］：表示している1コマを削除します。
  - ［**削除画像選択**］：削除画像の選択画面（□35）で、同じ連写グループの画像を複数選択して削除します。
  - ［**表示グループ削除**］：表示している1コマを含む、同じ連写グループの画像をすべて削除します。

連写グループについてのご注意

COOLPIX P500以外で連写した画像は、連写グループとして表示できません。

連写グループで使える再生メニュー

代表画像再生中にMENUボタンを押すと、同じ連写グループの画像を対象に以下のメニュー操作ができます。

• 簡単レタッチ※1	→□148	• D-ライティング※1	→□149
• 美肌※1	→□150	• フィルター効果※1	→□152
• プリント指定※2	→□135	• スライドショー	→□138
• プロテクト設定※2	→□139	• 画像回転※1	→□141
• 非表示設定※2	→□141	• スモールピクチャー※1	→□154
• 音声メモ※1	→□142	• 画像コピー※2	→□144
• 黒フレーム※1	→□155	• 連写グループ表示方法	→□145
• 連写の代表画像選択	→□145	• お気に入り登録※2	→□122

※1 1コマずつ展開して表示してからMENUボタンを押してください。画像ごとに設定できます。

※2 代表画像再生中にMENUボタンを押すと、同じ連写グループの画像をまとめて同じ設定にできます。1コマずつ展開して表示してからMENUボタンを押すと、画像ごとに設定できます。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（□34、111）でズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。

サムネイル表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
画像を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押します。コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。	11、12
表示コマ数を増やす/カレンダーを表示する	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、4コマ→9コマ→16コマ→72コマ表示に切り換わります。 72コマ表示で**W**（▦）方向に回すと、カレンダー表示になります（撮影日一覧モードを除く）。 「カレンダー表示」にすると、撮影日単位で画像の選択を移動できます（□117）。 **T**（Q）方向に回すと、サムネイル表示に戻ります。	–
表示コマ数を減らす	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、72コマ→16コマ→9コマ→4コマに切り換わります。 4コマ表示で**T**（Q）方向に回すと、1コマ表示に戻ります。	
1コマ表示に戻る	Ⓚ	Ⓚボタンを押します。	34、111
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。 お気に入り再生モード（□122）、オート分類再生モード（□129）、撮影日一覧モード（□132）では、同じフォルダーまたは分類の画像が削除の対象になります。	35

機能	ボタン	内容	📖
撮影画面に切り換える	▶ シャッターボタン ●（'🎥）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（'🎥 動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	34、157

サムネイルに表示されるマーク

［**プリント指定**］（📖135）や［**プロテクト設定**］（📖139）をした画像の選択中は右のマークが表示されます。
連写グループ（📖113）の画像を選択中は右のマークが表示されます。
動画は、映画フィルムの1コマのように表示されます（サムネイル表示を72コマ表示にした場合、動画の選択中は画面上部に🎥が表示されます）。

お気に入り再生およびオート分類再生中のサムネイル表示

- お気に入り再生（📖122）では、再生しているお気に入りフォルダーのアイコンが画面右上に表示されます。
- オート分類再生（📖129）では、再生している分類のアイコンが画面右上に表示されます。

カレンダー表示

再生モードのサムネイル表示を72コマ表示にした後（□115）、さらにズームレバーを**W**（▦）方向に回すと「カレンダー表示」になります（撮影日一覧モードを除く）。
撮影日単位で画像の選択を移動できます。撮影画像のある日付には、黄色の下線が表示されます。

2011 05
Su M Tu W Th F Sa
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30 31
[3]

カレンダー表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
日付を選ぶ	(マルチセレクター)	マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。コマンドダイヤルを回しても日付を選べます。	11、12
1コマ表示に戻る	ⓀK	選んだ日の最初に撮影した画像の1コマ表示に移動します。	34、111
画像の一覧表示に戻る	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。	–

カレンダー表示についてのご注意

- 日時を設定せずに撮影した画像は、カレンダー表示で「2011年1月1日」の画像として扱われます。
- カレンダー表示中は、MENUボタンおよび🗑ボタンは使えません。

撮影日一覧モードについて

「撮影日一覧モード」（□132）を使うと、同じ日付の画像だけを再生できます。また、選んだ日付の画像だけを対象に撮影日一覧メニュー（□133）の操作ができます。

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（📖34）でズームレバーを**T**（🔍）方向に回すと、表示中の画像の中央部が拡大表示されます。

• 画面右下のガイドは、画像のどの部分を表示しているかを示しています。

拡大表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	📖
拡大率を上げる	**T**（🔍）	ズームレバーを**T**（🔍）方向に回します。約10倍まで拡大できます。コマンドダイヤルを右に回しても拡大率が上がります。	11、31
拡大率を下げる	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。コマンドダイヤルを左に回しても拡大率が下がります。	11、31
表示範囲を移動する	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、表示範囲を移動します。	12
1コマ表示に戻る	Ⓚ	Ⓚボタンを押します。	34、111
画像を削除する	🗑	削除方法を選んで画像を削除します。お気に入り再生モード（📖122）、オート分類再生モード（📖129）、撮影日一覧モード（📖132）では、同じフォルダーまたは分類の画像が削除の対象になります。	35
画像の一部を切り抜く（トリミング）	MENU	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	156
撮影画面に切り換える	▶ / シャッターボタン / ●（🎥）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（🎥動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	34、157

いろいろな再生

顔認識またはペット検出して撮影した画像の場合

顔認識（📖97）またはペット検出（📖59）して撮影した画像は、1コマ表示でズームレバーを**T**（🔍）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます（連写（📖59、76）または［**AEブラケティング**］（📖94）を設定して撮影した画像を除く）。

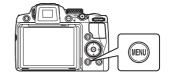
- 複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、マルチセレクターの▲▼◀▶を押すと表示する顔が切り換わります。
- さらに**T**（🔍）方向または**W**（▦）方向に回すと拡大率が変わり、通常の拡大表示になります。

分類して再生する

以下の再生モードを選べます。

▶	**再生**	□111
	撮影したすべての画像を再生します。	
★	**お気に入り再生**	□122
	お気に入りフォルダーに登録した画像を再生します。	
AUTO	**オート分類再生**	□129
	撮影時に自動分類された項目を選んで、画像や動画を再生します。	
12	**撮影日一覧**	□132
	撮影日を選んで、画像を再生します。	

1 再生時にMENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターの◀を押す

- タブが選べるようになります。

3 ▲▼を押してMODEタブを選ぶ

4 ▶またはOKボタンを押す

- 再生モードメニューが表示されます。

いろいろな再生

5 マルチセレクターで設定したいモードを選ぶ

- 再生モードを切り換えずに再生モードに戻るには、MENUボタンを押します。

6 ⓚボタンを押す

- 選んだモードに切り換わります。

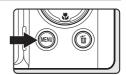
お気に入りの画像を分類する（お気に入り再生）

撮影した画像は、お気に入りフォルダーへ登録して分類できます。
登録後は、「お気に入り再生モード」にすると、登録した画像だけを再生できます。

- お気に入りフォルダーに登録しておくと、画像を探すときに見つけやすくなります。
- 画像を旅行や結婚式などのイベントごとに分類して再生できます。
- 同じ画像を複数のフォルダーに登録できます。

画像をお気に入りフォルダーに登録する

撮影した画像をお気に入りフォルダーに登録して分類します。

1 再生モード（34）、オート分類再生モード（129）または撮影日一覧モード（132）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

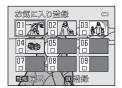
2 マルチセレクターで［お気に入り登録］を選び、Ⓚボタンを押す

- お気に入り登録画面が表示されます。

3 マルチセレクターの◀ ▶を押して、登録したい画像を選び、▲を押して✔を表示する

- 同じお気に入りフォルダーに登録したい画像が複数あるときは、この手順を繰り返します。
- 選択を解除するときは、▼を押して✔を非表示にします。
- ズームレバー（4）を **T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（⊞）方向に回すと一覧表示に切り換わります。
- Ⓚボタンを押すと、お気に入りフォルダー選択画面が表示されます。

4 マルチセレクターで登録したいお気に入りフォルダーを選び、Ⓚボタンを押す

- 登録が完了し、再生メニューに戻ります。
- 同じ画像を複数のフォルダーに登録するときは、手順2から操作を繰り返します。

お気に入り登録についてのご注意

- 1つのお気に入りフォルダーに登録できる画像は、最大200コマです。
- 動画はお気に入りフォルダーに登録できません。
- 選んだ画像がすでにお気に入りフォルダーに登録されているときは、登録されているお気に入りフォルダーのチェックボックスがオン（✔）になります。
- 画像をお気に入りフォルダーに登録しても、画像ファイルは記録したフォルダー（□215）からお気に入りフォルダーへコピーも移動もされません（□128）。

関連ページ

お気に入り登録を解除する → □125

お気に入りフォルダーの画像を再生する

「★お気に入り再生モード」にすると、画像を登録したお気に入りフォルダーを選んで画像を表示できます。

- 1コマ表示にすると、同じお気に入りフォルダーの画像だけを再生（□111）または編集（□146）できます。
- 1コマ表示またはサムネイル表示でMENUボタンを押して「お気に入り再生メニュー」（□126）を表示すると、同じお気に入りフォルダーの画像だけでスライドショー、プリント指定、プロテクト設定などができます。

1 再生時にMENUボタンを押してからMODE（再生モード）タブを選び、▶または®ボタンを押す（□120）

- ▲▼で★［**お気に入り再生**］を選んで®ボタンを押すと、お気に入りフォルダーの一覧表示になります。

2 マルチセレクターでお気に入りフォルダーを選ぶ

- お気に入りフォルダーの一覧画面の詳しい操作→□126

- ®ボタンを押すと、選んだお気に入りフォルダーの画像が、1コマ表示されます。
- 再生中のお気に入りフォルダーアイコンが画面右上に表示されます。
- お気に入りフォルダーを選び直すときは、手順1～2を繰り返します。

いろいろな再生

お気に入り登録を解除する

画像を削除しないで、お気に入りフォルダーから画像の登録を解除します。

1 登録を解除したいお気に入りフォルダーを選んで画像を再生し（□124）、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで ★［お気に入り解除］を選び、OKボタンを押す

- お気に入り解除画面が表示されます。

3 マルチセレクターの◀ ▶を押して、解除したい画像を選び、▲を押して✓を表示する

- 同じお気に入りフォルダーから解除したい画像が複数あるときは、この手順を繰り返します。
- 選択を解除するときは、▼を押して✓を非表示にします。

- ズームレバー（□4）を **T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと一覧表示に切り換わります。
- 選択が終了したらOKボタンを押します。

4 ［はい］を選んでOKボタンを押す

- 登録を解除します。
- 解除をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

✓ 削除についてのご注意

お気に入り再生モードで画像を削除すると、お気に入りフォルダーから画像が消えるだけでなく、内蔵メモリーまたはSDカードに記録されている元の画像も削除されますのでご注意ください（□128）。

お気に入り再生モードの操作

お気に入りフォルダーの一覧画面（📖124 手順2）では、以下の操作ができます。

機能	操作部	内容	📖
お気に入りフォルダーを選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押します。 コマンドダイヤルを回してもお気に入りフォルダーを選べます。	11、12
1コマ表示する	OK	選んだお気に入りフォルダーの画像を1コマ表示します。	111
画像を削除する	🗑	選んだお気に入りフォルダーに登録した画像を、すべて削除します。表示される削除確認画面で［**はい**］を選びます。	35
お気に入りフォルダーのアイコンを変更する	MENU	お気に入りフォルダーのアイコンを変更します。	127
撮影に切り換える	▶ シャッターボタン ●（動画）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	34、157

お気に入り再生で使える再生メニュー

お気に入り再生モードの1コマ表示またはサムネイル表示でMENUボタンを押すと、以下のメニュー操作ができます。

- 簡単レタッチ →📖148
- 美肌 →📖150
- プリント指定 →📖135
- プロテクト設定 →📖139
- 非表示設定 →📖141
- 音声メモ →📖142
- 連写グループ表示方法 →📖145
- お気に入り解除 →📖125
- D- ライティング →📖149
- フィルター効果 →📖152
- スライドショー →📖138
- 画像回転 →📖141
- スモールピクチャー →📖154
- 黒フレーム →📖155
- 連写の代表画像選択 →📖145

お気に入りフォルダーのアイコンを変更する

お気に入りフォルダーのアイコンのデザインは変更できます。変更すると、どのフォルダーにどのような分類で画像を登録したか分かりやすくなります。

1 再生時にMENUボタンを押してからMODE（再生モード）タブを選び、▶または㊉ボタンを押す（📖120）

- ▲▼で★［**お気に入り再生**］を選んで㊉ボタンを押すと、お気に入りフォルダーの一覧表示になります。

2 マルチセレクターでお気に入りフォルダーを選び、MENUボタンを押す

- アイコン選択画面が表示されます。

3 ◀ ▶でアイコンの色を選び、㊉ボタンを押す

4 ▲▼◀ ▶でアイコンを選び、㊉ボタンを押す

- アイコンが変更され、お気に入りフォルダーの一覧画面に戻ります。

☑ お気に入りフォルダーのアイコン設定についてのご注意

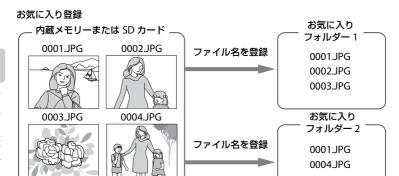
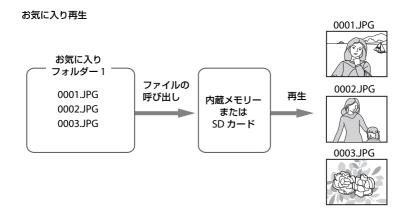
お気に入りフォルダーのアイコンは、内蔵メモリーまたはSDカードごとに設定してください。

- 内蔵メモリーのお気に入りフォルダーアイコンを変更するときは、SD カードをカメラから取り出してください。
- アイコンの初期設定は数字アイコン（黒色）です。

お気に入りの登録/再生について

画像をお気に入りフォルダーに登録しても、画像ファイルは記録したフォルダー（□215）からお気に入りフォルダーへコピーも移動もされません。お気に入りフォルダーには、画像のファイル名が登録されます。お気に入り再生モードでは、お気に入りフォルダーに登録されているファイル名から画像を呼び出して再生します。
お気に入り再生モードで画像を削除（□35、126）すると、お気に入りフォルダーから画像が消えるだけでなく、内蔵メモリーまたはSDカードに記録されている元の画像が削除されますのでご注意ください。

お気に入り登録

お気に入り再生

オート分類再生で画像を探す

画像や動画は、撮影時に以下のいずれかの項目に自動的に分類されます。
「AUTO オート分類再生モード」にすると、撮影時に分類された項目を選んで画像や動画を表示できます。

笑顔	人物	料理
風景	夜景	接写
ペット	動画	編集済み画像
その他の画像		

- 1コマ表示にすると、同じ分類の画像だけを再生（111）または編集（146）できます。お気に入りフォルダーへの分類もできます。
- MENU ボタンを押して「オート分類再生メニュー」（131）を表示すると、同じ分類の画像だけでスライドショー、プリント指定、プロテクト設定などができます。

オート分類再生モードで画像を表示する

1 再生時にMENUボタンを押してから MODE（再生モード）タブを選び、▶ またはOKボタンを押す（120）

- ▲▼ で AUTO［**オート分類再生**］を選んでOKボタンを押すと、分類項目の一覧画面になります。

2 マルチセレクターで分類項目を選ぶ

- 分類項目についての詳細 →「分類の種類と内容」（130）
- 分類項目の一覧画面の詳しい操作→「オート分類再生モードの操作」（131）
- OKボタンを押すと、選んだ項目の画像が1コマ表示されます。
- 再生中の項目のアイコンが、画面右上に表示されます。
- 分類項目を選び直すときは、手順 1 ～ 2 を繰り返します。

いろいろな再生

分類の種類と内容

項目	内容
笑顔	ベストフェイスモード（65）で笑顔自動シャッターを［**ON**］にして撮影した画像。
人物	**P**、**S**、**A**、**M**、**U**モードで顔認識撮影（97）した画像。 以下のシーンモードで撮影した画像。 • （夜景ポートレート）※（49） • （逆光）※（50） • ［**ポートレート**］※（51）、［**パーティー**］（52）
料理	シーンモードの［**料理**］（56）で撮影した画像。
風景	シーンモードの［**風景**］※（51）で撮影した画像。
夜景	以下のシーンモードで撮影した画像。 • （夜景）※（48） • ［**夕焼け**］（53）、［**トワイライト**］（54）、［**打ち上げ花火**］（57）
接写	フォーカスモード（40）を［**マクロAF**］に設定して撮影した画像。 シーンモードの［**クローズアップ**］※（55）で撮影した画像。
ペット	シーンモードの［**ペット**］（59）で撮影した画像。
動画	動画（157）。
編集済み画像	画像編集（146）で作成した画像。
その他の画像	他の分類項目に該当しない画像。

※ おまかせシーン（46）で切り換わった場合も含みます。

オート分類再生モードについてのご注意

- 1つの分類項目で表示できるのは、最大999コマです。撮影時にすでに999コマある分類項目に該当した画像/動画は、オート分類再生モードに登録できず、オート分類再生モードで表示できません。通常の再生モード（34）または撮影日一覧モード（132）で表示してください。
- 内蔵メモリーまたはSDカードからコピーした画像や動画（144）は、オート分類再生モードでは表示できません。
- COOLPIX P500 以外で記録した画像や動画は、オート分類再生モードで表示できません。

オート分類再生モードの操作

オート分類再生の一覧画面（📖129 手順2）では、以下の操作ができます。

機能	操作部	内容	📖
項目を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押します。 コマンドダイヤルを回しても項目を選べます。	11、12
1コマ表示する	OK	選んだ項目の画像を1コマ表示します。	111
画像を削除する	🗑	選んだ項目の画像を、すべて削除します。表示される削除確認画面で［**はい**］を選びます。	35
撮影に切り換える	▶ シャッターボタン ●（動画）	▶ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	34、157

オート分類再生で使える再生メニュー

オート分類再生モードの1コマ表示またはサムネイル表示でMENUボタンを押すと、以下のメニュー操作ができます。

- 簡単レタッチ →📖148
- 美肌 →📖150
- プリント指定 →📖135
- プロテクト設定 →📖139
- 非表示設定 →📖141
- 音声メモ →📖142
- 連写グループ表示方法 →📖145
- お気に入り登録 →📖122
- D- ライティング →📖149
- フィルター効果 →📖152
- スライドショー →📖138
- 画像回転 →📖141
- スモールピクチャー →📖154
- 黒フレーム →📖155
- 連写の代表画像選択 →📖145

いろいろな再生

特定の日付の画像を選ぶ（撮影日一覧）

「🗓 撮影日一覧モード」にすると、同じ撮影日の画像だけを再生できます。

- 1コマ表示にすると、通常の再生モードと同様に、撮影情報の表示、拡大表示、画像の編集または動画再生ができます。お気に入りフォルダーへの分類もできます。
- MENU ボタンを押して「撮影日一覧メニュー」（📖133）を表示すると、同じ日付の画像だけでスライドショー、プリント指定、プロテクト設定などができます。

撮影日一覧モードで画像を表示する

1 再生時にMENUボタンを押してからMODE（再生モード）タブを選び、▶または🆗ボタンを押す（📖120）

- ▲▼で🗓［**撮影日一覧**］を選んで🆗ボタンを押すと、撮影日の一覧画面になります。

2 マルチセレクターで撮影日を選ぶ

- 表示される撮影日は最大29日分までです。撮影日が30日以上あると、［**過去画像**］として30日以降の画像がすべてまとめられます。
- 撮影日の一覧画面の詳しい操作→📖133
- 🆗ボタンを押すと、選んだ日に最初に撮影した画像が1コマ表示されます。
- 撮影日を選び直すときは、手順1～2を繰り返します。

✔ 撮影日一覧モードについてのご注意

- 撮影日一覧モードで表示できる画像は、最新の画像から9,000コマまでです。9,001コマ目を含む日付の画像枚数表示には、「＊」マークが表示されます。
- 日時を設定せずに撮影した画像は、「2011年1月1日」の画像として扱われます。

撮影日一覧モードの操作

撮影日の一覧画面（132 手順2）では、以下の操作ができます。

機能	操作部	内容	
日付を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼を押します。 コマンドダイヤルを回しても日付を選べます。	11、12
1コマ表示する	OK	選んだ日付の画像を1コマ表示します。	111
画像を削除する	削除ボタン	選んだ日付の画像を、すべて削除します。表示される削除確認画面で［**はい**］を選びます。	35
撮影日一覧メニューを表示する	MENU	撮影日一覧メニューを表示します。	–
撮影に切り換える	▶ シャッターボタン ●（動画）	▶ ボタンまたはシャッターボタンを押します。●（動画撮影）ボタンを押しても、撮影に切り換わります。	34、157

撮影日一覧で使える再生メニュー

撮影日一覧モードでMENUボタンを押すと、選んだ日付の画像だけを対象に、以下のメニュー操作ができます。

- 簡単レタッチ※1 →148
- 美肌※1 →150
- プリント指定※2 →135
- プロテクト設定※2 →139
- 非表示設定※2 →141
- 音声メモ※1 →142
- 連写グループ表示方法 →145
- お気に入り登録※1 →122
- D-ライティング※1 →149
- フィルター効果※1 →152
- スライドショー →138
- 画像回転※1 →141
- スモールピクチャー※1 →154
- 黒フレーム※1 →155
- 連写の代表画像選択 →145

※1 1コマ表示にしてからMENUボタンを押してください。

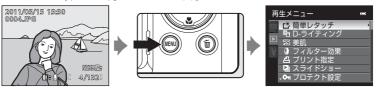
※2 撮影日の一覧画面（132 手順2）でMENUボタンを押すと、選んだ日付の画像をまとめて同じ設定にできます。1コマ表示でMENUボタンを押すと、画像ごとに設定できます。

再生メニューを使う

再生メニューでは、以下の機能が使えます。

機能	参照
簡単レタッチ	□148
コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。	
D-ライティング	□149
撮影した画像の暗い部分を明るく補正します。	
美肌	□150
人物の顔の肌をなめらかにします。	
フィルター効果	□152
デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。	
プリント指定	□135
プリンターでプリントする画像や、その枚数などを設定します。	
スライドショー	□138
内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	
プロテクト設定	□139
大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	
画像回転	□141
撮影した画像の向きを変更します。	
非表示設定	□141
撮影した画像をカメラで再生できないようにします。	
スモールピクチャー	□154
撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。	
音声メモ	□142
撮影した画像に、音声によるメモを付けます。	
画像コピー	□144
内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	
黒フレーム	□155
撮影した画像に黒い枠を付けた画像を新しく作ります。	
連写グループ表示方法	□145
連写した画像を1コマずつ表示するか、代表画像のみの表示にするかを設定します。	
連写の代表画像選択	□145
連写した一連の画像（連写グループ、□113）の代表画像を変更します。	
お気に入り登録	□122
お気に入りの画像を選んで登録します。	
お気に入り解除	□125
お気に入り登録を解除します。	

再生メニューの表示方法

▶ボタンを押して再生モードにします（□34）。
MENUボタンを押して、再生メニューを表示します。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（□12）。
- 再生メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

プリント指定（プリントする画像や枚数の設定）

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ プリント指定

SDカードに記録した画像を以下の方法でプリントする場合、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめSDカードに設定できます。

- カードスロットが付いたDPOF対応（□233）のプリンターでプリントする。
- DPOF対応のプリントサービス店にプリントを依頼する。
- カメラを PictBridge 対応（□233）のプリンターに接続してプリントする（□179）（カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます）。

1 マルチセレクターで［複数画像選択］を選び、Ⓚボタンを押す

いろいろな再生

2 プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- マルチセレクターの◀▶を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらOKボタンを押します。

3 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］を選んでOKボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］を選んでOKボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［**選択終了**］を選んでOKボタンを押し、設定を有効にします。

プリント指定を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

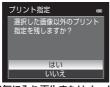
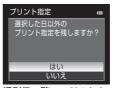
✔ 日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（□233）で印字できます。

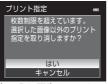
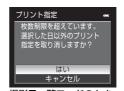
- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（□184）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］を表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**地域と日時**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

[プリント指定] についてのご注意

お気に入り再生、オート分類再生または撮影日一覧モードでプリント指定するときに、選んだ分類または撮影日以外の画像がすでにプリント指定されていると、以下の画面が表示されます。

- [**はい**] を選ぶと、他の画像のプリント指定に今回の設定内容を追加します。
- [**いいえ**] を選ぶと、他の画像のプリント指定をすべて解除して、今回の設定だけを残します。

お気に入り再生またはオート分類再生モードのとき

撮影日一覧モードのとき

また、今回の設定内容を追加することで設定コマ数が99コマを超える場合は、以下の画面が表示されます。

- [**はい**] を選ぶと、他の画像のプリント指定をすべて解除して、今回の設定だけを残します。
- [**キャンセル**] を選ぶと、他の画像のプリント指定を残して、今回の設定を取り消します。

お気に入り再生またはオート分類再生モードのとき

撮影日一覧モードのとき

プリント指定をすべて取り消すには

プリント指定の手順1（□135）で [**プリント指定取消**] を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。

[デート写し込み] について

セットアップメニューの [**デート写し込み**]（□192）を使うと、撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。デート写し込みした画像は、[**プリント指定**] で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□86

スライドショー

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ スライドショー

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 マルチセレクターで［**開始**］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［**開始**］を選ぶ前に［**インターバル設定**］を選んでⓀボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［**開始**］を選ぶ前に［**エンドレス**］を選んでⓀボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にマルチセレクターの ▶ を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 途中で終了または一時停止したいときは、Ⓚボタンを押します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中は、右の画面になります。［**終了**］を選び、Ⓚボタンを押すと再生メニューに戻ります。［**再開**］を選ぶとスライドショーを再開します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（□168）は1フレーム目だけを表示します。
- 連写グループ（□113）の表示方法が［**代表画像のみ**］の場合は、代表画像だけを表示します。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、スライドショーでは再生されません。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大約30分です（□199）。

プロテクト設定

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。

画像選択の画面で、画像を選んでプロテクトの設定または解除をします。→
「画像選択画面の操作方法」（140）

ただし、内蔵メモリー /SDカードを初期化（フォーマット、200）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時にマーク（10、116）が表示されます。

画像選択画面の操作方法

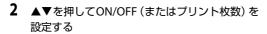
以下のメニューでは、画像選択時に右のような画面が表示されます。
1画像のみ選べるメニュー項目と、複数の画像を選べるメニュー項目があります。

1画像だけ選べる機能	複数の画像を選べる機能
・**再生メニュー**： 画像回転（□141）、 連写の代表画像選択（□145） ・**セットアップメニュー**： オープニング画面の［**撮影した画像**］（□187）	・**再生メニュー**： プリント指定の［**複数画像選択**］（□135）、 プロテクト設定（□139）、 非表示設定（□141）、 画像コピーの［**選択画像コピー**］（□144） お気に入り登録（□122）、 お気に入り解除（□125） ・画像削除の［**削除画像選択**］（□35）

以下の手順で画像を選びます。

1 マルチセレクターの◀ ▶を押して、画像を選ぶ

- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 1画像だけ選べる機能の場合→手順3へ

2 ▲▼を押してON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ONにすると、選択画像に✓が表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 ⓚボタンを押して画像選択を決定する

- ［**選択画像コピー**］などでは、確認画面になります。画面の表示に従って操作してください。

画像回転

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 画像回転

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。静止画を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。
撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。

画像選択の画面で回転する画像を選ぶと（□140）、画像回転の画面が表示されます。マルチセレクターの◀または▶を押すと90度回転します。

反時計方向に
90度回転

時計方向に
90度回転

OKボタンを押すと、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。

連写グループの画像回転について

連写グループの画像を代表画像のみの表示にしているときは、画像回転はできません。1コマずつ展開して表示してから設定してください（□113、145）。

非表示設定

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 非表示設定

撮影した画像をカメラで再生できないようにします。
画像選択の画面で、画像を選んで非表示の設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（□140）
非表示設定した画像は🗑ボタンでは削除されません。ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、□200）すると、非表示設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

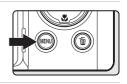
🎙 音声メモ

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 🎙 音声メモ

撮影した画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

音声メモを録音する

1 1コマ表示（📖34）またはサムネイル表示（📖115）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで🎙［音声メモ］を選び、OKボタンを押す

- 音声メモの録音画面になります。

3 OKボタンを押し続けて、音声メモを録音する

- OK ボタンを押している間、約 20 秒まで音声メモを録音できます。
- 録音中はカメラのマイクに触れないようご注意ください。

- 録音中はRECと♪が点滅します。
- 録音が終了すると、音声メモ再生画面になります。「音声メモを再生する」（📖143）の手順3に従って再生できます。
- 録音前または録音終了後にマルチセレクターの◀を押すと、再生メニューに戻ります。MENUボタンを押すと、再生メニューを終了します。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名 → 📖215

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像には、1コマ表示で[♪]が表示されます。

1 1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で音声メモ付き画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで🎤［**音声メモ**］を選び、OKボタンを押す

- 音声メモの再生画面になります。

3 OKボタンを押して音声メモを再生する

- 再生を途中で止めるには、OKボタンを押します。
- 再生中は、ズームレバー **T**/**W** で音量を調節できます。
- 再生前または再生終了後にマルチセレクターの◀を押すと、再生メニューに戻ります。MENUボタンを押すと、再生メニューを終了します。

音声メモを削除する

音声メモ付き画像を選んで🗑ボタンを押します。マルチセレクターの▲▼を押して［**表示画像**］を選び、OKボタンを押します（□35）。確認画面が表示されたら、▲▼で［[♪]］を選んでOKボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

✔ 音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX P500以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。

画像コピー（内蔵メモリーとSDカード間のコピー）

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 マルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

- IN➔SD：内蔵メモリーから SD カードへコピーします。
- SD➔IN：SD カードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、OKボタンを押す

- ［**選択画像コピー**］：画像選択の画面（□140）で、画像を選んでコピーします。代表画像のみで表示している連写グループ（□113）を選ぶと、表示中の連写グループの画像をすべてコピーします。
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。連写グループの画像を選んだときは、表示されません。
- ［**表示グループコピー**］：再生メニューを表示する前に、連写グループの画像を選んでいると、表示されます。再生中の連写グループの画像をすべてコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできるファイルの形式は、JPEG、MOV、WAVです。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 画像に付けた「音声メモ」（□142）や、［**プロテクト設定**］（□139）の設定も、画像と同時にコピーします。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（□135）の設定内容や、お気に入り登録（□122）の登録内容は、コピーされません。
- ［**非表示設定**］（□141）した画像はコピーできません。
- 内蔵メモリーまたは SD カードからコピーした画像や動画は、オート分類再生モード（□129）では表示できません。
- ［**連写グループ表示方法**］（□145）を［**代表画像のみ**］に設定し、連写グループの画像を選んでOKボタンを押して、1コマずつ展開して表示しているとき（□113）は、SD➔IN（SDカードから内蔵メモリー）方向のみ画像コピーできます。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されますが、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

連写グループ表示方法

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 連写グループ表示方法

連写した一連の画像（連写グループ、□113）を再生モードの1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で表示する方法を設定します。
設定内容は、すべての連写グループに反映され、電源をOFFにしても記憶されます。

1枚ずつ

連写した画像を、1コマずつに展開して表示します。

代表画像のみ（初期設定）

1コマずつに展開した連写グループを、代表画像のみの表示に戻します。

連写の代表画像選択

▶ボタンを押す（再生モード）➔ MENU（再生メニュー）➔ 連写の代表画像選択

［**連写グループ表示方法**］を［**代表画像のみ**］にしたときに、再生モードの1コマ表示（□34）やサムネイル表示（□115）で表示する代表画像を、連写グループごとに変更します。

- 設定するときはMENUボタンを押す前に、1コマ表示またはサムネイル表示で、設定したい連写グループを選びます。
- 代表画像の選択画面が表示されたら、画像を選びます。→「画像選択画面の操作方法」（□140）

画像編集の種類

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別に、異なるファイル名で保存されます（□215）。

編集の種類	用途
簡単レタッチ (□148)	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。
D-ライティング (□149)	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
美肌 (□150)	人物の顔の肌をなめらかにします。
フィルター効果 (□152)	デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。効果の種類には、［**ソフト**］、［**セレクトカラー**］、［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］があります。
スモールピクチャー (□154)	サイズの小さい画像を作成します。電子メールに添付して送信するときなどに使います。
黒フレーム (□155)	画像の周りに黒い枠を付けます。画像に境界線を付けたいときなどに使います。
トリミング (□156)	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。

☑ 画像編集についてのご注意

- ［**画像サイズ**］（□84）を［**3984×2656**］、［**3968×2232**］、［**1920×1080**］、［**2992×2992**］にして撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。
  ハイビジョンまたはフルハイビジョン画質の動画撮影中に記録した静止画も、黒フレーム以外の編集ができません（□155）。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、編集できません。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、美肌の編集はできません（□150）。
- COOLPIX P500以外で撮影した画像は、このカメラで編集できません。
- COOLPIX P500以外のデジタルカメラでは、このカメラで編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。
- 代表画像のみで表示している連写グループ（□113）は、以下のいずれかの操作をしてから、編集してください。
  - Ⓚボタンを押して1コマずつに展開してから、グループ内の画像を選ぶ
  - ［**連写グループ表示方法**］（□145）を［**1枚ずつ**］に設定し、1 コマずつに展開してから、画像を選ぶ

画像編集の制限

編集で作成した画像に別の編集を追加するときには、以下の制限があります。

編集に使った機能	追加できる編集機能
簡単レタッチ **D-ライティング** **フィルター効果**	美肌、スモールピクチャー、黒フレームまたはトリミングができます。簡単レタッチ、D-ライティング、またはフィルター効果を組み合わせることはできません。
美肌	簡単レタッチ、D-ライティング、フィルター効果、スモールピクチャー、黒フレームまたはトリミングができます。
スモールピクチャー	追加編集できません。
黒フレーム	スモールピクチャーができます。
トリミング	黒フレームができます。

- 編集で作成した画像に同じ種類の編集を繰り返すことはできません。
- スモールピクチャーと別の編集機能を組み合わせるときは、スモールピクチャーは最後に編集してください。
- 撮影時に美肌機能を使って撮影した画像にも、美肌の編集ができます。

元画像と編集画像の関係について

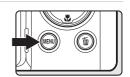
- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［**プリント指定**］（□135）や［**プロテクト設定**］（□139）した画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

画像を編集する

簡単レタッチ（コントラストと鮮やかさを高める）

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を、簡単に作成できます。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで [簡単レタッチ] を選び、OKボタンを押す

- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

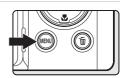
- レタッチした画像が作成されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。

- 簡単レタッチで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。補正した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［D-ライティング］を選び、OKボタンを押す

- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 補正した画像が作成されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。

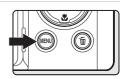
- D-ライティングで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

美肌（肌をなめらかにする）

撮影した画像から人物の顔を検出して、顔の肌をなめらかにします。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［美肌］を選び、OKボタンを押す

- 効果の度合いを設定する画面が表示されます。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、警告メッセージが表示され、再生メニューに戻ります。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 確認画面になり、美肌編集した顔が拡大表示されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。

4 効果を確認する

- 最も画面の中央に近い順に、最大12人の肌を編集します。
- 美肌編集した顔が複数あるときは、マルチセレクターの◀ ▶を押すと顔の切り換えができます。
- 効果の度合いを変えたいときは、MENUボタンを押して、手順3に戻ります。
- ⓚボタンを押すと、美肌編集した画像が作成されます。
- 美肌編集で作成した画像は、再生画面で⊡が表示されます。

美肌についてのご注意

顔の向きや明るさなど、画像によっては、適切に顔を検出できないことや望ましい効果が得られないことがあります。

関連ページ

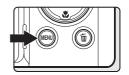
記録データのファイル名とフォルダー名→□215

フィルター効果（デジタルフィルター）

デジタルフィルターでいろいろな効果を付けます。以下の効果を選べます。
フィルター効果で作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

種類	内容
ソフト	画像の中央部から外側をぼかしたような雰囲気にします。顔認識（□97）やペット検出（□59）して撮影した画像の場合は、顔を中心に周りをぼかします。
セレクトカラー	画像の特定の色だけを残し、他の部分を白黒にします。
クロススクリーン	太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋を伸ばします。夜景などを撮影した画像が適しています。
魚眼効果	魚眼レンズで撮影したような画像にします。マクロで撮影した画像が適しています。
ミニチュア効果	ミニチュア（模型）を接写したように加工します。高いところから見下ろして撮影した画像で、主要な被写体が画面中央付近に写った画像が適しています。

1 1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで ［フィルター効果］を選び、OKボタンを押す

3 フィルター効果の種類を選び、OKボタンを押す

- 確認画面が表示されます。
- ［**クロススクリーン**］、［**魚眼効果**］、［**ミニチュア効果**］を選んだ場合→手順5

4 効果を調節する

- ［**ソフト**］：▲または▼で効果の範囲を選び、Ⓚボタンを押します。

- ［**セレクトカラー**］：▲または▼でスライダーを動かし、残したい色合いを選び、Ⓚボタンを押します。

5 効果を確認し、［保存］を選んでⓀボタンを押す

- 編集した画像が作成されます。
- 中止するときは、［**キャンセル**］を選び、Ⓚ ボタンを押します。

- フィルター効果で作成した画像は、再生画面で が表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→215

スモールピクチャー（画像サイズを小さくする）

撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。ホームページで使ったり、電子メールへ添付したりするのに便利です。サイズは［**640×480**］、［**320×240**］または［**160×120**］から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

1 1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［スモールピクチャー］を選び、OKボタンを押す

3 スモールピクチャーのサイズを選び、OK ボタンを押す

4 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。
- スモールピクチャーで作成した画像は、黒の枠で囲まれて表示されます。

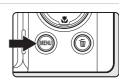
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

🅱🅺 黒フレーム（画像の周りに黒い枠を付ける）

撮影した画像の周りに黒い枠を付けます。枠の太さは、［**細**］、［**中**］、［**太**］から選べます。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（□34）またはサムネイル表示（□115）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで🅱🅺［黒フレーム］を選び、Ⓚボタンを押す

3 枠の太さを選び、Ⓚボタンを押す

4 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 黒い枠を付けた画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、Ⓚボタンを押します。
- 黒フレームで作成した画像は、再生画面で🅱🅺が表示されます。

黒フレームについてのご注意

- 黒い枠は画像の上に重ねられるため、黒い枠の太さに応じて画像が削られます。
- 黒い枠を付けた画像をフチなしでプリントすると、黒い枠がプリントされないことがあります。

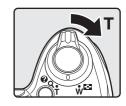
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

✂ トリミング（画像の一部を切り抜く）

拡大表示（📖118）中にMENU:✂マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元画像とは別に保存されます。

1 1コマ表示（📖34）でズームレバーを**T**（Q）方向に回して、画像を拡大表示する

- 縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、トリミング画像は横位置になります。縦位置のトリミング画像を作るには［**画像回転**］（📖141）で横位置にしてからトリミングし、再度トリミング画像を縦位置に戻します。

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーを**T**（Q）または**W**（▦）方向に回して拡大率を調節します。
- マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 マルチセレクターで［**はい**］を選び、Ⓚボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、Ⓚボタンを押します。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。トリミングして画像サイズが 320×240 または 160×120 になった画像は、再生時に黒の枠で囲まれ、画面左側にスモールピクチャーの▣または▣アイコンが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→📖215

動画を撮影する

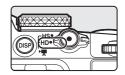
ハイビジョンの動画（音声付き）を撮影できます。

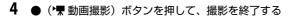
- 動画撮影には SD カードが必要です。カメラに SD カードを入れてください（□26）。
- 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズが4 GBまで、または最長29分までです（□166）。

1 電源をONにして、撮影画面を表示する

- 動画は、どの撮影モード（□44）を選んでいても撮影できます。
- 動画設定は、撮影する動画の種類を表します。初期設定は、**1080/30p**［**HD 1080p★ (1920×1080)**］です（□164）。SDカードが入っていないときは表示されません。
- 動画は、画角（写る範囲）が静止画に比べて狭くなります。**DISP**（表示切り換え）ボタンを押して動画枠を表示すると（□17）、撮影前に動画の写る範囲を確認できます。

2 動画モードスイッチをHDに合わせる

- フラッシュは閉じてください。上がっていると録音の妨げになる場合があります。

3 ●（▶▀ 動画撮影）ボタンを押して、動画の撮影を開始する

- 液晶モニターが一度消灯した後、動画撮影が開始します。
- 画面中央でピントが合います。動画の撮影中は、AFエリアは表示されません。
- ハイビジョンまたはフルハイビジョンで撮影する場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります（右の画面の範囲で記録されます）。
- 撮影中は、記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。
- 記録可能な残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

4 ●（▶▀ 動画撮影）ボタンを押して、撮影を終了する

動画撮影についてのご注意

- SDカードは、SDスピードクラスがClass 6以上のSDカードをおすすめします（□214）。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 電子ズームを使うと、画質は劣化します。電子ズームを使わずに動画撮影を開始したときは、ズームレバーを**T**方向に回し続けると、光学ズームの最大倍率でズームが止まります。いったんズームレバーから指をはなして、もう一度**T**方向に回すと電子ズームが作動します。
  電子ズームは、動画撮影を終了するとキャンセルされます。
- ズームレバーなどの操作音、ズーム、オートフォーカス、明るさが変化したときの絞り制御などの動作音が録音されることがあります。
- 動画撮影中の液晶モニターの表示に、以下のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
  - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画像に横帯が発生する
  - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体がゆがむ
  - カメラを左右に動かした場合、画面全体がゆがむ
  - カメラを動かした場合、照明などの明るい部分に残像が発生する

オートフォーカスについてのご注意

- 動画メニューの［**AFモード**］がAF-S［**シングルAF**］（初期設定）の場合、●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときに、ピントは固定されます（□166）。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□33）では、ピント合わせができないことがあります。このような被写体を動画で撮影するときは、以下の方法をお試しください。
  1. 撮影前に動画メニューの［**AFモード**］をAF-S［**シングルAF**］（初期設定）にする。
  2. 等距離にある別の被写体を画面中央に配置して●（動画撮影）ボタンを押し、動画撮影を開始してから構図を変える。

  撮影前にフォーカスモードをMF（マニュアルフォーカス）にして、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影することもできます。（□42）。

カメラの温度について

動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。

動画の保存についてのご注意

撮影終了後、撮影画面に切り換わるまで、動画の保存は終了していません。**バッテリー / SDカードカバーを開けないでください。**保存が終了する前にSDカードやバッテリーを取り出すと、動画が記録されないことや、撮影した動画やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

動画撮影で使える機能

- フォーカスモードや露出補正、撮影メニューの［**仕上がり設定**］、［**ホワイトバランス**］の設定も撮影する動画に反映します。動画の撮影を開始する前に設定を確認してください。
- 撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**または**U**の場合、［**測光方式**］（□93）の設定は、動画撮影にも反映されます（［**AFスポット**］を除く）。
- セルフタイマー（□39）を使えます。セルフタイマーを設定してから、●（動画撮影）ボタンを押すと、画面中央でピントが合い、10秒または2秒後に動画撮影を開始します。
- フラッシュは発光しません。
- 動画の撮影を開始する前にMENUボタンを押して、（動画）タブに切り換えると動画メニューの設定ができます（□163）。
- 動画撮影時の手ブレ補正は、動画メニューの［**電子式手ブレ補正**］（□167）で設定します。

スローモーション動画または早送り動画を撮影する（HS動画）

HS（ハイスピード）動画を撮影できます。HS動画で撮影した部分は、通常再生の1/8～1/2の速度のスローモーションや2倍の早送りで再生されます。動画撮影中に通常速度の動画からスローモーション、または早送りの動画に切り換えることもできます。

1 電源を ON にして、動画モードスイッチをHSに合わせる

- HS動画設定は、撮影するHS動画の種類を表します（□165）。SDカードが入っていないときは表示されません。
- フラッシュは閉じてください。上がっていると録音の妨げになる場合があります。

2 ●（▶▀ 動画撮影）ボタンを押して、撮影を開始する

- 液晶モニターが一度消灯した後、HS動画の撮影が開始します。
- 画面中央でピントが合います。動画の撮影中は、AFエリアは表示されません。
- ［**HS 動画で記録開始**］（□165）を［**OFF**］にすると、通常速度の動画撮影が始まります。スローモーションまたは早送りにしたい場面でⓞⓚボタンを押して、HS動画に切り換えます。
- ⓞⓚボタンを押すたびに、通常速度とHS動画の切り換えができます。
- HS 動画の最長撮影時間（□165）が経過したときも、通常速度の動画撮影に切り換わります。
- 記録可能時間の表示は、HS動画の撮影中、HS動画の最長撮影時間に切り換わります。
- HS動画設定の表示は、撮影中の動画の種類に応じて切り換わります。

通常速度の動画撮影時

HS動画撮影時

3 ●（▶▀ 動画撮影）ボタンを押して、撮影を終了する

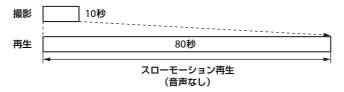
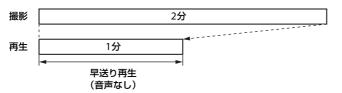
動画の撮影と再生

HS動画についてのご注意

- スローモーションまたは早送り再生になる部分に、音声は記録されません。
- 動画モードスイッチを HS にして動画撮影するときは、手ブレ補正機能を使えません。ズーム位置、ピント、露出、ホワイトバランスは、●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときに固定されます。

HS動画について

撮影した動画は、HS動画で撮影した部分を含めて、約30フレーム/秒で再生されます。［**HS動画設定**］（□165）を［**240 fps**］、［**120 fps**］または［**60 fps**］に設定すると、スローモーション再生が可能な動画を撮影できます。［**15 fps**］に設定すると、2倍の早送り再生が可能な動画を撮影できます。

［240 fps］の速度で撮影した部分：
撮影時に最長10秒間をハイスピードで記録します。ハイスピードで記録した部分は、8倍の時間をかけてスローモーションで再生されます。

［15 fps］の速度で撮影した部分：
撮影時に最長2分間を早送り再生用に記録します。再生すると2倍の速さの早送りになります。

動画撮影中に静止画を記録する

動画の撮影中に、シャッターボタンを全押ししたときの1フレームを静止画として記録できます。静止画の記録中も動画撮影が続きます。

- 画面左上に📷が表示されているときに静止画を記録できます。
- 静止画の記録中は、📷の表示が消えます。📷が再表示されると、また静止画を記録できます。
- 記録される静止画の画質は［**NORMAL**］です。画像サイズは元の動画の種類（解像度）（□164）によって異なります。

動画の種類（解像度）	静止画の画像サイズ
HD 1080p★（1920×1080)/ HD 1080p (1920×1080)	（1920×1080）
HD 720p (1280×720)	（1280×720）
VGA (640×480)	（640×480）

動画撮影中の静止画記録についてのご注意

- 動画記録可能時間が30秒未満のときは、静止画は記録できません。
- HS動画（□160）の撮影中は、静止画を記録できません。
- 動画の種類が［**iFrame 540 (960×540)**］のときは、静止画は記録できません。
- 撮影中の動画にシャッターボタンの操作音が録音されることがあります。
- シャッターボタンを押すときに、カメラが動いて画像がぶれることがあります。

記録した静止画のファイル名

記録した静止画のファイル番号は、「撮影中の動画のファイル番号＋1」から連番で付けられます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名 ➝ □215

動画メニューを使う

動画メニューで以下の項目を設定できます。

動画設定 🕮164

動画モードスイッチをHDに合わせたときに撮影する動画の種類を選びます。

HS動画設定 🕮165

動画モードスイッチをHSに合わせたときに撮影する動画の種類を選びます。

HS動画で記録開始 🕮165

動画モードスイッチをHSに合わせたときに、撮影開始からスローモーションまたは早送りの動画で撮影するかどうかを選びます。

AFモード 🕮166

動画モードスイッチをHDに合わせて動画撮影するときのピントの合わせ方を選びます。

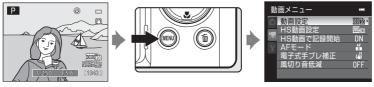
電子式手ブレ補正 🕮167

動画モードスイッチをHDに合わせて動画撮影するときの電子式手ブレ補正を設定します。

風切り音低減 🕮167

動画の撮影時に風切り音を低減するかどうかを設定します。

動画メニューの表示方法

撮影画面でMENUボタンを押してメニューを表示し、マルチセレクターでタブに切り換え、動画メニューを表示します（🕮13）。

- メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（🕮12）。
- 動画メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

動画設定

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖163）➔ 動画設定

動画モードスイッチをHDに合わせたときに撮影する動画の種類を選びます。解像度が高く、ビットレートが大きいほど高画質になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

種類	内容
HD 1080p★ (1920×1080) **（初期設定）**	フルハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。フルハイビジョンに対応したワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1920 × 1080 ピクセル • ビットレート：約 14 Mbps
HD 1080p (1920×1080)	フルハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。フルハイビジョンに対応したワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1920 × 1080 ピクセル • ビットレート：約 12 Mbps
HD 720p (1280×720)	ハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。ワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1280 × 720 ピクセル • ビットレート：約 9 Mbps
iFrame 540 (960×540)	縦横比16:9 の動画を記録します。 Apple Inc.がサポートするフォーマットのひとつです。 • 解像度：960 × 540 ピクセル • ビットレート：約 24 Mbps
VGA (640×480)	縦横比4:3の動画を記録します。 • 解像度：640 × 480 ピクセル • ビットレート：約 3 Mbps

- ビットレートとは、1秒間あたりの動画のデータ量です。撮影する被写体により、ビットレートが自動的に変わる「VBR記録方式」を採用しています。動きの多い被写体を記録した場合は、ファイルサイズが大きくなります。
- 撮影フレーム数は、いずれの設定も約30フレーム/秒です。

[iFrame 540 (960×540)] についてのご注意

動画撮影中の静止画記録、再生中の動画からの静止画保存、または動画編集はできません。

関連ページ

動画の記録可能時間 → 📖166

HS動画設定

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖163）➔ HS動画設定

動画モードスイッチをHSに合わせたときに撮影する動画の種類を選びます。

種類	内容
QVGA240 240 fps（初期設定）	縦横比4:3で1/8の速度のスローモーション動画を撮影します。 • 最長撮影時間※：10 秒（再生時間：1 分 20 秒） • 解像度：320 × 240 ピクセル • ビットレート：約 640 kbps
VGA120 120 fps	縦横比4:3で1/4の速度のスローモーション動画を撮影します。 • 最長撮影時間※：15 秒（再生時間：1 分） • 解像度：640 × 480 ピクセル • ビットレート：約 3 Mbps
720p60 60 fps	縦横比16:9で1/2の速度のスローモーション動画を撮影します。 • 最長撮影時間※：30 秒（再生時間：1 分） • 解像度：1280 × 720 ピクセル • ビットレート：約 9 Mbps
1080p15 15 fps	縦横比16:9で2倍の速度の早送り動画を撮影します。 • 最長撮影時間※：2 分（再生時間：1 分） • 解像度：1920 × 1080 ピクセル • ビットレート：約 12 Mbps

※ 最長撮影時間は、スローモーションまたは早送り再生になる部分だけの撮影時間です。

HS動画で記録開始

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖163）➔ HS動画で記録開始

動画モードスイッチをHSに合わせたときに、撮影開始からスローモーションまたは早送りの動画で撮影するかどうかを選びます。

- ［**ON**］（初期設定）：HS動画で撮影を開始します。
- ［**OFF**］：通常速度の動画で撮影を開始します。スローモーションまたは早送りにしたい場面でⓀボタンを押して、HS動画撮影に切り換えます。

動画の記録可能時間

種類	SDカード（4 GB）※
HD 1080p★（1920×1080）（初期設定）	約35分
HD 1080p (1920×1080)	約40分
HD 720p (1280×720)	約55分
iFrame 540 (960×540)	約15分
VGA (640×480)	約2時間30分

数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類や撮影した動画のビットレートによって記録可能時間は異なります。

※ 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでもファイルサイズ4 GBまで、または最長29分までです。撮影時の画面には、1回の撮影で記録可能な時間が表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名 → 215

AFモード

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ （動画メニュー）（163）➔ AFモード

動画モードスイッチをHDに合わせて動画撮影するときのピントの合わせ方を選びます。

設定	内容
シングルAF（初期設定）	●（動画撮影）ボタンで撮影を開始したときのピントに固定します。撮影中に被写体との距離があまり変化しない撮影に適しています。
常時AF	動画撮影中、ピント合わせを繰り返します。 撮影中に被写体との距離が変化する撮影に適しています。ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］での撮影をおすすめします。

動画撮影中のAFモードについて

- シーンモードが［**打ち上げ花火**］のときは、遠景にピントが固定されます。
- 撮影前にフォーカスモードを MF（マニュアルフォーカス）にして、マニュアルフォーカスでピントを合わせることができます（42）。

電子式手ブレ補正

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖163）➔ 電子式手ブレ補正

動画モードスイッチをHDに合わせて動画撮影するときの電子式手ブレ補正を設定します。

種類	内容
ON（初期設定）	動画撮影時に手ブレの影響を軽減します。
OFF OFF	電子式手ブレ補正を行いません。

電子式手ブレ補正を［**ON**］にすると、動画撮影開始時に、画面にが表示されます（📖8）。

電子式手ブレ補正についてのご注意

HS動画を撮影するときは、手ブレ補正機能を使えません。

風切り音低減

撮影画面を表示する ➔ MENU ➔ 🎥（動画メニュー）（📖163）➔ 風切り音低減

動画の撮影時に風切り音を低減するかどうかを設定します。

種類	内容
ON	マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録します。強風時の撮影に適しています。再生時に風切り音以外の音が聞こえにくくなることがあります。
OFF OFF（初期設定）	風切り音を低減しません。

風切り音低減の設定は、撮影時の画面で確認できます（📖8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

動画を再生する

1コマ表示（□34）で動画設定（□164）のアイコンが表示されている画像が動画です。Ⓚボタンを押すと、再生できます。

再生中は、ズームレバー **T**/**W** で音量を調節できます。
コマンドダイヤルを回すと早送り/巻き戻しできます。画面上部には操作パネルが表示されます。マルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、Ⓚボタンを押すと以下の操作ができます。

機能	アイコン	内容	
巻き戻し	◀◀	Ⓚボタンを押している間、巻き戻します。	
早送り	▶▶	Ⓚボタンを押している間、早送りします。	
一時停止	❚❚	一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。	
		◀❚❚	1コマ戻ります。Ⓚボタンを押し続けると、連続してコマ戻しします。※
		❚❚▶	1コマ進みます。Ⓚボタンを押し続けると、連続してコマ送りします。※
		✂	動画の必要な部分だけを切り出して保存します（□169）。
		静止画保存	動画の 1 フレームを静止画として保存します（□170）。
		▶	再生を再開します。
再生終了	■	1コマ表示に戻ります。	

※ コマンドダイヤルを回してもコマ送り/コマ戻しできます。

✔ 動画再生についてのご注意

COOLPIX P500以外で撮影した動画は、再生できません。

動画を編集する

撮影した動画の必要な部分だけを切り出し、別ファイルとして保存します（iFrame［**iFrame 540 (960×540)**］で撮影した動画を除く）。

1 編集する動画を再生して、切り出したい先頭で一時停止する（□168）

2 マルチセレクターの◀▶で操作パネルの✂を選び、Ⓚボタンを押す

- 動画編集画面が表示されます。

3 ▲▼を押して編集操作パネルの✂（始点の設定）を選ぶ

- マルチセレクターの◀ ▶を押して、始点の位置を調整します。
- 編集を中止するには、▲▼ で ⮌（戻る）を選び、Ⓚボタンを押します。

4 ▲▼を押して✂（終点の設定）を選ぶ

- マルチセレクターの◀ ▶を押して、右端にある終点を必要な部分の終了位置まで移動します。
- ▶（プレビュー）を選び、Ⓚボタンを押すと、保存する前に指定した範囲の動画を再生して確認できます。プレビュー再生中は、ズームレバー**T**/**W**で音量を調節できます。コマンドダイヤルを回すと早送り/巻き戻しできます。プレビュー再生を停止するときは、もう一度Ⓚボタンを押します。

5 設定が完了したら、▲▼を押して⎙（保存）を選び、Ⓚボタンを押す

6 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 編集した動画が保存されます。
- 保存しないときは［**いいえ**］を選びます。

動画編集についてのご注意

- 編集で作成した動画から、もう一度動画を切り出すことはできません。他の範囲を切り出すときは、元の動画を選んで編集してください。
- 秒単位で動画を切り出すため、設定した始点/終点のフレームと、実際の切り出し範囲は、多少ずれることがあります。再生時間が2秒未満になる動画の切り出しはできません。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

動画の1フレームを静止画として保存する

撮影した動画の1画面を静止画として切り出して保存できます（iFrame［**iFrame 540 (960×540)**］で撮影した動画を除く）。

- 動画の再生を一時停止して、切り出したい画面を表示します（□168）。
- マルチセレクターの◀▶で操作パネルの[静止画保存]を選んで🆗ボタンを押します。

- 確認画面が表示されたら、［**はい**］を選んで🆗ボタンを押して保存します。保存をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。
- 保存される静止画の画質は［**NORMAL**］です。画像サイズは元の動画の種類（解像度）（□162、164、165）によって異なります。

静止画保存についてのご注意

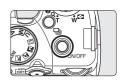
QVGA（320×240）で保存された画像は、再生時に黒の枠で囲まれて表示されます。

不要な動画を削除する

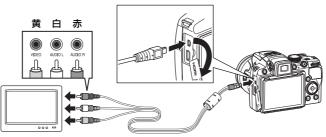
1コマ表示（□34）やサムネイル表示（□115）で動画を選んで🗑ボタンを押すと、削除方法を選ぶ画面が表示されます。詳しくは、「不要な画像を削除する」（□35）をご覧ください。

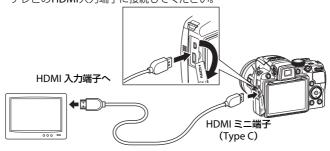
テレビに接続する

カメラをテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。HDMI端子が付いたテレビをお持ちの場合は、市販のHDMIケーブルで接続すると、ハイビジョン画質で楽しめます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

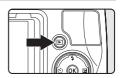
付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）で接続する場合

- 黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、赤色と白色のプラグを音声入力端子に接続してください。

市販のHDMIケーブルで接続する場合

- テレビのHDMI入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの説明書をご覧ください。

4 カメラの ▶ ボタンを押し続けて電源を ON にする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

HDMI接続についてのご注意

- HDMIケーブルは付属していません。市販のものをご用意ください。カメラのHDMI出力端子は、HDMIミニ端子（Type C）です。HDMIケーブルご購入時は、ケーブルの片方がHDMIミニ端子のものをお選びください。
- HDMI端子が付いたテレビにカメラを接続し、ハイビジョン画質で再生して楽しむには、静止画の［**画像サイズ**］（□84）は 3M［**2048 × 1536**］以上に、動画の［**動画設定**］（□164）は 720/30［**HD 720p (1280×720)**］以上にして撮影するようおすすめします。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- カメラの HDMI ミニ端子と USB/ オーディオビデオ出力端子に、同時にケーブルを接続しないでください。

画像がテレビに映らないときは

セットアップメニュー（□185）の［**TV出力設定**］（□201）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）

HDMI-CEC規格対応テレビのリモコンで、再生中の操作ができます。
カメラのマルチセレクターやズームレバーのかわりに、リモコンで画像の選択や動画、かんたんパノラマ画像の再生/停止、1コマ表示と4コマのサムネイル表示の切り換えができます。

- カメラのセットアップメニュー［**TV出力設定**］の［**HDMI 機器制御**］（□201）を［**ON**］（初期設定）にし、HDMIケーブルで接続してください。
- リモコンは、テレビに向けて操作してください。
- お使いのテレビがHDMI-CEC規格に対応しているかどうかは、テレビの説明書などでご確認ください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

付属のViewNX 2 CD-ROMで、以下のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

ソフトウェアのインストール方法は、簡単スタートガイドをご覧ください。

- ViewNX 2：画像の転送機能「Nikon Transfer 2」で、撮影した画像をパソコンに取り込めます。取り込んだ画像を表示したり、画像を選んで印刷したりできます。静止画や動画を編集する機能もあります。
- Panorama Maker 5：画像をつなぎ合わせてパノラマ写真を作成できます。

対応OS（オペレーティングシステム）

Windows

- Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate
- Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate (Service Pack 2)
- Windows XP Home Edition/Professional (Service Pack 3)

Macintosh

- Mac OS X （Version 10.4.11、10.5.8、10.6.5）

ハイビジョン画質の動画再生条件については、ViewNX 2のヘルプの「動作環境」をご覧ください（🕮177）。

対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

☑ パソコンに接続するときのご注意

市販のUSB充電器など、他のUSB機器はパソコンから取り外してください。

USB機器によっては、同時に接続すると動作に不具合が発生することや、パソコンからの供給電力が過大になり、同時に接続したカメラ、SDカードなどが壊れるおそれがあります。お使いのUSB機器の説明書もご確認ください。

電源についてのご注意

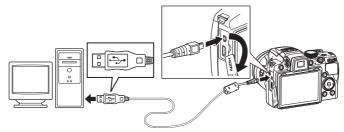
- パソコンと接続して画像を転送するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- カメラのセットアップメニューの［**パソコン接続充電**］が［**AUTO**］（初期設定）のときは、起動済みのパソコンにカメラを付属のUSBケーブルで接続すると、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを自動的に充電できます（📖178、202）。
- 別売のACアダプター EH-62A（📖213）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

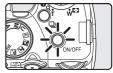
1 ViewNX 2をインストール済みのパソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。

- カメラの電源が自動的にONになり、電源ランプが点灯または点滅します。カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

4 パソコンでViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」を起動する

- **Windows 7 の場合：**
  ［**デバイスとプリンター ▶P500**］画面が表示されたら、［**画像とビデオのインポート**］の下の［**プログラムの変更**］をクリックします。［**プログラムの変更**］ダイアログで［**画像ファイルを取り込む－Nikon Transfer 2 使用**］を選び、［**OK**］をクリックします。
  ［**デバイスとプリンター ▶P500**］画面で［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックします。
- **Windows Vista の場合：**
  ［**自動再生**］ダイアログが表示されたら、［**画像ファイルを取り込む－Nikon Transfer 2 使用**］をクリックします。
- **Windows XP の場合：**
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面が表示されたら、［**Nikon Transfer 2 画像ファイルを取り込む**］を選び、［**OK**］をクリックします。
- **Mac OS Xの場合：**
  ViewNX 2のインストールで、［**自動起動の設定**］を［**はい**］にした場合は、カメラを接続するとNikon Transfer 2が自動起動します。
- Nikon Transfer 2を手動で起動するには→177
- カメラ内のバッテリー残量が少ないときは、パソコンでカメラを認識できず、画像を転送できないことがあります。パソコンからの電力でカメラ内のバッテリー充電が始まったときは、バッテリー残量が増えるまでお待ちください。
- SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2の起動に時間がかかる場合があります。

5 オプションエリアの［**転送元**］パネル内に、接続したカメラ名のデバイスボタンが表示されていることを確認し、［**転送開始**］ボタンをクリックする

- パソコンに転送されていないすべての画像が転送されます（ViewNX 2の初期設定）。

- 転送が終わると、ViewNX 2の画面が開き（ViewNX 2の初期設定）、転送した画像が表示されます。

- ViewNX 2の操作方法については、ViewNX 2のヘルプをご覧ください（📖177）。

カメラとパソコンの接続を外すときは

- 転送中は、電源をOFFにしたり、カメラとパソコンの接続を外したりしないでください。
- 接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。
- USBケーブルを接続したまま、パソコンとの通信が無い状態が30分続くと、カメラの電源は自動的にOFFになります。

✔ バッテリーの充電について

カメラの電源ランプが、オレンジ色でゆっくり点滅しているときは、カメラ内のバッテリーを充電中です（📖178）。

転送に市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使う

SD カード内の画像は、市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使っても、ViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」で転送できます。

- カードリーダーなどの機器が、お使いのSDカードに対応しているかご確認ください。
- カードリーダーまたはカードスロットにSD カードを入れ、手順4（□175）以降を参照して、画像を転送してください。
- 内蔵メモリーに記録したデータは、カメラでSDカードにコピーしてから（□144）転送してください。

ViewNX 2を手動で起動するには

- Windows ：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ViewNX 2**］→［**ViewNX 2**］の順にクリックします。デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックしても起動できます。
- Mac OS X ：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Nikon Software**］→［**ViewNX 2**］の順にフォルダーを開き、［**ViewNX 2**］アイコンをダブルクリックします。Dockの［**ViewNX 2**］アイコンをクリックしても起動できます。

Nikon Transfer 2を手動で起動するには

Nikon Transfer 2 は、ViewNX 2 を起動し、画面上部の［**Transfer**］アイコン、または［**ファイル**］メニューから［**Transferを起動**］をクリックして起動します。

ViewNX 2またはNikon Transfer 2の詳しい使い方（ヘルプ）を見るには

ViewNX 2またはNikon Transfer 2を起動して、メニューバーの［**ヘルプ**］→［**ViewNX 2ヘルプ**］を選ぶと、ヘルプ画面を表示して詳しい使い方を見ることができます。

パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker 5）

- シーンモード［**パノラマ**］の［**パノラマアシスト**］機能（□58）を使って撮影した画像を、Panorama Maker 5を使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Maker 5は、付属のViewNX 2 CD-ROMでインストールできます。
- Panorama Maker 5をインストールしたら、以下のように起動します。
  Windows :［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ArcSoft Panorama Maker 5**］→［**Panorama Maker 5**］の順にクリックします。
  Mac OS X :［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Panorama Maker 5**］をダブルクリックします。
- Panorama Maker 5の使い方は、Panorama Maker 5の操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□215

パソコン接続時の充電について

カメラのセットアップメニューの［**パソコン接続充電**］（□202）が［**AUTO**］（初期設定）のときは、カメラをUSBケーブルでパソコンと接続すると、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを自動的に充電できます。
カメラをパソコンに接続する方法は、「カメラとパソコンを接続する前に」（□173）、「カメラからパソコンに画像を転送する」（□174）をご覧ください。

電源ランプについて

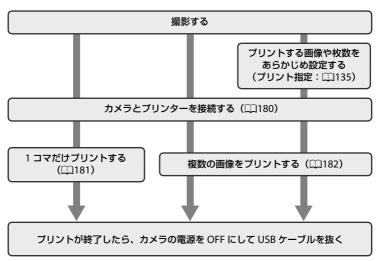
パソコンに接続しているときのカメラの電源ランプの状態と意味は以下のとおりです。

電源ランプ	意味
ゆっくり点滅（オレンジ色）	充電中です。
点灯（緑色）	充電していません。電源ランプがゆっくりした点滅（オレンジ色）から点灯（緑色）に変わると、充電完了です。
速い点滅（オレンジ色）	• 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ～ 35 ℃の室内で充電してください。 • USB ケーブルが正しく接続されていないか、バッテリーの異常です。正しく接続し直すか、バッテリーを交換してください。 • パソコンが休止状態（スリープ状態）で電力を供給していません。パソコンを復帰してください。 • パソコンの仕様または設定がカメラへの電力供給に対応していないため充電できません。

パソコンに接続して充電するときのご注意

- パソコンに接続しても、ご購入後にカメラの表示言語と日時（□24）を設定していないときは、充電やデータの転送はできません。また、時計用電池（□189）が切れて日時がリセットされたまま再設定していないときも、充電やデータの転送はできません。本体充電ACアダプター EH-69Pでバッテリーを充電し（□20）、カメラの日時を設定してください。
- カメラの電源をOFFにすると、バッテリーの充電も中止されます。
- 充電中にパソコンが休止状態（スリープ状態）になると、充電が中止され、カメラの電源がOFFになることがあります。
- カメラとパソコンの接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。
- 残量がないバッテリーの場合、フル充電までの時間は約5時間30分です。また、画像を転送しながら充電すると、充電に時間がかかります。
- 充電だけをしたいときに、カメラをパソコンに接続して、パソコンでNikon Transfer 2などが起動した場合は、これらの画面を閉じてください。
- 充電が完了し、パソコンとの通信が無い状態が 30 分続くと、カメラの電源は自動的にOFFになります。
- パソコンの仕様、設定または状態によっては、カメラ内のバッテリーを充電できないことがあります。

プリンターに接続する

PictBridge（□233）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、以下のとおりです。

電源についてのご注意

- プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62A（□213）を使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から、このカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

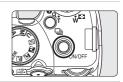
画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に以下の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

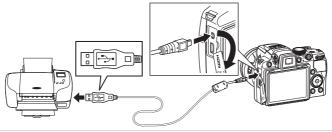
これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、再生メニューの［**プリント指定**］を使って、あらかじめSDカードに設定できます（□135）。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

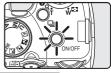
- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源が自動的にONになる

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに［**PictBridge**］画面（①）が表示された後、［**プリント画像選択**］画面（②）が表示されます。

①

②

PictBridge画面が表示されないときは

カメラの電源をいったんOFFにしてUSBケーブルを外してください。カメラのセットアップメニューの［**パソコン接続充電**］（□202）を［**OFF**］に設定してから、接続をやり直してください。

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（📖180）、以下の手順でプリントしてください。

1 マルチセレクターでプリントする画像を選び、Ⓚボタンを押す

- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［**プリント枚数設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、Ⓚボタンを押す

4 ［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意 → 📖86

5 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［**プリント実行**］を選び、Ⓚボタンを押す

7 プリントが始まる

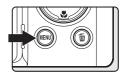
- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（180）、以下の手順でプリントしてください。

1 ［**プリント画像選択**］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- ［**プリントメニュー**］画面が表示されます。

2 マルチセレクターで［**用紙設定**］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

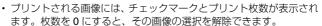
3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

4 ［プリント選択］、［全画像プリント］または［DPOFプリント］を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- マルチセレクターの ◀ ▶ を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。

- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、**W**（⊞）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら Ⓚ ボタンを押します。
- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［**プリント指定**］（135）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

- ［**画像の確認**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

プリント中の枚数/総枚数

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

用紙設定について

用紙設定画面では、［**プリンターの設定**］以外に、［**L サイズ**］、［**2L サイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**8×10 in.**］、［**Letter**］、［**A3 サイズ**］、［**A4 サイズ**］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

セットアップメニューを使う

セットアップメニューで以下の設定ができます。

オープニング画面 □187

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

地域と日時 □188

内蔵時計を合わせます。

モニター設定 □191

撮影後の画像表示や画面の明るさ、撮影時の方眼表示およびヒストグラム表示を設定します。

デート写し込み □192

撮影日時を画像に写し込む設定ができます。

手ブレ補正 □193

静止画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。

モーション検知 □195

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

AF補助光 □196

AF補助光の点灯/非点灯を設定します。

赤目軽減プリ発光 □196

フラッシュモード が赤目軽減自動発光のときの赤目軽減方式を選びます。

電子ズーム □197

電子ズームの動作を設定します。

サイドズームレバー設定 □198

撮影時にサイドズームレバーを回したときの動作を設定します。

操作音 □199

操作音について設定します。

オートパワーオフ □199

節電のために待機状態に入るまでの時間を設定します。

メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット） □200

内蔵メモリー /SDカードを初期化します。

言語/Language □201

画面に表示する言語を設定します。

TV出力設定 □201

テレビとの接続に必要な設定をします。

パソコン接続充電 □202

USBケーブルでパソコンに接続したときに、バッテリーを充電するかどうかを設定します。

連番リセット	📖202
ファイル番号の連番をリセットします。	
目つぶり検出設定	📖203
顔認識撮影したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。	
設定クリアー	📖205
各種設定を初期設定に戻します。	
バージョン情報	📖208
ファームウェアの情報を表示します。	

セットアップメニューの表示方法

メニュー画面を表示して、Y（セットアップ）タブに切り換えます。

1 MENU ボタンを押してメニュー画面を表示する

2 マルチセレクターの◀を押す

- タブが選べるようになります。
- マルチセレクターの使い方→📖12

3 ▲▼を押してYタブを選ぶ

カメラに関する基本設定

4 ▶または®ボタンを押す

- セットアップメニューの項目が選べるようになります。
- メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（□12）。
- セットアップメニューを終了するには、MENU ボタンを押すか、◀を押して他のタブに切り換えます。

オープニング画面

MENUボタンを押す ➔ ¥（セットアップメニュー）（□186）➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しないで、撮影または再生画面を表示します。

COOLPIX

オープニング画面を表示してから、撮影または再生画面を表示します。

撮影した画像

撮影した画像をオープニング画面として表示します。画像選択の画面が表示されたら画像を選び（□140）、®ボタンを押して登録します。

- 登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。
- ［**画像サイズ**］（□84）を［**3984 × 2656**］、［**3968 × 2232**］、［**1920 × 1080**］、［**2992 × 2992**］にして撮影した画像は登録できません。
- かんたんパノラマで撮影した画像は、登録できません。
- スモールピクチャー（□154）やトリミング（□156）で作成した画像サイズ 160 × 120 以下の画像は登録できません。

地域と日時

MENUボタンを押す ➔ ¥（セットアップメニュー）（□186）➔ 地域と日時

カメラに内蔵された時計を設定します。

日時の設定

内蔵時計の日付と時刻を設定します。
表示される設定画面で、マルチセレクターを使って設定します。

- 項目を選ぶ：▶ または ◀ を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**] に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：▲ または ▼ を押します。コマンドダイヤル（□11）を回しても変更できます。
- 設定を完了する：[**分**] を選び、Ⓚ ボタンまたは ▶ を押します。

日付の表示順

日付の表示順を、[**年/月/日**]、[**月/日/年**]、[**日/月/年**] から選べます。

タイムゾーン

自宅（⌂）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（⌂）との時差（□190）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 マルチセレクターで [**タイムゾーン**] を選び、Ⓚ ボタンを押す

- [**タイムゾーン**] 画面が表示されます。

2 ✈ [**訪問先**] を選び、Ⓚボタンを押す

- 訪問先の時計に切り換わります。

3 ▶を押す

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶を押して訪問先の地域（タイムゾーン）を選ぶ

- 自宅と訪問先の時差が表示されます。
- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、▲を押して夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部に🕓マークが表示され、時計が1時間進みます。オフにするときは、▼を押します。
- ⓚボタンを押して、訪問先を決定します。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に✈マークが表示されます。

時差

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、カメラに入れるバッテリーとは別の時計用電池で動いています。カメラにバッテリーを入れるかACアダプターを接続すると、時計用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

⌂（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、ⓚボタンを押してください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、✈［**訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）が始まったときや終わったときは、手順4の地域設定画面で、夏時間のオンとオフを切り換えてください。

撮影時に日付を画像に写し込むには

日時を設定した後に、セットアップメニューの［**デート写し込み**］（□192）で設定します。［**デート写し込み**］を設定して撮影すると、撮影日時を画像に写し込んで記録できます。

タイムゾーンについて

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**日時の設定**］で合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）
–13.5	Caracas（カラカス）
–13	Manaus（マナウス）
–12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）
–10	Azores（アゾレス）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）

時差 +/–	タイムゾーン
–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
–6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

モニター設定

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ モニター設定

以下の項目を設定します。

撮影後の画像表示

［**ON**］（初期設定）：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。

［**OFF**］：撮影直後に、撮影した画像を表示しません。

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。

方眼表示

［**ON**］：構図を決める際の参考となる格子線を表示します。

［**OFF**］（初期設定）：方眼を表示しません。

ヒストグラム表示

［**ON**］：露出補正の設定時以外でも撮影時にヒストグラムを表示します（□43）。

［**OFF**］（初期設定）：ヒストグラムを表示しません。

方眼表示についてのご注意

下記のときは方眼が表示されません。
- ターゲット追尾中（被写体登録後）
- 動画撮影中
- MF（マニュアルフォーカス）の中央拡大表示中

ヒストグラム表示についてのご注意

下記のときはヒストグラムが表示されません。
- 動画撮影中
- MF（マニュアルフォーカス）の中央拡大表示中
- フラッシュモード、セルフタイマー、フォーカスモードの設定メニュー表示中
- 連写メニュー表示中
- 顔検出をしたとき
- ［**AFエリア選択**］のターゲット追尾中

デート写し込み（日付の写し込み）

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□186）➔ デート写し込み

撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（□136）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

DATE	**年・月・日**
	画像に日付を写し込みます。
DATE	**年・月・日・時刻**
	画像に日付と時刻を写し込みます。
OFF	OFF**（初期設定）**
	日付、時刻のどちらも写し込みません。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- 以下の場合は日時を写し込めません。
  - シーンモード（□45）が（夜景）および（夜景ポートレート）の［**手持ち撮影**］、（逆光）の［**HDR**］が［**ON**］、［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］、［**パノラマ**］または［**ペット**］の［**連写**］のとき
  - 連写の設定（□76）が［**連写 H**］、［**連写 L**］、［**先取り撮影**］、［**高速連写 120 fps**］、［**高速連写 60 fps**］、［**BSS**］のとき
  - ［**AEブラケティング**］（□94）を使うとき
  - ベストフェイスモードで［**笑顔自動シャッター**］（□67）または［**目つぶり軽減**］（□68）が［**ON**］のとき
  - 動画撮影のとき
- ［**画像サイズ**］（□84）が VGA［**640×480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像サイズは PC［**1024×768**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**地域と日時**］（□24、188）での設定と同じになります。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（□135）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

手ブレ補正

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ 手ブレ補正

静止画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを補正します。
三脚などでカメラを固定して静止画を撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

	ON (ハイブリッド)
	イメージセンサーシフト方式で静止画撮影時の手ブレを光学的に補正し、さらに以下の条件になると、画像処理による電子式手ブレ補正を加えて記録します。 ・フラッシュを発光しないとき ・シャッタースピードが 1/30 秒（広角側）、1/125 秒（望遠側）より低速のとき ・セルフタイマーが OFF のとき ・連写の設定が［**単写**］のとき ・［**AE ブラケティング**］の設定が［**OFF**］のとき ・ISO 感度が 200 以下のとき
	ON（初期設定）
	イメージセンサーシフト方式で静止画撮影時の手ブレを補正します。また、流し撮りでは、カメラが流し撮りの方向を自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。 たとえば、横方向に流し撮りするときには縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りするときには横方向の手ブレだけが補正されます。
OFF	OFF
	手ブレ補正をしません。

手ブレ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8、29）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

動画の手ブレ補正について

動画撮影時の手ブレ補正は、動画メニュー（□163）の［**電子式手ブレ補正**］（□167）で設定します。

手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。
- ブレが極端に小さいときや大きいときは、［**ON (ハイブリッド)**］に設定しても電子式手ブレ補正で画像補正できないことがあります。
- シャッタースピードが速いとき、または極端に遅いときは、［**ON (ハイブリッド)**］に設定しても電子式手ブレ補正は作動しません。
- ［**ON (ハイブリッド)**］で電子式手ブレ補正が作動するときは、撮影すると自動的にシャッターを2回きって画像補正をするため、通常よりも画像の記録に時間がかかります。［**シャッター音**］（□199）が鳴るのは1回目のみです。記録する画像は1コマです。

モーション検知

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ モーション検知

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

	AUTO
	カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。 ただし、以下の場合はモーション検知は作動しません。 • フラッシュが強制発光のとき • 以下のシーンモードのとき - （夜景） - （夜景ポートレート） - （逆光） - ［**スポーツ**］ - ［**トワイライト**］ - ［**ミュージアム**］ - ［**打ち上げ花火**］ - ［**ペット**］ • 撮影モードが **P**、**S**、**A**、**M**、**U** のとき
OFF	OFF（**初期設定**）
	モーション検知をしません。

モーション検知の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。
カメラがブレを検知してシャッタースピードを速くしたときは、モーション検知表示は緑色に変わります。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

カメラに関する基本設定

モーション検知についてのご注意

- モーション検知を設定しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にぶれているときや暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

AF補助光

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖186）➔ AF補助光

暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約6.0 m、望遠側で約5.0 mです。ただし、［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがあります。

赤目軽減プリ発光

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖186）➔ 赤目軽減プリ発光

フラッシュモード（📖36）が⚡◎（赤目軽減自動発光）のときの赤目軽減方式を選びます。

ON（初期設定）

フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減してから、画像補正による赤目軽減処理をします。
シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。

OFF

プリ発光しません。シャッターボタンの全押しですぐにシャッターをきり、画像補正による赤目軽減処理をします。

電子ズーム

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

ON（初期設定）

光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズーム（□31）が作動します。

クロップ

静止画撮影時にズーム倍率をズーム表示の凸マークの位置までに制限します。撮影する静止画の画質が電子ズームで劣化しない範囲にズーム倍率を制限します。

- 画像サイズが［**4000 × 3000**］、［**3984 × 2656**］、［**3968 × 2232**］、［**1920 × 1080**］、［**2992 × 2992**］のときは、電子ズームが使えません。
- 動画撮影時は［**ON**］と同じ動作になります。

OFF

電子ズームは作動しません。

電子ズームについてのご注意

- 電子ズームの作動中はAFエリア（□95）が［**中央**］に固定されます。
- 以下の場合は電子ズームは使えません。
  - フォーカスモード（□40）がMF（マニュアルフォーカス）のとき
  - シーンモード（□45）が（夜景）および（夜景ポートレート）、［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、または［**ペット**］のとき
  - ベストフェイスモードのとき
  - 連写（□76）の設定が［**マルチ連写**］のとき
  - ［**AFエリア選択**］（□95）が［**ターゲット追尾**］のとき
- 電子ズームが1.2～1.8倍のときには、［**測光方式**］は［**中央部重点**］に、2.0～4.0倍のときには［**スポット**］になります。

サイドズームレバー設定

MENU ボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ サイドズームレバー設定

撮影時にサイドズームレバーを操作したときの動作を設定します。

ズームレバー（初期設定）

撮影時にサイドズームレバーで、ズーム操作ができます（□31）。

MFレバー

フォーカスモードがMF（マニュアルフォーカス）のときに、サイドズームレバーでピント合わせができます（□42）。

- **T** 方向に操作すると、遠くの被写体にピントが合います。
- **W** 方向に操作すると、近くの被写体にピントが合います。

クイックバックズーム

被写体を見失いやすい望遠側のズームで撮影するときに使います。
サイドズームレバーを**W**方向に操作すると、現在のズーム位置から一定のステップ分だけ**W**側にズーム位置を移動します。もう一度**W**方向に操作すると、さらに**W**側にズーム位置を移動します。**T**方向に操作すると、サイドズームレバーを操作する前のズーム位置に戻ります。

- 電子ズーム使用時に、**W** 方向に操作すると光学ズームの望遠端へ移動します。
- サイドズームレバー以外の操作をすると、操作する前のズーム位置には戻りません。
- 動画撮影中は［**クイックバックズーム**］は動作しません。

操作音

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□186）➔ 操作音

操作音について設定します。

設定音

設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）、警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）およびオープニング音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

シャッター音

シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

操作音についてのご注意

- シーンモードの［**ペット**］では、［**ON**］に設定しても、設定音およびシャッター音は鳴りません。
- 連写時または動画の撮影時は、［**ON**］に設定しても、シャッター音は鳴りません。

オートパワーオフ

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□186）➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります（□23）。
このメニューでは、待機状態になるまでの時間を設定します。
［**30 秒**］、［**1 分**］（初期設定）、［**5 分**］、［**30 分**］から選べます。

節電により液晶モニターが消灯したときは

- 待機状態では、電源ランプが点滅します。
- 待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
- 電源ランプの点滅中は、以下の操作で液晶モニターが再点灯します。
  - 電源スイッチ、シャッターボタン、▶ボタン、または●（🎥 動画撮影）ボタンを押す。
  - モードダイヤルを回す。

オートパワーオフの設定について

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。

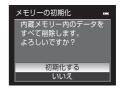
- メニュー表示中：3分
- スライドショー再生中：最大30分
- ACアダプター EH-62A接続中：30分

メモリー /カードの初期化（フォーマット）

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖186）
➔ メモリーの初期化/カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。
初期化すると、内蔵メモリーまたはSDカード内のデータはすべて削除されます。削除したデータは元に戻せません。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

✓ 初期化についてのご注意

- 内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、お気に入りフォルダーのアイコン設定（📖127）は初期設定（数字アイコン）に戻ります。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□186）➔ 言語/Language

画面に表示する言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

TV出力設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□186）➔ TV出力設定

テレビとの接続に必要な設定を行います。

ビデオ出力

ビデオの出力方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。
［**NTSC**］と［**PAL**］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

HDMI

HDMI出力時の画像の解像度を［**オート**］（初期設定）、［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から選べます。［**オート**］にすると、接続するハイビジョンテレビに対応した解像度を［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から自動で選んで出力します。

HDMI **機器制御**

HDMI-CEC規格対応テレビにHDMIケーブルで接続したときに、テレビからの信号を受信するかどうかを設定します。［**ON**］（初期設定）にすると、テレビのリモコンを使って再生中の操作ができます。
→「テレビのリモコンを使う（HDMI 機器制御）」（□172）

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。
「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

パソコン接続充電

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ パソコン接続充電

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続したときに、カメラ内のバッテリーを充電するかどうかを設定します（□178）。

AUTO（初期設定）
カメラを起動済みのパソコンに接続したときに、パソコンからの電力供給状態に応じて、カメラ内のバッテリーを充電します。
OFF
カメラをパソコンに接続しても、カメラ内のバッテリーを充電しません。

カメラとプリンターを接続してプリントするときのご注意

- カメラをPictBridge対応プリンターに接続しても、バッテリーの充電はできません。
- プリンターによっては、［**パソコン接続充電**］を［**AUTO**］にするとプリントできない場合があります。プリンターに接続して電源がONになってもカメラにPictBridge画面が表示されないときは、カメラの電源をいったんOFFにしてUSBケーブルを外し、［**パソコン接続充電**］を［**OFF**］に設定してから、接続をやり直してください。

連番リセット

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ 連番リセット

［**はい**］を選ぶと、ファイル番号の連番（□215）をリセットします。リセットすると新しい記録フォルダーが作られ、次に撮影する画像の連番は、「0001」から始まります。

連番リセットのご注意

- シーンモードが［**パノラマ**］のとき、または撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U**で、連写の設定が［**インターバル撮影**］のときは［**連番リセット**］ができません。
  ［**パノラマアシスト**］または［**インターバル撮影**］では、撮影のたびに新しいフォルダーが作られ、ファイル番号「0001」から始まる一連の画像が保存されます（□215、216）。
- フォルダー番号が999に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、［**連番リセット**］ができません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（□200）する必要があります。

カメラに関する基本設定

目つぶり検出設定

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ 目つぶり検出設定

以下の撮影モードで顔認識撮影（□97）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

- 以下のシーンモードのとき
  - （夜景ポートレート）（□49）
  - ［**おまかせシーン**］（□46）
  - ［**ポートレート**］（□51）
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U**（［**AFエリア選択**］が［**顔認識オート**］（□95）のとき）

ON

顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに［**目つぶり確認**］画面を表示します。
目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
→「［目つぶり確認］画面の操作方法」（□204）

OFF（**初期設定**）

目つぶり検出をしません。

目つぶり検出設定についてのご注意

連写（□76）の設定が［**単写**］以外のとき、［**AEブラケティング**］（□94）を設定しているときは、目つぶり検出をしません。

[目つぶり確認] 画面の操作方法

[**目つぶり確認**] 画面が表示されたときは、以下の操作ができます。
何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

機能	ボタン	内容
目つぶり検出した顔を拡大表示する	**T**(Q)	ズームレバーを**T**(Q)方向に回します。
1コマ表示に戻る	**W**(⊞)	ズームレバーを**W**(⊞)方向に回します。
表示する顔を切り換える	マルチセレクター	複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に▲▼◀ ▶を押すと、拡大表示する顔が切り換わります。 コマンドダイヤルを回しても切り換わります。
撮影した画像を削除する	🗑	🗑ボタンを押します。
撮影画面に戻る	OK / シャッターボタン	OK ボタンまたはシャッターボタンを押します。

設定クリアー

MENUボタンを押す ➔ ￥（セットアップメニュー）（□186）➔ 設定クリアー

［はい］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（□36）	自動発光
セルフタイマー（□39）	OFF
フォーカスモード（□40）	通常AF
露出補正（□43）	0.0

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（□45）	おまかせシーン
料理モードの色合い（□56）	中央
パノラマの撮影方法（□58）	かんたんパノラマの標準（180°）
ペット（□59）	セルフタイマー： ペット自動シャッター 連写：連写

夜景メニュー

項目	初期設定
夜景（□48）	手持ち撮影

夜景ポートレートメニュー

項目	初期設定
夜景ポートレート（□49）	三脚撮影

逆光メニュー

項目	初期設定
HDR（□50）	OFF

ベストフェイスメニュー

項目	初期設定
美肌効果（□67）	標準
笑顔自動シャッター（□67）	ON
目つぶり軽減（□68）	OFF

撮影メニュー

項目	初期設定
画質（□83）	NORMAL
画像サイズ（□84）	12M (4000×3000)
仕上がり設定（□87）	標準
仕上がり設定のカスタマイズ（□88）	コントラスト：オート 輪郭強調：オート 彩度調整：オート
仕上がり設定の白黒のカスタマイズ（□89）	コントラスト：オート 輪郭強調：オート モノクロフィルター：OFF カラー同時記録：OFF
ホワイトバランス（□90）	オート
ISO感度設定（□92）	オート
感度制限オート（□92）	ISO 160-200
低速限界設定（□92）	OFF
測光方式（□93）	マルチパターン
AEブラケティング（□94）	OFF
AFエリア選択（□95）	オート
AFモード（□101）	シングルAF
調光補正（□101）	0.0
長秒時ノイズ低減（□102）	AUTO
Active D-ライティング（□103）	OFF

連写メニュー

項目	初期設定
連写（□76）	単写
インターバル撮影（□79）	30 秒

動画メニュー

項目	初期設定
動画設定（□164）	HD1080p★ (1920×1080)
HS動画設定（□165）	240 fps
HS動画で記録開始（□165）	ON
AFモード（□166）	シングルAF
電子式手ブレ補正（□167）	ON
風切り音低減（□167）	OFF

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（□187）	なし
撮影後の画像表示（□191）	ON
画面の明るさ（□191）	3
方眼表示（□191）	OFF
ヒストグラム表示（□191）	OFF
デート写し込み（□192）	OFF
手ブレ補正（□193）	ON
モーション検知（□195）	OFF
AF補助光（□196）	AUTO
赤目軽減プリ発光（□196）	ON
電子ズーム（□197）	ON
サイドズームレバー設定（□198）	ズームレバー
設定音（□199）	ON
シャッター音（□199）	ON
オートパワーオフ（□199）	1 分
HDMI（□201）	オート
HDMI 機器制御（□201）	ON
パソコン接続充電（□202）	AUTO
目つぶり検出設定（□203）	OFF

その他

項目	初期設定
用紙設定（□181、182）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（□138）	3 秒
お気に入りフォルダーのアイコンと色（□127）	数字アイコン（黒色）

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（□215）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SD カード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。内蔵メモリー/SDカード内の画像をすべて削除（□35）してから、［**設定クリアー**］をすると、次に撮影する画像の連番は「0001」から始まります。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  撮影メニュー：［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（□91）
  再生メニュー：［**連写グループ表示方法**］（□145）、［**連写の代表画像選択**］（□145）
  セットアップメニュー：［**地域と日時**］（□188）、［**言語/Language**］（□201）、［**TV出力設定**］の［**ビデオ出力**］（□201）
- モードダイヤル**U**に登録したユーザーセッティングの内容は、［**設定クリアー**］では初期設定に戻りません。［**User Setting リセット**］（□110）で初期設定に戻してください。

バージョン情報

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□186）➔ バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ/電子ビューファインダー

レンズや電子ビューファインダーのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。以下の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50 ℃以上、または－10 ℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください

カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください

カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には

カメラを長期間お使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください

電源がONの状態で、バッテリーやACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

バッテリーについて

● 使用上のご注意

- 長時間お使いになったバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が 0～40 ℃ の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能劣化や故障の原因となります。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

撮影の前に、充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんので、ご注意ください。

- 周囲の温度が 5～35 ℃ の室内で充電してください。
- このカメラを本体充電ACアダプター EH-69Pまたはパソコンに接続して充電する場合、バッテリーの温度が45～60 ℃のときは、充電できる容量が少なくなることがあります。バッテリーの温度が 0 ℃ 以下、60 ℃ 以上のときは、充電をしません。
- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください。バッテリー性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因となります。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、予備バッテリーをご用意ください。特に、日本国外の地域によっては入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

● 低温時のバッテリーについて

バッテリーは一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には容量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーを用意する

消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが作動しないことがあります。低温時の撮影には充分に充電したバッテリーと予備のバッテリーを用意してください。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリー接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがありますので、ご注意ください。汚れた接点は、乾いた布できれいに拭いてからお使いください。

● 残量について

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- バッテリーをお使いにならないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。カメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れ続けることで過放電になり、使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15～25 ℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

● 寿命について

充分に充電したにもかかわらず、バッテリーの使用期間が極端に短くなってきたときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

Li-ion 00

数字の有無と数値は電池によって異なります。

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5※1
本体充電AC アダプター	本体充電ACアダプター EH-69P※1、2
充電器	バッテリーチャージャー MH-61※2
ACアダプター	ACアダプター EH-62A※3 ＜EH-62Aの取り付け方＞ 1 2 3 バッテリー /SDカードカバーを閉める前に、ACアダプターのコードをバッテリー室の溝に奥まで入れてください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーやコードを破損するおそれがあります。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6※1
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP16※1
レンズキャップ	レンズキャップ LC-CP23※1

※1 カメラご購入時に付属（→「簡単スタートガイド」3ページ）。

※2 日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。

※3 日本国内専用電源コード（AC 100 V 対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

推奨SDカード

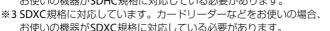
下記のSDカードの動作を確認しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード ※2	SDXC メモリーカード ※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
TOSHIBA	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic	2 GB※1	4 GB、8 GB、12 GB、16 GB、24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
Lexar	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	-

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

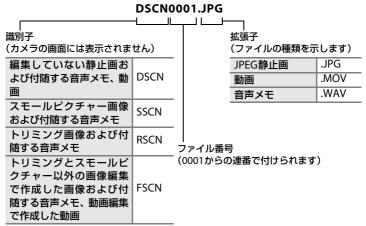
※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。その他のメーカー製のSDカードは、動作の保証をいたしかねます。

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声メモには、以下のようにファイル名が付けられます。

編集していない静止画および付随する音声メモ、動画	DSCN
スモールピクチャー画像および付随する音声メモ	SSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
トリミングとスモールピクチャー以外の画像編集で作成した画像および付随する音声メモ、動画編集で作成した動画	FSCN

JPEG静止画	.JPG
動画	.MOV
音声メモ	.WAV

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号 ＋ NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときや［**連番リセット**］（□202）したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
  フォルダー内にファイルがないときは、［**連番リセット**］をしても新しいフォルダーは作られません。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。
- パノラマアシストモード（□58）では、撮影のたびに「フォルダー番号＋P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- インターバル撮影（□77）では撮影のたびに「フォルダー番号 ＋ INTVL」という名前のフォルダー（例：101INTVL）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。

記録データのファイル名とフォルダー名

- 内蔵メモリーとSDカードの間で記録データをコピーする場合（📖144）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」：
    使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」：
    データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が 999 のときにファイル数が 200 個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（📖200）してください。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	🕮
レンズキャップを取り外してから、電源を入れなおしてください	レンズキャップが付いているか、レンズの作動不良です。	レンズキャップが外れていることを確認してから、電源を入れ直してください。電源を入れ直してもエラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	23
（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	188
電池残量がありません	バッテリーの残量がありません。	バッテリーを充電または交換してください。	18、20
電池が高温です	バッテリーの温度が高温になっています。	電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。このメッセージが出ると5秒後に液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅を開始します。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	23
カメラが高温です。電源をOFFします	カメラの内部が高温になっています。自動的にカメラの電源がOFFになります。	カメラ内部の温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。	–
AF●（赤色点滅）	ピントを合わせることができません。	• ピントを合わせ直してください。 • フォーカスロック撮影をお試しください。	32、33 33
記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消えるまでお待ちください。	–
カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	27
カードが入っていません	SDカードを入れずに動画撮影をしようとしています。	SDカードを入れてから動画撮影をしてください。	157

表示	意味	対処法	📖
このカードは使えません	SDカードへのアクセス異常です。	・動作確認済みのカードを使ってください。 ・カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 ・カードが正しく挿入されているか確認してください。	214 27 26
カードに異常があります			
このカードは初期化されていません。初期化しますか？ はい いいえ	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。	初期化するとカード内のデータはすべて削除されるため、カード内に必要なデータが残っているときは、［**いいえ**］を選び、初期化する前にパソコンなどに保存してください。［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、SDカードを初期化できます。	27
メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	・画質または画像サイズを変更してください。 ・不要な画像、動画を削除してください。 ・SDカードを交換してください。 ・SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	83、84 35、170 26 26
画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	200
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	26、200、216
	オープニング画面に登録できない画像です。	以下の画像は登録できません。 ・かんたんパノラマで撮影した画像 ・［**画像サイズ**］を 3:2［**3984 × 2656**］、16:9 9M［**3968 × 2232**］、16:9 2M［**1920 × 1080**］または 1:1［**2992 × 2992**］にして撮影した画像 ・スモールピクチャーやトリミングで作成した画像サイズ 160 × 120 以下の画像	60 84 154、156
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	35

付録、索引

表示	意味	対処法	📖
❶ パノラマ撮影に失敗しました ❶ パノラマ撮影に失敗しました まっすぐに動かしてください ❶ パノラマ撮影に失敗しました ゆっくりと動かしてください	かんたんパノラマ撮影ができませんでした。	以下の場合、かんたんパノラマ撮影ができないことがあります。 • 一定時間経っても撮影が終わらないとき • カメラを動かす速度が速すぎるとき • パノラマ方向に対してまっすぐになっていないとき	60
ⓘ 音声を登録できません	音声メモを付けられない画像ファイルです。	• 動画には音声メモを付けられません。 • このカメラで撮影した画像を選んでください。	– 142
❶ 目つぶり検出した画像を記録しました	記録した画像に目を閉じた人がいるかもしれません。	画像を再生して確認してください。	68
❶ この画像は編集できません	編集できない画像を画像編集しようとしました。	• 編集可能な条件を確認してください。 • 動画は画像編集できません。	146 –
❶ 動画記録できません	SDカードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	214
❶ 連番リセットできません	これ以上新しいフォルダーを作成できません。	SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化してください。	26、200、202
❶ 撮影画像がありません	撮影済みの画像がありません。	• 内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SDカードをカメラから取り出してください。 • 内蔵メモリーからSDカードにコピーする場合は、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。	26 144

表示	意味	対処法	📖
❶ このファイルは表示できません	COOLPIX P500以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
ⓘ このデータは再生できません			
❶ 表示できる画像がありません	スライドショーで表示できる画像がありません。	–	138
	内蔵メモリー/SDカード内の画像がすべて非表示設定されています。	［**非表示設定**］で画像の非表示設定を解除してください。	141
❶ このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	139
❶ 自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	190
ⓘ モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	44
❶ フラッシュを上げてください	シーンモードが（夜景ポートレート）または（逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］のときに、フラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてください。	37、49、50
	フラッシュが閉じているときにマルチセレクターの⚡ボタンを押しています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてください。	37
❶ フラッシュが閉じています	おまかせシーンのときにフラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押してフラッシュをポップアップしてください。フラッシュを使いたくないときは、フラッシュを閉じたままでも撮影できます。	37、46

表示	意味	対処法	📖
フラッシュを閉じてください	動画撮影時にフラッシュがポップアップしています。	フラッシュを静かに閉じて撮影してください。閉じるときの音が録音されることがありますのでご注意ください。	37、157
通信エラー	プリンターとの通信中にエラーが発生しました。	カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	180
システムエラー	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	23
プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［**キャンセル**］を選んでOKボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※プリンターの説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
カメラ内のバッテリーを充電できない	• 端子の接続状態を確認してください。	20
パソコンに接続してバッテリーを充電できない	• セットアップメニュー［**パソコン接続充電**］が［**OFF**］になっています。 • パソコンに接続して充電しているときは、カメラの電源を OFF にすると、バッテリーの充電も中止されます。 • パソコンに接続して充電しているときに、パソコンが休止状態（スリープ状態）になると、充電が中止され、カメラの電源が OFF になることがあります。 • パソコンの仕様、設定または状態によっては、パソコンに接続してカメラ内のバッテリーを充電できないことがあります。	202 178 178 –
電源をONにできない	• バッテリー残量がありません。 • 本体充電 AC アダプターでコンセントに接続しているときは、電源は ON にできません。	28 20
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • カメラの電源を ON にしたまま、本体充電 AC アダプターを接続すると電源が OFF になります。 • パソコンまたはプリンターとの接続中に USB ケーブルが外れると電源が OFF になります。USB ケーブルの接続をやり直してください。 • カメラの内部が高温になっています。温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	28 199 20 174、176、180 – 211
液晶モニターや電子ビューファインダーに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタンまたは ▶ ボタンを押すか、モードダイヤルを回してください。 • 液晶モニターと電子ビューファインダーは同時に点灯しません。▢ ボタンを押して点灯させたい方に切り換えてください。 • カメラとパソコンが USB ケーブルで接続されています。 • カメラとテレビが AV ケーブルまたは HDMI ケーブルで接続されています。 • インターバル撮影中です。	23 28 23、34 16 173 171 79

付録、索引

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターがよく見えない	• 周囲の光が明るすぎます。暗い場所に移動するか、電子ビューファインダーをお使いください。 • 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。	30 191 209
電子ビューファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。	16、30
◻ボタンを押してもモニターが液晶モニター（または電子ビューファインダー）に切り換わらない	• 以下の場合、モニターの切り換えはできません。 - 動画の撮影中および再生中 - 音声メモの録音中および再生中 - インターバル撮影中 - プリンターに接続中 - 画像の削除画面の表示中 • 警告内容によっては、警告メッセージの表示中は、モニターの切り換えができません。	 157、168 142 79 179 35 217
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に日時未設定マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00　00:00」、動画の撮影日時が「2011/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**地域と日時**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時の設定を行うことをおすすめします。	24、188 188
撮影情報や画像情報が表示されない	撮影情報、画像情報を非表示にしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで、**DISP** ボタンを押してください。	17
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**地域と日時**］が設定されていません。	24、188
［**デート写し込み**］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	• 日付を写し込めない撮影モードになっています。 • 動画には写し込みできません。 • 動画撮影中に記録した静止画には写し込みできません。	192 － －
設定内容が初期状態に戻ってしまった	時計用電池が切れたため、設定がリセットされました。	189
［**連番リセット**］ができない	• フォルダー番号が 999 に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、［**連番リセット**］ができません。SD カードを交換するか、内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。 • シーンモードが［**パノラマ**］のとき、または撮影モードが **P**、**S**、**A**、**M**、**U** で連写メニューが［**インターバル撮影**］のときは［**連番リセット**］ができません。	202、215 58、76、 202、215

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅する	バッテリーの温度が高温になっています。電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	23
カメラの温度が高くなる	動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。	158

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影モードにできない	HDMIケーブルまたはUSBケーブルを外してください。	171、174、180
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ ボタンまたはシャッターボタンを押してください。	34
	• メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。	13
	• バッテリー残量がありません。	28
	• シーンモードが 夜景ポートレート（夜景ポートレート）または 逆光（逆光）の［**HDR**］が［**OFF**］のときは、フラッシュをポップアップしてください。	37、49、50
	• フラッシュ表示が点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	38
ピントが合わない	• 被写体との距離が近すぎます。フォーカスモードの マクロ（マクロ AF）、またはシーンモードの［**おまかせシーン**］、［**クローズアップ**］での撮影をお試しください。	40、46、55
	• オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。	33
	• セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。	196
	• シャッターボタンを半押ししたときに、被写体が AF エリア内に入っていません。	32、95
	• フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）になっています。	40
	• 電源を入れ直してください。	23

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • 手ブレ補正機能やモーション検知機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	36 193、195 76 39
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	36
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • ベストフェイスモードで［**目つぶり軽減**］が［**ON**］になっています。 • フラッシュが制限される他の機能の設定がされています。	36 45 68 104
電子ズームが使えない	• セットアップメニュー［**電子ズーム**］が［**OFF**］になっています。 • 以下の場合、電子ズームは使えません。 - フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）のとき - シーンモードが ▣（夜景）および ▣（夜景ポートレート）、［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、または［**ペット**］のとき - ベストフェイスモードのとき - 連写が［**マルチ連写**］のとき - ［**AF エリア選択**］が［**ターゲット追尾**］のとき	197 42 46、48、49、51、59 65 77 96
［**画像サイズ**］が選べない	［**画像サイズ**］が制限される他の機能の設定がされています。	104
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。 • 連写が設定されています。 • 撮影メニューの［**AE ブラケティング**］が設定されています。 • シーンモードが［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］、［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］、または［**ペット**］になっています。 • ベストフェイスモードの［**笑顔自動シャッター**］または［**目つぶり軽減**］が［**ON**］になっています。 • 動画撮影中です。 • スピーカーをふさがないでください。	199 76 94 52、57、58、59 67、68 157 5
AF 補助光が点灯しない	セットアップメニュー［**AF補助光**］が［**OFF**］になっています。［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。	196
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	209

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスまたは色合いが選ばれていません。	90
画面や撮影画像にリング状の帯や虹色の縞模様が見える	逆光撮影や、太陽などの非常に強い光源が画面内にある撮影では、リング状の帯や虹色の縞模様（ゴースト）などが写し込まれることがあります。 光源の位置を変えるか、光源を画面内に入れずに撮影をお試しください。	–
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低い ISO 感度にしてください。 • 撮影状況に合わせて、撮影メニュー［**長秒時ノイズ低減**］を設定してください。	36 92 102
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO 感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。フラッシュをポップアップして、シーンモードの ◪（逆光）にするかフラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。	36 30 36 43 92 36、50
画像が明るすぎる	露出を補正してください。	43
赤目以外の部分が補正された	⚡◎（赤目軽減自動発光）またはシーンモードの◪（夜景ポートレート）の赤目軽減強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。◪（夜景ポートレート）以外の撮影モードで、フラッシュモードを⚡◎（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	36、49
美肌の効果が得られない	• 撮影条件によっては、美肌効果が適切に得られないことがあります。 • 4 人以上の顔を撮影した画像は、再生メニュー［**美肌**］をお試しください。	65 150
画像の記録に時間がかかる	以下の場合、画像の記録に時間がかかることがあります。 • ノイズ低減機能が作動したとき • フラッシュを ⚡◎（赤目軽減自動発光）にして撮影したとき • 以下のシーンモードで撮影したとき - ◪（夜景）の［**手持ち撮影**］ - ◪（夜景ポートレート）の［**手持ち撮影**］ - ◪（逆光）の［**HDR**］が［**ON**］ -［**パノラマ**］の［**かんたんパノラマ**］ • 美肌機能で撮影したとき • アクティブ D- ライティング機能で撮影したとき • 連写が［**高速連写 120 fps**］または［**高速連写 60 fps**］のとき	– 36 48 49 50 58 65 103 76

こんなときは	考えられる原因や対処法	
連写またはAEブラケティングの設定ができない、または使えない	連写またはAEブラケティングが制限される他の機能の設定がされています。	104
仕上がり設定が設定できない	仕上がり設定が制限される他の機能の設定がされています。	104

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • インターバル撮影中です。 • COOLPIX P500 以外で撮影した動画は再生できません。	– 79 157
連写グループが再生できない	• COOLPIX P500 以外で連写した画像は、連写グループとして再生できません。 • ［**連写グループ表示方法**］の設定を確認してください。	– 145
画像の拡大表示ができない	• 動画やスモールピクチャー、320 × 240 以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。 • COOLPIX P500 以外で撮影した画像は、拡大表示できないことがあります。	–
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • COOLPIX P500 以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラで再生できません。	168 142
画像や動画を編集できない	• ［**画像サイズ**］を 3:2［**3984 × 2656**］、16:9 9M［**3968 × 2232**］、16:9 2M［**1920 × 1080**］または 1:1［**2992 × 2992**］にして撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。 • かんたんパノラマで撮影した画像は編集できません。 • 編集が可能な条件を確認してください。 • COOLPIX P500 以外で撮影した画像や動画は編集できません。	84 – 146 –
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**TV 出力設定**］の［**ビデオ出力**］または［**HDMI**］が正しく設定されていません。 • HDMI ミニ端子と USB/ オーディオビデオ出力端子の両方にケーブルが接続されています。 • 画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときはSDカードを取り出してください。	201 171 26

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
お気に入りフォルダーのアイコン設定が初期設定に戻っていたり、お気に入り登録した画像がお気に入り再生モードで再生できない	内蔵メモリー /SD カード内のデータがパソコンで書き換えられると、表示できないことがあります。	–
撮影した画像がオート分類再生モードで再生できない	• 表示したい画像が、参照している項目とは別の項目に分類されています。 • COOLPIX P500以外で撮影した画像または［**画像コピー**］でコピーした画像は、オート分類再生モードで表示できません。 • 内蔵メモリー /SD カード内の画像がパソコンで書き換えられると、表示できないことがあります。 • 1 つの分類項目で表示できるのは、999 コマまでです。すでに 999 コマ登録されている場合は、それ以降に撮影した画像は登録されません。	129 130 — 130
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transfer 2が自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • 対応 OS を確認してください。 • Nikon Transfer 2 が自動起動しない設定になっています。Nikon Transfer 2 については、ViewNX 2 のヘルプをご参照ください。	23 28 174 — 173 177
カメラをプリンターに接続しても、PictBridge起動画面が表示されない	PictBridge対応プリンターの種類によっては、［**パソコン接続充電**］を［**AUTO**］に設定していると、PictBridge起動画面が表示されず、プリントできない場合があります。［**パソコン接続充電**］を［**OFF**］にしてプリンターに接続し直してください。	202
プリントする画像が表示されない	• 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。 • 内蔵メモリーの画像をプリントするときは SD カードを取り出してください。	26 26
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge 対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」ができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	181、182 —

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P500

項目	仕様
型式	コンパクトデジタルカメラ
有効画素数	12.1メガピクセル
撮像素子	1/2.3型 原色CMOS、総画素数12.75メガピクセル
レンズ	光学36倍ズーム、NIKKORレンズ
焦点距離	4.0–144mm（35mm判換算22.5–810 mm相当の撮影画角）
開放F値	f/3.4–5.7
レンズ構成	9群14枚
電子ズーム	最大4倍（35mm判換算で約3240 mm相当の撮影画角）
手ブレ補正	イメージセンサーシフト方式と電子式の併用（静止画） 電子式（動画）
オートフォーカス	コントラスト検出方式
撮影距離	• レンズ前約 50 cm ～∞（広角側）、約 2.2 m ～∞（望遠側） • マクロ AF 時は約 10 cm ～∞（🌷 マークが緑色になる △マークより広角側のズーム位置）、約1 cm～∞（最も広角側から 3 ステップ望遠側のズーム位置）
AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央、マニュアル（99点）、ターゲット追尾
電子ビューファインダー	カラー液晶ビューファインダー、0.24型TFT液晶、約23万ドット 視度調節機能付き
視野率（撮影時）	上下左右とも約97%（対実画面）
視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
液晶モニター	広視野角3型TFT液晶、反射防止コート付き、約92万ドット 輝度調節機能付き（5段階） チルト式（下方82°、上方90°可動）
視野率（撮影時）	上下左右とも約97%（対実画面）
視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式	
記録媒体	内蔵メモリー（約 102 MB）、 SD/SDHC/SDXC メモリーカード
画像ファイル	DCF、Exif 2.3、DPOF準拠
ファイル形式	静止画： JPEG 音声メモ：WAV 動画：MOV（映像：H.264/MPEG-4 AVC、音声：AAC ステレオ）

<table>
<tr><td colspan="2">画像サイズ
（記録画素数）</td><td>・12 M［4000 × 3000］
・8 M［3264 × 2448］
・5 M［2592 × 1944］
・3 M［2048 × 1536］
・2 M［1600 × 1200］
・1 M［1280 × 960］
・PC［1024 × 768］
・VGA［640 × 480］
・3:2［3984 × 2656］
・16:9（9M）［3968 × 2232］
・16:9（2M）［1920 × 1080］
・1:1［2992 × 2992］</td></tr>
<tr><td colspan="2">ISO感度（標準出力感度）</td><td>・ISO 160、200、400、800、1600、3200
オート（ISO 160 ～ 800）
・高感度オート（ISO 160 ～ 1600）
・感度制限オート（ISO 160 ～ 200、160 ～ 400）</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>測光方式</td><td>マルチパターン測光（256分割）、中央部重点測光、スポット測光、AFスポット測光（99点AF対応）</td></tr>
<tr><td></td><td>露出制御</td><td>プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、AEブラケティング、モーション検知機能付き、露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能</td></tr>
</table>

シャッター	メカニカルシャッターとCMOS電子シャッターの併用
シャッタースピード	オート撮影モード、シーンモード ・1/1500 ～ 2 秒 ・4 秒（シーンモードの［**打ち上げ花火**］） **P**、**S**モード ・1/1500 ～ 2 秒 ・1/1500 ～ 1/2 秒（ISO 3200 固定時） **A**、**M**モード ・1/1500 ～ 8 秒（ISO 160、200 固定時、**A** モードで感度制限オート ISO 160–200 時、**M** モードで ISO 感度オート、高感度オート、感度制限オート時） ・1/1500 ～ 4 秒（ISO 400、800 固定時、**A** モードで ISO 感度オート、感度制限オート ISO 160–400 時） ・1/1500 ～ 2 秒（ISO 1600 固定時、**A** モードで高感度オート時） ・1/1500 ～ 1/2 秒（ISO 3200 固定時） 高速連写 ・1/4000 ～ 1/125 秒（高速連写 120 fps） ・1/4000 ～ 1/60 秒（高速連写 60 fps）
絞り	電磁駆動による6枚羽根虹彩絞り
制御段数	9（1/3 EVステップ）
セルフタイマー	約10秒、約2秒
内蔵フラッシュ	
調光範囲（ISO感度設定オート時）	約0.5～8.0 m（広角側） 約2.2～4.5 m（望遠側）
調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
インターフェース	Hi-Speed USB
通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
HDMI出力	オート、480p、720p、1080i から選択可能
入出力端子	オーディオビデオ出力/デジタル端子（USB）、HDMIミニ端子（HDMI出力）
言語	日本語、英語の2言語
電源	・Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池：付属）× 1 個 ・AC アダプター EH-62A（別売）
充電時間	約4時間50分（本体充電ACアダプター EH-69P使用時、残量のない状態からの充電時間）

撮影可能コマ数(電池寿命)※	約220コマ（EN-EL5使用時）
動画撮影可能時間(電池寿命)	約1時間20分 （［**HD 1080p★(1920×1080)**］、EN-EL5 使用時）
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）
寸法（幅×高さ×奥行き）	約115.5×83.7×102.5 mm（突起部除く）
質量	約494 g（バッテリー、SDメモリーカード含む）
動作環境	
使用温度	0℃～40 ℃
使用湿度	85%以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは、すべて常温（25 ℃）、リチャージャブルバッテリー EN-EL5をフル充電で使用時のものです。

※ 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2) ℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［**NORMAL**］、画像サイズ［**4000×3000**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動します。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	DC 3.7 V、1100 mAh
使用温度	0℃～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約36×54×8 mm（突起部除く）
質量	約30 g（端子カバーを除く）

本体充電ACアダプター EH-69P

電源	AC 100～240 V、50/60 Hz、0.068～0.042 A
定格入力容量	6.8～10.1 VA
定格出力	DC 5.0 V、550 mA
使用温度	0℃～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約55×22×54 mm
質量	約55 g

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.3：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

マーク・英数字

ア

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を下記の当社ホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/support/

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行
FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日： 年 月 日	
お買い上げ日： 年 月 日	
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅 □会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名：	
メモリー容量：	ハードディスクの空き容量：
OS のバージョン：	ご使用のインターフェースカード名：
その他接続している周辺機器名：	
ご使用のアプリケーションソフト名：	
ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30〜18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み

下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/support/repair/

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け･修理品のお引き取り、修理後のお届け･集金までを一括して提供するサービスです。

0120-02-8155

営業時間：9：00〜18：00（年末年始12/29〜1/4を除く毎日）
※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。
修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30〜17：30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan

FX1B02(10)

6MM00210-02